42900
教科書文庫
4
291
44-1941
20000
44851

Kodak Gray Scale
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

守屋荒美雄著
經濟學士
守屋美智雄補訂
新令準據
實務新選地理
日本篇
修正版

文部省檢定濟
昭和十六年十一月十三日 實業學校地理科
資料室

教科書文庫
4
291
44-1941
2000044851

守屋荒美雄著
經濟學士
守屋美智雄補訂

新令準據

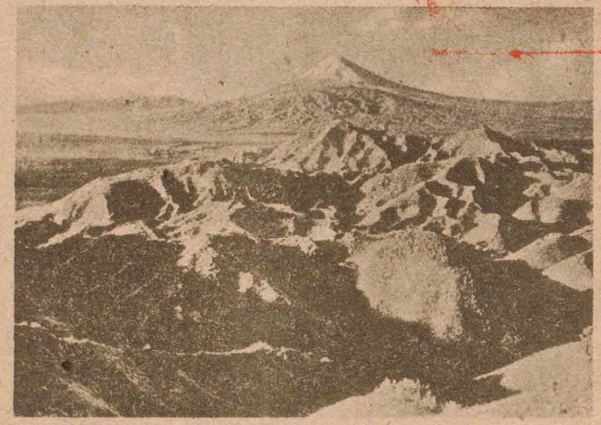
實業新選地理

日本篇

修正版

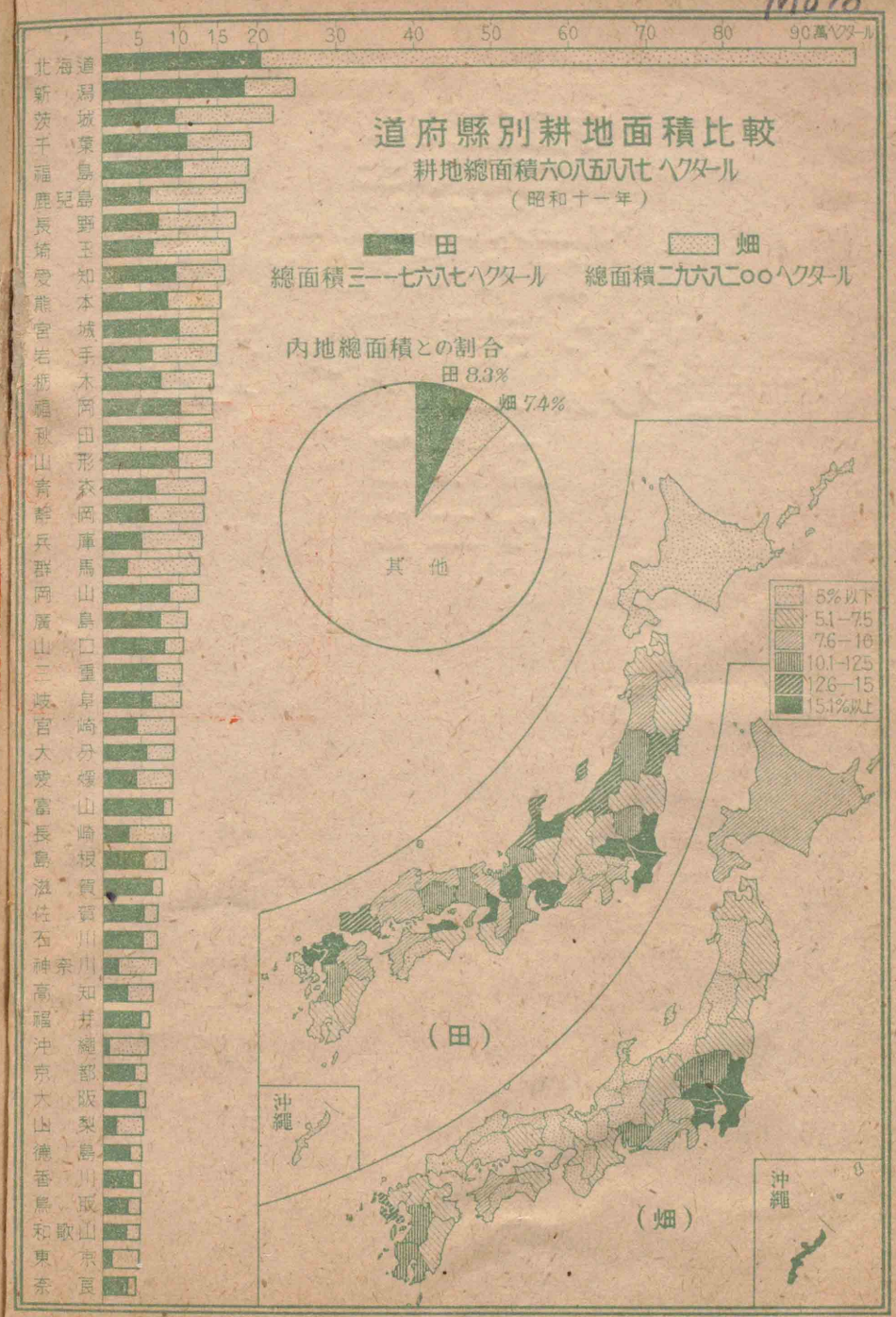
廣島大学教
44851
図

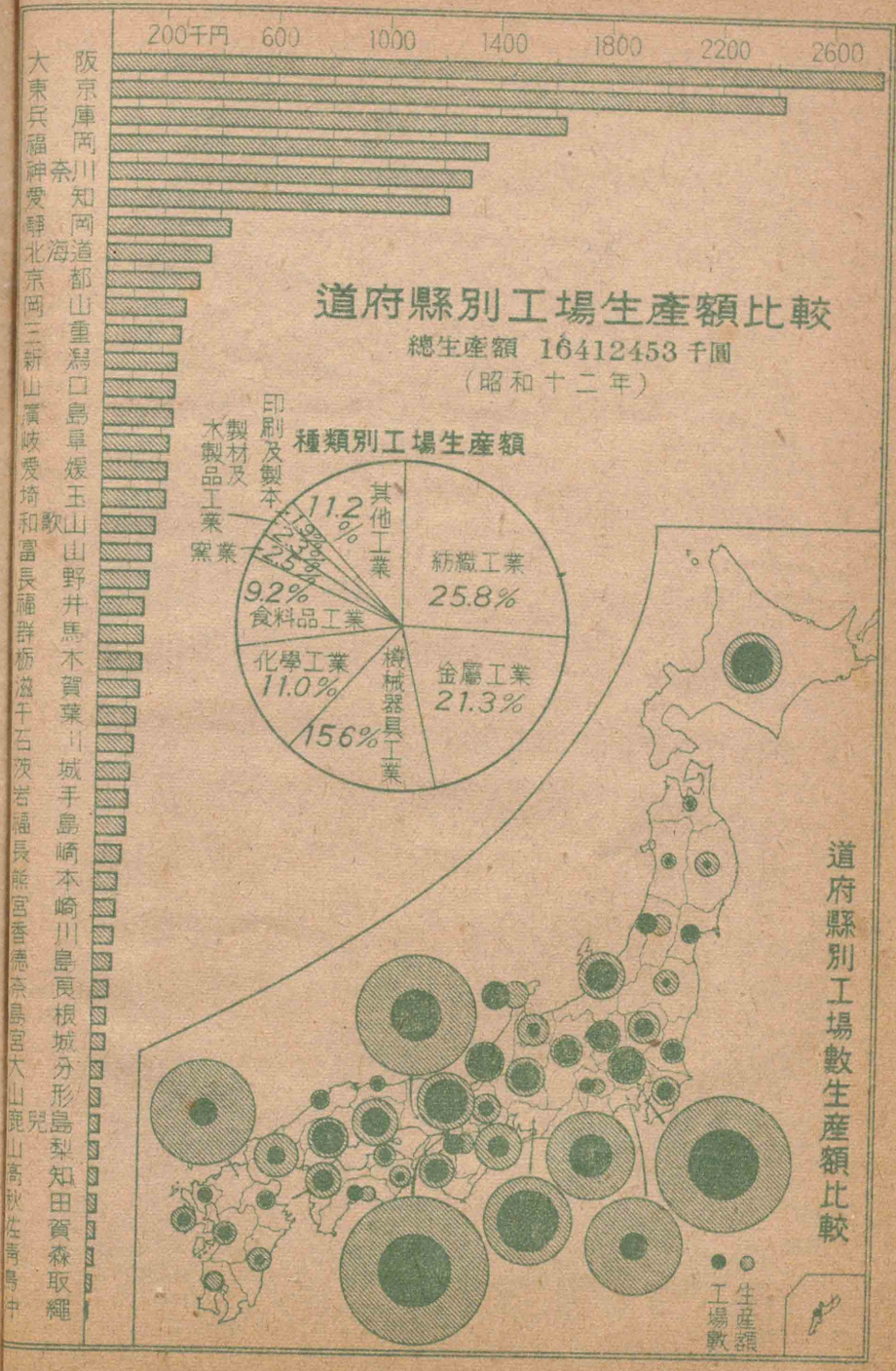
広島大学図書



富士山の遠望(赤外線寫眞)

375.9
Mo18





例言

本書は昭和十二年三月改正された實業學校地理科教授要目に準據して編纂したもので、別に著した實業新選地理 外國篇 同 概說篇 と姉妹篇をなすものである。

凡そ日本地理教育の目的は、我が優秀な國民が、其の國土を利用開發して、日本獨特の文化を形成した所以を知らしめ、我が國の現狀を理解せしめて、國民精神を涵養し、更に國家の興隆と民族の發展とに貢獻する知性を陶冶するにある。實業學校の地理教育に於ては、特に國民の經濟活動が直ちに國家の繁榮に影響する點を指摘し、積極的の自然利用と商工業的活動とによつて、我が日本の世界的地位を高揚しなければならない點を強調する必要がある。

本書はこの要望に副はんことを期し、編纂上に於ては特に次の諸項に留意した。

一、初等教育と密接な連繫を保ち、其の基礎的知識を培養育成して、これを組織化し、綜合化することに努めた。

二、各地域は其の自然と住民との交互的接觸によつて、文化景觀にも各〻特色がある。故に各小地理區の特性を明らかにし、これを綜合して各地方の特性を知り、更に國家にこれを纏めて、我が國の特異性を十分に認識せしめるやう說述した。

三、近時我か國の產業の勃興は實に躍進的で、世界の驚異となつてゐる。實業地理に於ては特に此の方面を正しく把握し、將來活動の基盤とする必要があるので、自然に關する記述はこれを簡略にして、產業の事項を詳述した。又產業に就いては深く研究と調査とを遂げ、一定の規準を立てて、これに該當するもののみを揭げ、從來の教科書に見られない新興產業の說述に努めた。

四、說述に當つては羅列的記載を避けて、勉て景觀的記述法を採り、地域性の把握に便ならしめ、文章も能ふ限り平易を旨とし、而も直截簡明にし、景觀的挿畫の挿入と併せて、學習能率を高めることに留意した。

五、地理的用語は可及的にこれを整理して、實業教育に必要の最少限度に止め、其の提示は學習者の發達段階に卽應するやうにし、又適切な讀圖材料を多く採入れて、地理的觀察眼を養ひ、種々の地理的作業に便ならしめた。

本書の編纂に關して多大の援助を賜はつた陸地測量部、各新聞社、國勢社、中等學校教官諸賢に對して深甚なる謝意を表する。

昭和十五年十月

補訂者識

目次

第一編　緒論……一
第二編　地方誌……一三
第一章　關東地方……一三
第二章　奥羽地方……一九
第三章　中部地方……三三
第四章　近畿地方……三三
第五章　中國地方……五三
第六章　四國地方……六九
第七章　九州地方……八一
第八章　臺灣地方附新南群島……九七
第九章　南洋群島地方……一一九
第十章　北海道地方……一二三
第十一章　樺太地方……一三五
第十二章　朝鮮地方……一四一
第十三章　關東州地方……一五三
第三編　總括……一五七
第一章　自然的條件……一五七
第二章　人文的特性……一五九
第四編　結論……一八五
鄉土地理の研究……一一四
日本地理統計表……一一八

南島大學圖書之印

新令準據實業

新選地理

日本篇　修正版

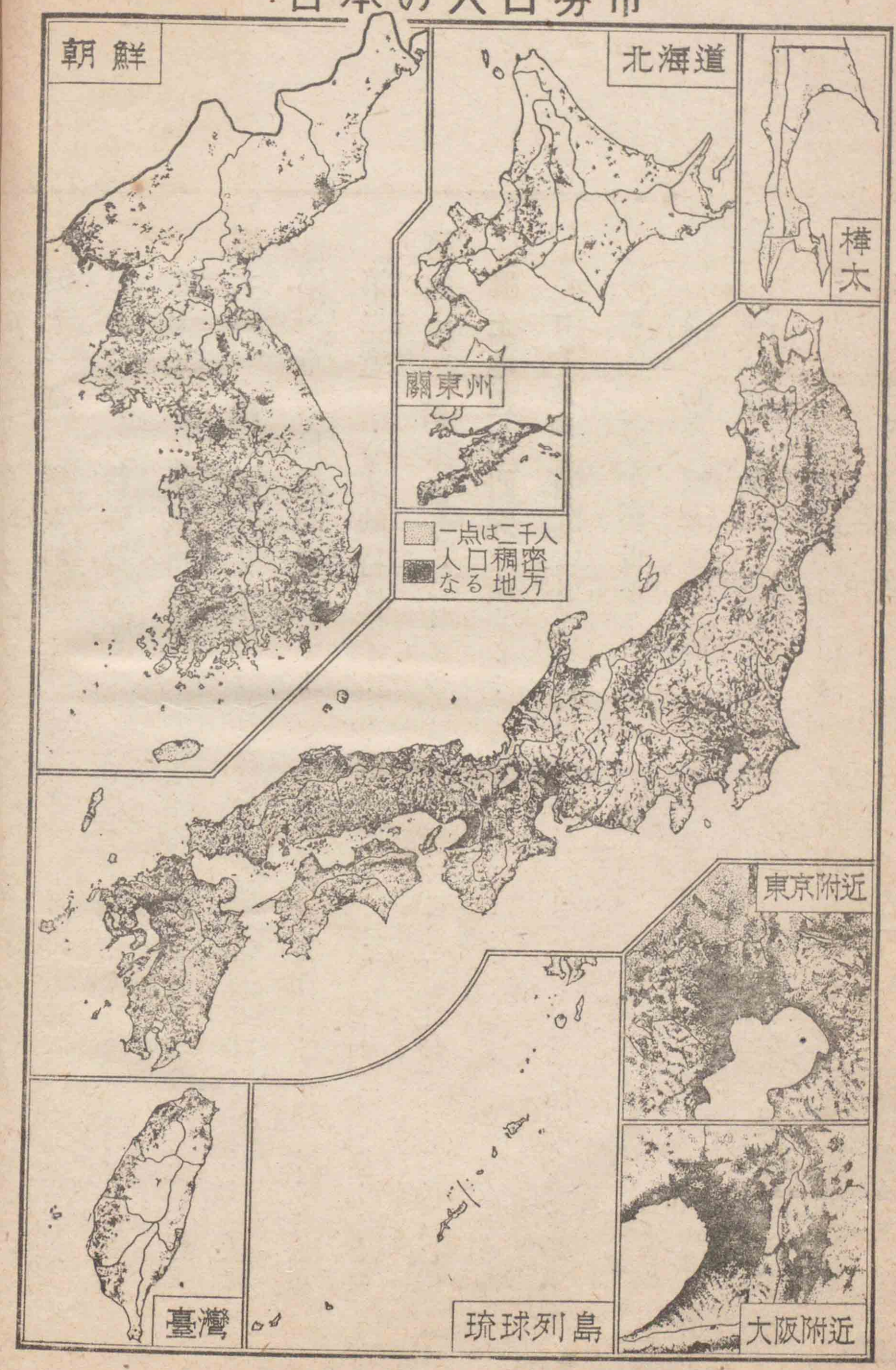
第一編　緒論

境域（キヤウヰキ）　我が國は、アジア大陸の東の日本列島と、朝鮮半島と、關東州と、南洋群島及び新南群島とから成つてゐる。

特殊國家（トクシュコクカ）　國民は優秀な大和民族からなり、萬世一系の　皇室を戴いて、古くから世界に比べもののない美しい國を建ててゐる。

無窮發展（ムキュウハッテン）（おはりなくのびてゆくこと）　其の上大陸に對するよい位置を占め、皇祖の御神勅其の儘に國勢は無窮に發展して、領土も次第に增し、

南島大學圖書之印



州・四國・九州

外地

日清戰役後の領土、臺灣・南樺太・朝鮮・關東州・南洋群島・新南群島

今は**內地・外地**を合せ、面積六十八萬方粁、人口一億となつた。

地理の學習　實業學校の日本地理は、このやうに勝れた日本がどうして出來たかを究め、我が特殊な國柄（クニガラ）を理會すると共に、今後實業家の進むべき道を、はつきりと知るために學ぶのである。

幾內	山城	大和	河內	和泉	攝津		
東海道	伊賀	伊勢	志摩	尾張	三河	遠江	駿河	甲斐
	伊豆	相模	武藏	安房	上總	下總	常陸	
東山道	近江	美濃	飛驒	信濃	上野	下野	磐城	岩代
	陸前	陸中	陸奧	羽前	羽後			
北陸道	若狹	越前	加賀	能登	越中	越後	佐渡	
山陰道	丹波	丹後	但馬	因幡	伯耆	出雲	石見	隱岐
山陽道	播磨	美作	備前	備中	備後	安藝	周防	長門
南海道	紀伊	淡路	阿波	讚岐	伊豫	土佐		
西海道	筑前	筑後	豐前	豐後	肥前	肥後	日向	大隅
	薩摩	壹岐	對馬	琉球				
北海道	渡島	後志	石狩	天鹽	北見	膽振	日高	十勝
	釧路	根室	千島					

けわ國の昔

第二編　地方誌

第一章　關東地方

面積三、二二六方粁
人口一、六八六萬人
人口密度五二三人（一方粁）

一　自然

位置

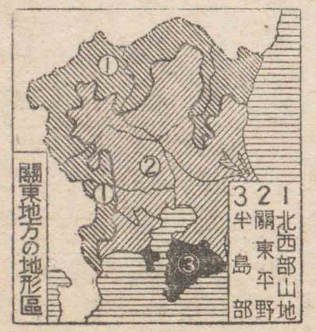
(一)位置　我が本土のほぼ中央部に當り、政治の上からも、產業の上からも、軍事の上からも、中心となるべきよい位置を占める。

地形

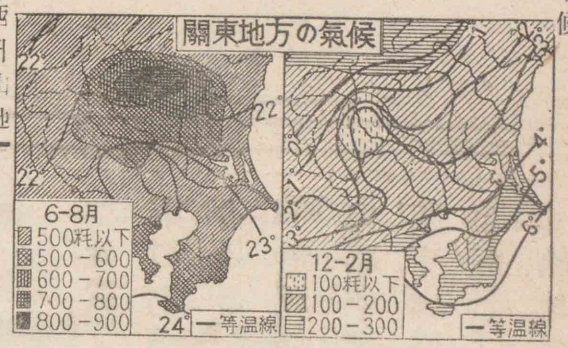
(二)地形　(1)北部に阿武隈・帝釋（タイシャク）・三國の三山脈が、那須火山脈と共に連なり、西部に關東山脈と、富士火山脈とが走つてゐる。

(2)南部には房總・三浦の兩丘陵（キウリヨウ）が連なり、

(3)山地と丘陵との間には廣い關東平野が開けてゐる。か



氣候



北・西部山地

くて、圖のやうな三地形區に分けることが出來る。

(三) 氣候　近海には日本海流が流れ、ために半島部は極めて暖く避寒に適する。一般に夏季は南東季節風が吹いて雨量が多く、冬季は北西季節風が吹いて凩（カラカゼ）が多い。日光・赤城・榛名等の山地は冷涼な山地氣候で、避暑に適する。

二　原始産業

(一) 北・西部山地　阿武隈山脈の一部に常磐炭田があつて茨城・高萩等の炭坑が連なり、炭質はよくないが、兩毛・長野の機業地及び京濱の工業地に送られる。其の南部の日立からは、銅・金・銀鑛を產し、太田では大理石、筑波山附近では花崗岩を產する。足

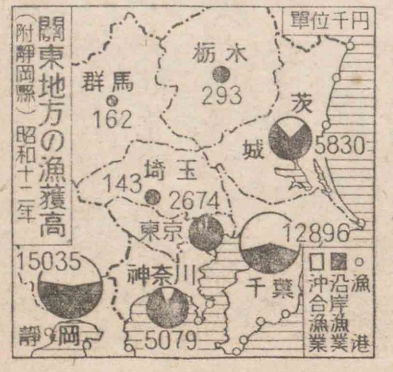
半島部

業漁岸沿の濱里九十九

尾山塊では銅・金・銀鑛が採掘され、大谷（オホヤ）から採掘する**凝灰岩**はこの地方の土木建築材として賞用せられる。尚青梅では石灰石、根府川（ネブカハ）では火山岩の**石材**を產する。

日立は各地から買入れる鑛石をも、併せて精錬するので、金・銀は內地第一の產額がある。**足尾**は慶長年間に始つた銅山で、其の銅は江戸城の築造にも用ひられ、今は別子と共に我が國の二大銅山である。

(二) 半島部　近海は魚族に富んでゐる上、京濱の大需要地を控へてゐるから漁業の發達を促し、九十九里濱の**沿岸漁業**は衰へたが、銚子及び半島部の漁港を根據とする**沖合漁業**で、鰹（カツヲ）・鮪（マグロ）・鰯（イワシ）を漁獲し、鰹節・鰯の煮干・搾粕（シメカス）等が



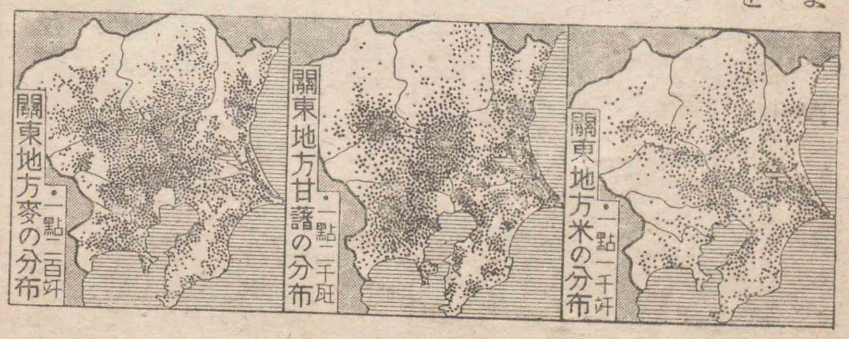
作られる。又岩石海岸は、鯛や貝類のよい繁殖場となつてゐる。溫暖な氣候を利用して、野菜の促成栽培を行ひ早期の野菜を京濱地方に送る。又枇杷の產が多く、京濱の果物店を飾る。乳牛は半島南部に多く、乳製品を東京に供給してゐる。

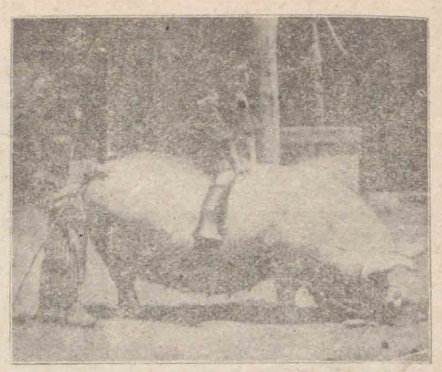
關東南部の臺地

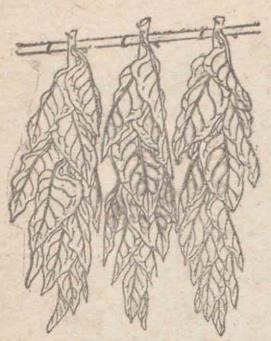
濟可許部令司塞要灣京東號八五第乙地年六十和昭

(三) 關東平野

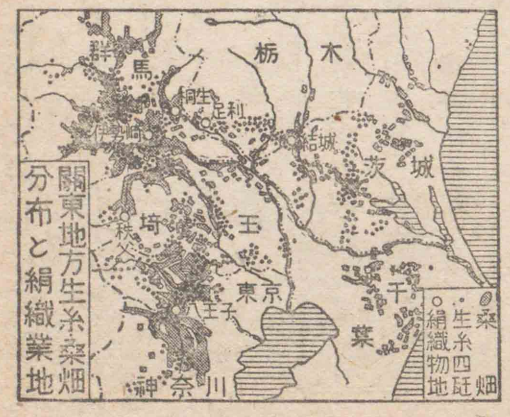
那珂・利根・多摩・相模等の川筋の灌漑のよい低地には、米田が連なり、臺地には火山灰に被はれた畑地が廣く連なつて、盛に麥作が行はれ、大麥・小麥の產が多い。



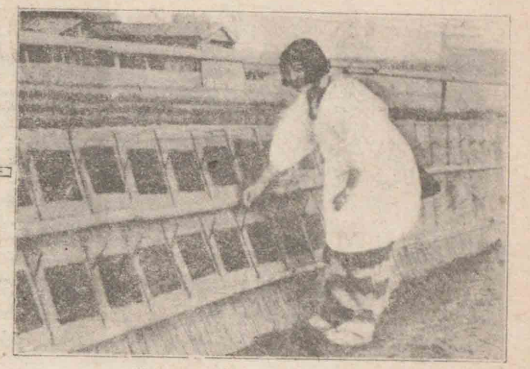

豚養の縣川奈神


燥乾の草煙葉

茨城縣に大豆、千葉・神奈川兩縣に落花生、武藏野・常總兩臺地に甘藷、狹山附近に茶畑の多いのは、共に臺地の特殊景觀で、京濱工業聚落の周りに、野菜栽培・溫室栽培・養禽・養豚が盛なのは都市附近の共通景觀である。常總臺地の南部には三里塚の牧場があり、又雜木林が廣く連なつて、京濱に薪炭を送る。北・西部の山麓帶は畑が廣く、茂木・烏山・太田・秦野一帶は煙草を作る。栃木縣は大麻の畑が多く、西部の山麓地方は桑畑が連なり、主な養蠶地帶である。淺い



關東地方生糸・桑畑分布と絹織業地



淺草の乾燥海苔

東京灣の北部では、海苔や貝類を養殖してゐる。淺草海苔は、塵芥・汚水の注ぐ淡水まじりの東京灣の淺海が養殖に適し、土産物産業としては全國最大である。又國民の好みに合ひ、遊覽客の多い東京の特産であるため賣行を高め、今は全國から原料を移入してゐる。

農業（米・大麥・小麥・甘藷・大豆・落花生・茶・煙草・大麻・野菜・花卉・栽桑・養蠶）　牧畜（乳牛・豚・鷄）　林業（薪炭）
水産業（鰯・鮪・鰹・海苔・貝類）　鑛業（銅・金・銀・石炭・石材）

二　交通

陸運

(一) **陸運**　古來東海道は箱根、中山道は碓氷、陸羽街道は白河、甲州街道は小佛、濱街道は勿來等、それぞれ周圍の要地を通つて東京に集つてゐた。

今も、東海道・中央・信越・高崎・上越・東北・常磐の諸線は、清水・丹那等の大トンネルや、碓氷峠のアプト式軌道等によつて、東京に集る。尚、總武・房總・成田・水戸・兩毛・八高等の鐵道も完備してゐる。

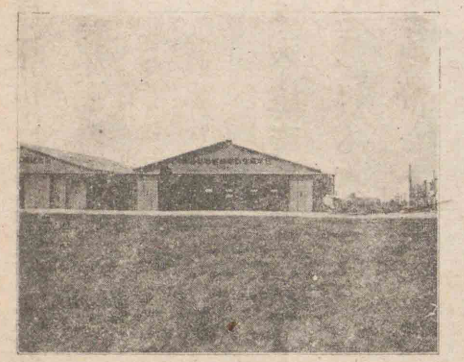
(二) **水運**　横濱を中心として内外の諸港に通じ、帝都には、東京港がある。利根川・江戸川・霞浦・北浦は、特に重要な内陸水路である。

(三) **空運**　定期航空路も亦、東京（羽田）を中心として、大阪・新潟・富山・札幌方面に通じてゐる。

(四) **其の他**　鎌倉から敷設した海底電線は小笠原諸島の父島で、米國線と接續する。東京無線電信局は、送

關東地方主要街道

水運
空運
其の他



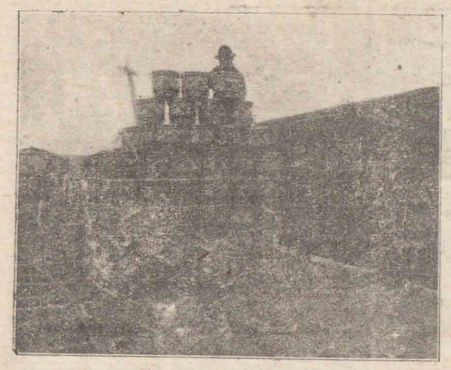
東京飛行場

信所を栃木縣の小山及び千葉縣の檢見川に、受信所を埼玉縣の福岡・岩槻に置く對米・對歐の大無線電信局である。

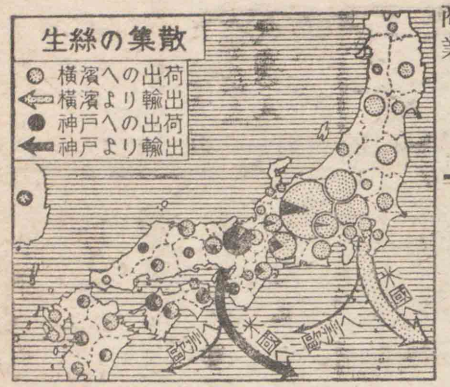
三　工業　商業

(一)工業

前に記した通り關東平野は大生産地である上、水力電氣に惠まれ、又常磐炭田を控へ、交通にも惠まれてゐるから、其の中心は京濱工業地帶となり、綿絲・綿織物・機械・金屬・肥料・洋紙・麥酒・セメント・藥劑・印刷物・軍需品等の大工場が連なつてゐる。延いて附近にも市川の洋紙・モスリン、船橋の小麥粉、川口の鑄物・麥酒、大宮の鐵道等の工業が起つてゐる。水質がよく原料の豐富な、利根川・江戸川の河畔の野田・銚子・市川・流山・石岡地方は、醸造地帶となつた。北部の炭田地方の高萩に人絹、人纖、日立に機械工業が起り、北西山麓の養蠶地帶には、機業・製絲地の足利・桐生・伊勢崎・富岡・秩父・本庄・深谷・熊谷・八王子等が竝び、千葉縣の茂原一帶には、天然ガス利用の硝子・電球等の工業、甘藷の多い千葉には酒精醸造が起り、尚太田の飛行機、鹿沼の麻製品、高崎の板紙・セロファン、忍の足袋の製造も著れる。



送輸油醬の子銚



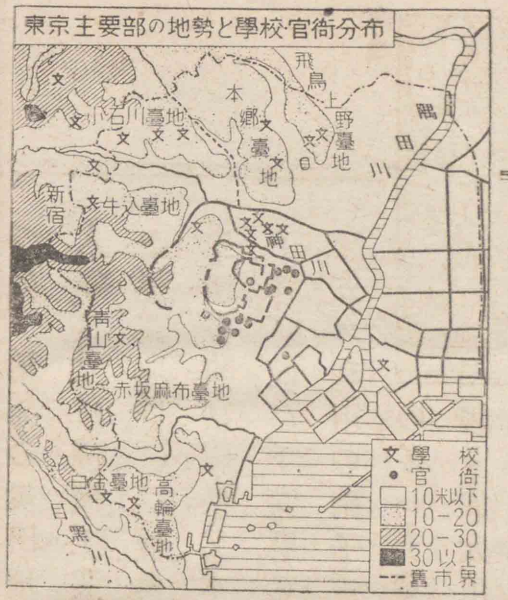
(二)商業

東京は産業の發達、交通機關の整備によつて、商業が榮え、大阪に對して、內地の東半を商圈とする。横濱は生絲・絹織物の大輸出港で、神戸・大阪と共に、我が國の三大貿易港である。

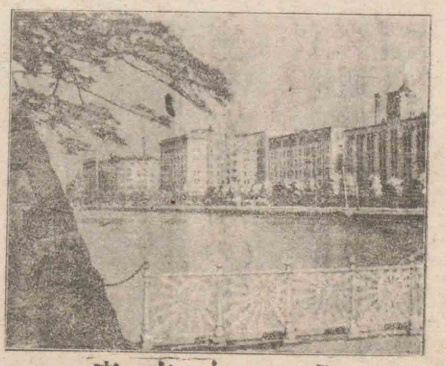
千葉の酒精醸造工場

四處誌

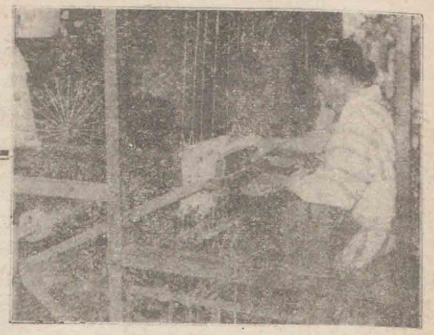
東京府
二、一四五方粁
六三七萬人
二、九七〇人



東京府 平野部 **東京市**（五八九・六）は我が國の首府で、政治・經濟・學術・工業・交通等の大中心をなし、臺地の山ノ手は住宅・官衙區で、低地の下町（シタマチ）は商工業區である。中心部の霞ヶ關・丸ノ内は、役所や會社が多く、晝夜により人口を著しく異にする。其の他、大審院・控訴院・帝國議會議事堂・帝國大學・外國大公使館等があり、公園・社寺も多く、内外の遊覽客が集る。



東京丸ノ内



八王子附近の機織

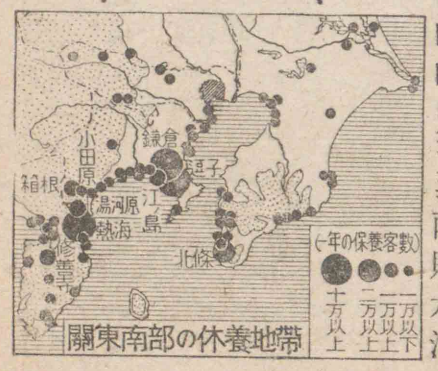
神奈川縣
二、三五三方粁
一八四萬人
七八二人

東京港 東京は東京港が完成したので、其の岸壁には大汽船が横付となり、商港としての取引高も多くなつた。國内向の貨物のみならず、横濱港の代港として、海外との取引も最近數年間に六、七倍の增加を見せてゐる。

立川市（タチカハ）（三・五）は東京郊外の新工業地を代表し、**八王子市**（五・九）は、山麓の養蠶・機業地を代表する。

西部山地 **淺川**（〇・五）には多摩御陵があり、高尾山は村山・山口（埼玉）兩貯水池と共に遊覽地である。

神奈川縣 平野部 **川崎市**（一七・二）は新興工業市、**横濱市**（八七・〇）は工業地、又東京の外港で、東日本の大關門である。湘南（シャウナン）地方は京濱に近く、史蹟に富み、氣候がよく、**鎌倉市**（三・七）・**逗子**（一・八）・**江ノ島**・**藤澤市**（三・七）・**平塚市**（三・八）・**小田原市**（五・五）等の休養・遊覽地がある。



關東南部の休養地帶

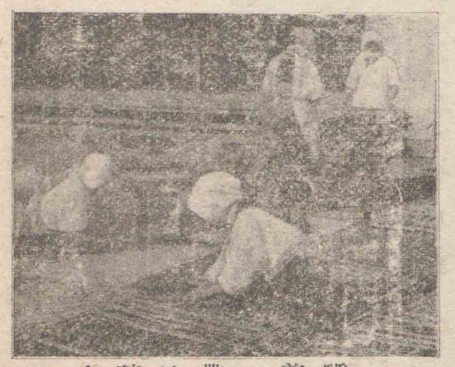
千葉縣 五、〇六二方粁 一五五萬人 三〇五人

埼玉縣 三、八〇三方粁 一五三萬人 四〇二人

群馬縣 六、三五六方粁 一三四萬人 一九六人

西部山地 避暑・遊覽地の國立公園箱根がある。**半島部** 橫須賀市の軍事地、浦賀の造船地等がある外、一帶は漁業區となつてゐる。

千葉縣 **平野部** 臺地は軍用地に利用され、**千葉市**・**市川市**・**船橋市**は東京市と關係が深い。河畔部の**佐原**・**野田**・**銚子市**・**流山**等は、醸造地帶を代表してゐる。**半島部** **木更津**・**館山市**は、漁業・休養區を代表する。


蠶養の帶地麓山

埼玉縣 **平野部** **川口市**・**浦和市**・**大宮市**の一帶は、京濱工業地帶の續きで、**川越市**・**熊谷市**・**本庄**・**忍**・**秩父**は、山麓の養蠶機業地を代表する。

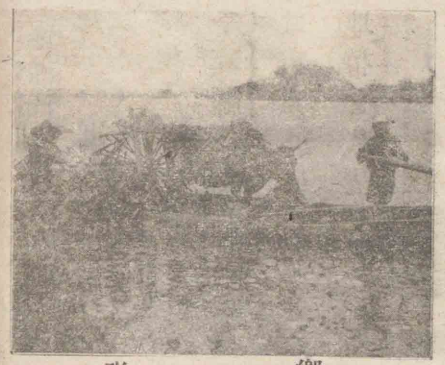
群馬縣 **平野部** **高崎市**・**前橋市**・**伊勢崎市**・**桐生市**は山麓の養蠶機業地帶を代表す

る。

北部山地　火山や溫泉（伊香保・草津・四萬）が多く、避暑・遊覽地である。

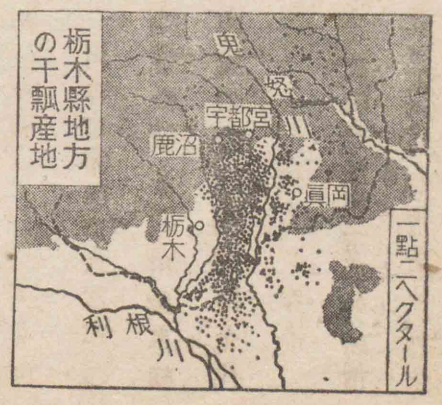
栃木縣　平野部　山麓地帶の養蠶・機業地域には足利市・佐野・栃木市・鹿沼があり、小山は交通の要地、宇都宮市附近に干瓢の產がある。

北部山地　國立公園の日光や、鹽原・那須の溫泉地、足尾の鑛業地が開けてゐる。



鄕　水

茨城縣　平野部　結城は紬產地、土浦市・石岡は釀造地である。利根下流・霞ヶ浦・北浦の水鄕地方は低地で、水鄕の特殊景觀を呈し、霞ヶ浦に公魚・白魚の產がある。水戸市は濱街道の城下町で、太田と共に



煙草を產する。

北部山地　常磐炭田の南部で、鑛業區をなし、日立市・高萩は工業地である。

南方諸島　伊豆・小笠原の諸島・硫黃列島・南鳥島等の總稱で東京府に屬し、高溫多雨の亞熱帶海洋性氣候である。

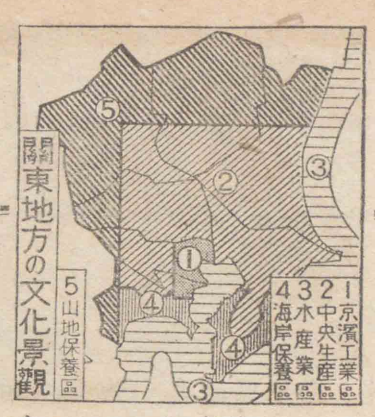
伊豆諸島　大島には活火山の三原山があつて、氣候もよく、遊覽地となつてゐる。其の裾野で牧牛が行はれ、バターを產する。八丈島は養蠶・牧牛が盛で、八丈絹・椿油を產する。

小笠原諸島　甘蔗・甘藷・バナナ・パイナップルを產し、又珍しい海龜・信天翁・大蝙蝠がゐる。冬期に蔬菜類を東京に送る。大村は、海底電線の仲繼所で、奥村に歸化人がゐる。

硫黃列島　は三つの火山島からなつて、甘蔗が作られ、南鳥島は珊瑚島で、鳥毛の採取が行はれる。

翁天信

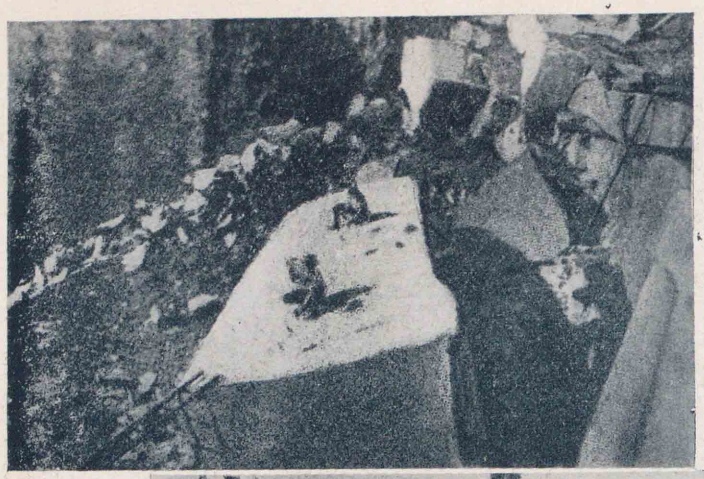
五　生活　特性



(一)人口密度は我が國最大で、尙他の地方から、人口を吸收しつゝある。其の中心は京濱工業地域で、これを遠ざかるにつれて疎(マバラ)となるが、山麓の養蠶・絹織業(ケンショクギョウ)地は、又密である。

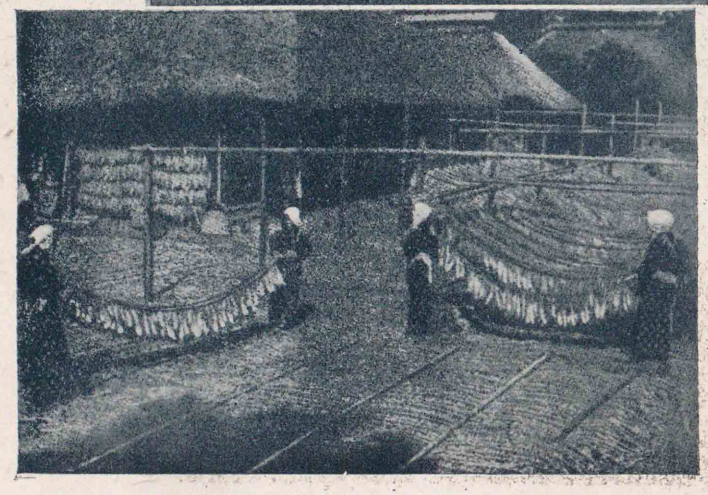
(二)東京の周圍には、野菜栽培の聚落、其の次に米・麥栽培の聚落があり、海岸に漁村、山麓に機業聚落があつて、共に大生產地區をなしてゐる。又房總・湘南(ショウナン)及び火山地方は、京濱人士の休養地帶・週末旅行地となり、大東京を中心として互に深い關係を保つてゐる。

富士の麗容を仰ぎつゝ身體の鍊磨に勤しむ小國民

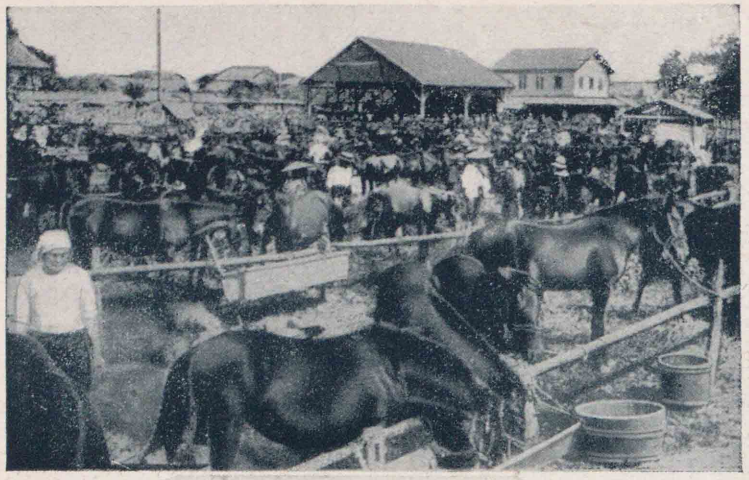


筑波山附近の石切場

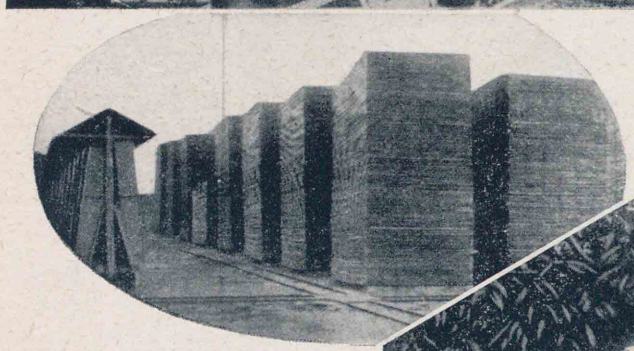
野田の醤油醸造工場
（樽の洗滌作業）



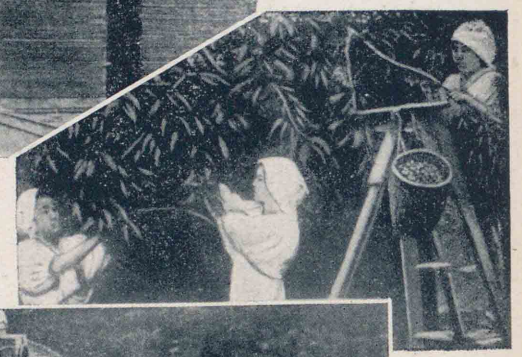
秦野の煙草乾燥



盛岡の馬市

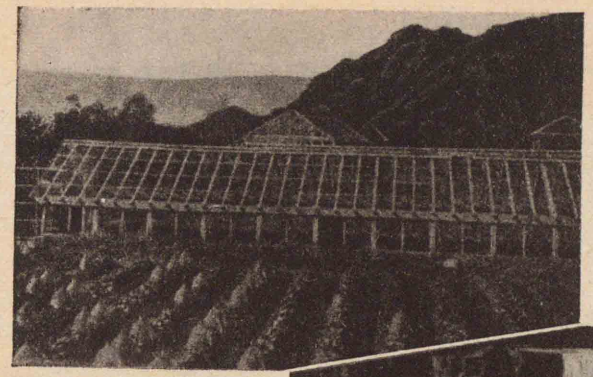


山形縣下の櫻桃採收

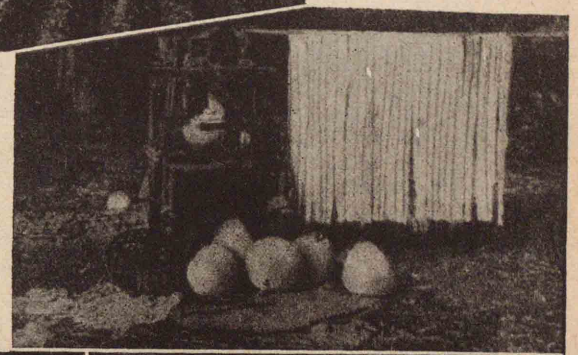


秋田杉材の乾燥

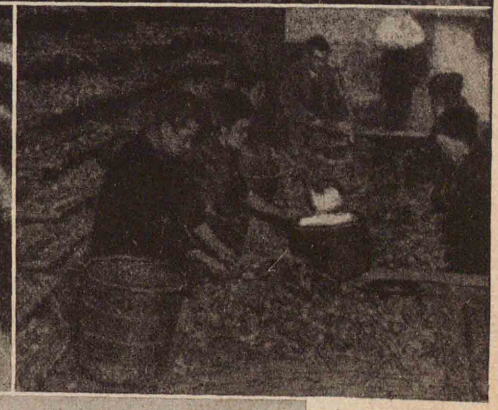
青森苹果の運搬



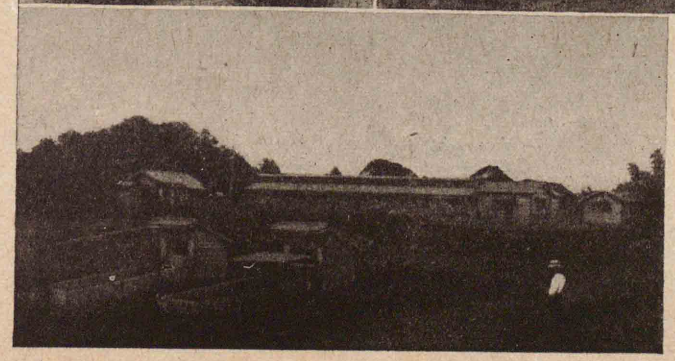
房總半島の促成栽培



栃木縣の干瓢製造



東京灣に於ける淺草海苔の採取

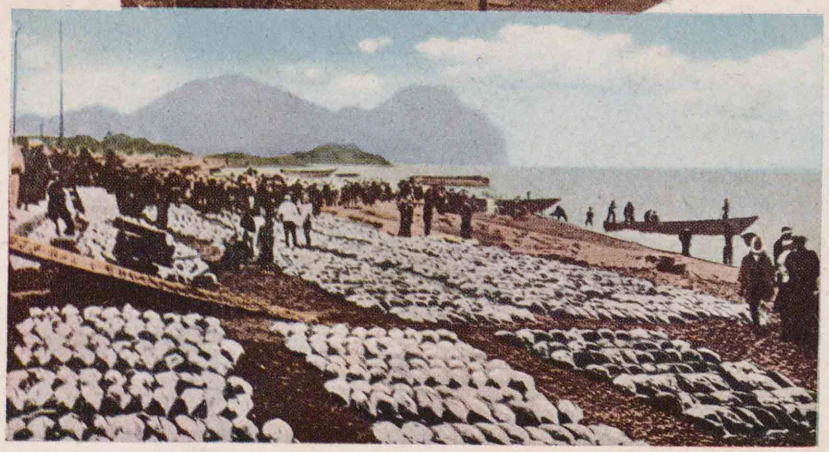


蘭收

千葉縣の養豚

靜岡縣の茶摘み

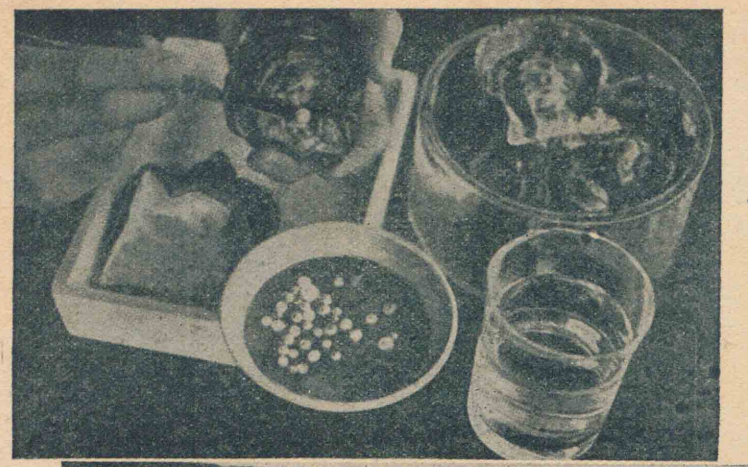
山梨縣の葡萄園



燒津の鰹漁

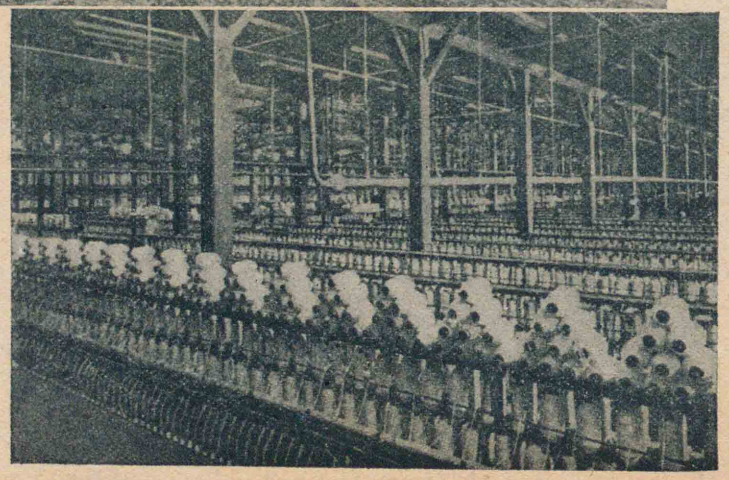
馬部南と山手岩

園果苹と山木岩



養殖眞珠

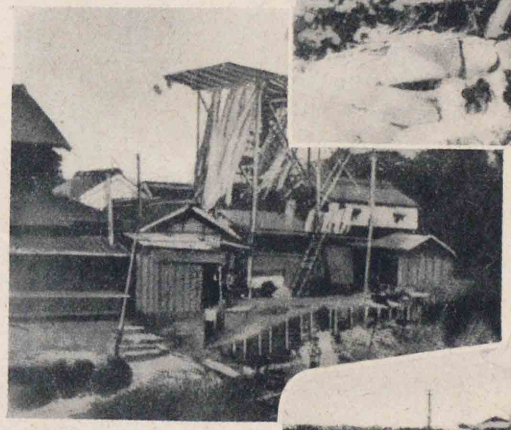
赤穂鹽田



大阪の紡績工場

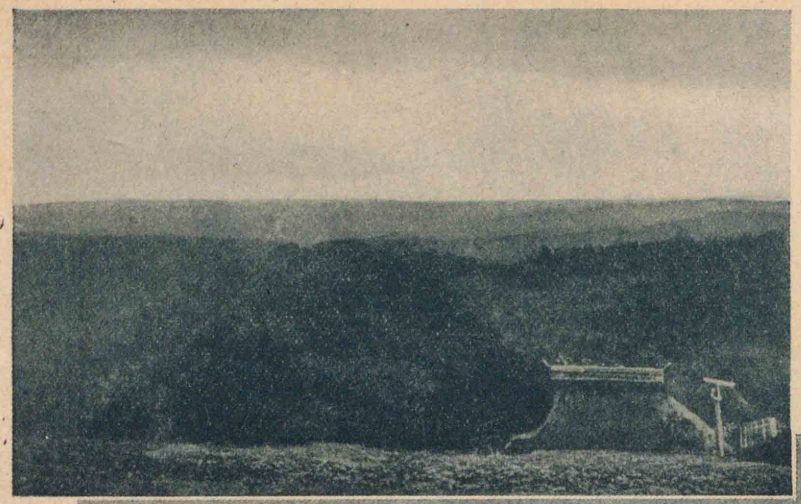
廬山南能久の苺栽培

有松絞の乾燥

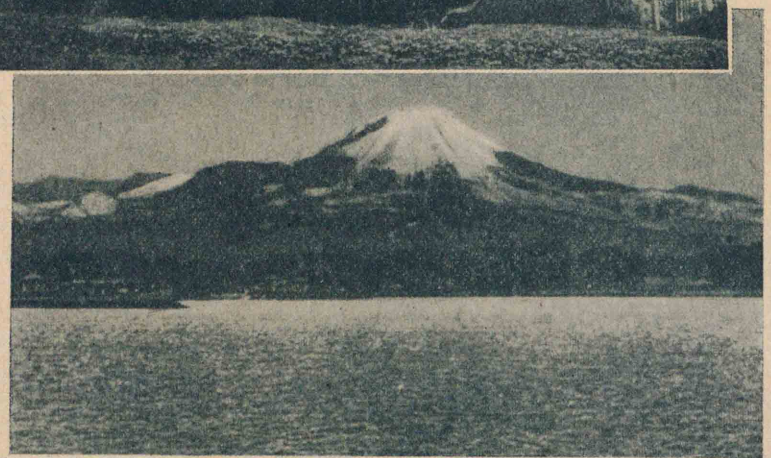


越後平野のチウリップ栽培

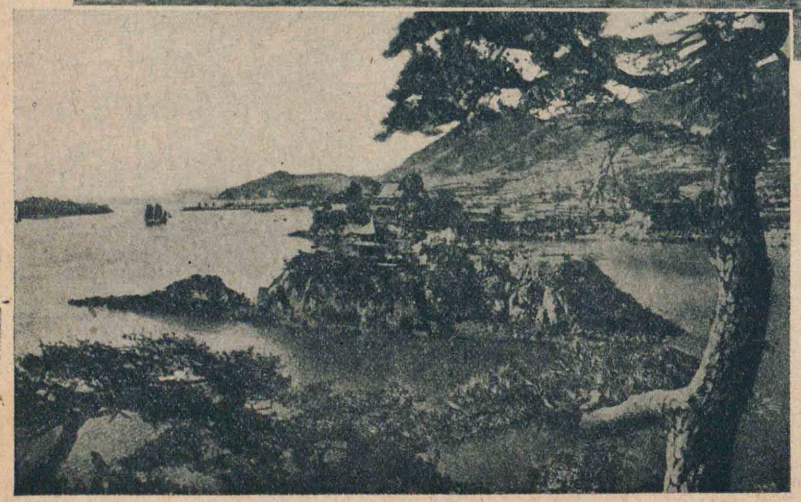
湖名濱鰻の養



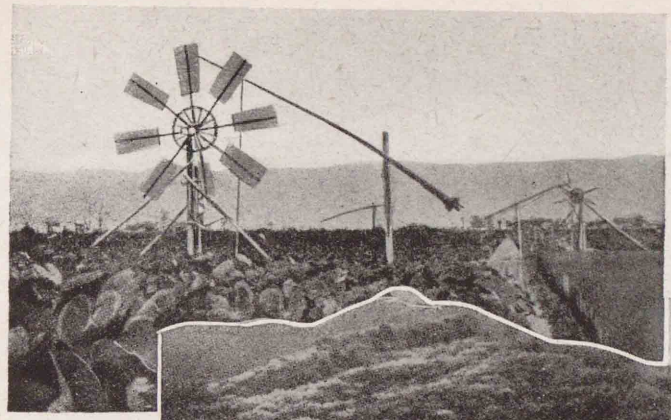
中國山脈の一景觀



大山



瀨戶內海（鞆附近）



大阪平野の野菜灌漑

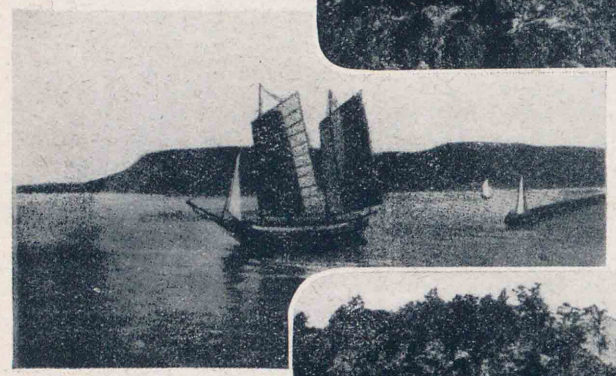
和歌山縣の梅林

有田川流域の密柑山と蜜柑搬出

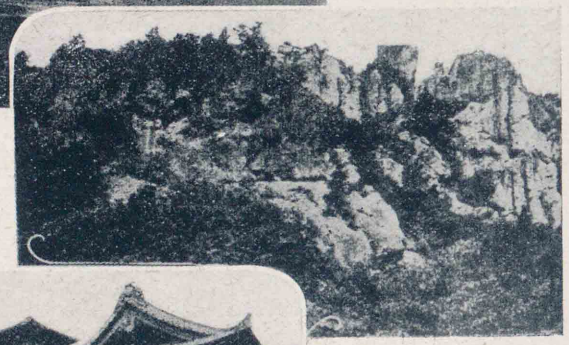
京都の竹林

大歩危

室戸崎



寒霞渓

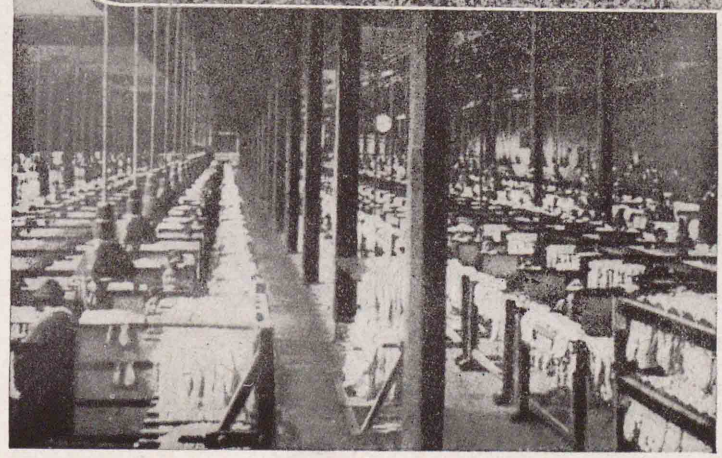


屋島

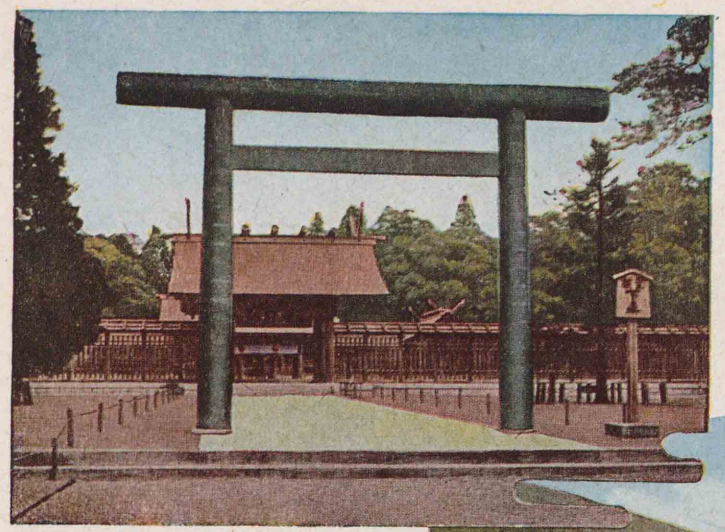
道後温泉

蔭草刈取

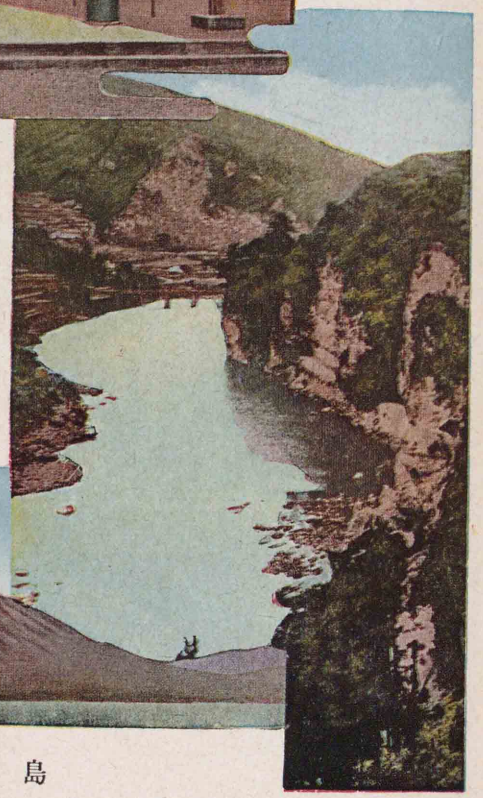
中國山地の牧牛



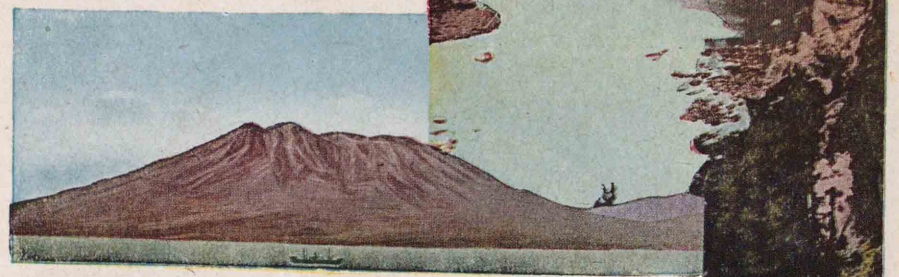
岩國の人絹工場



宮崎神宮

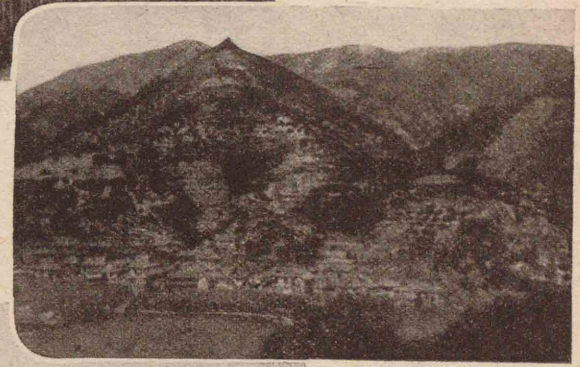


耶馬溪

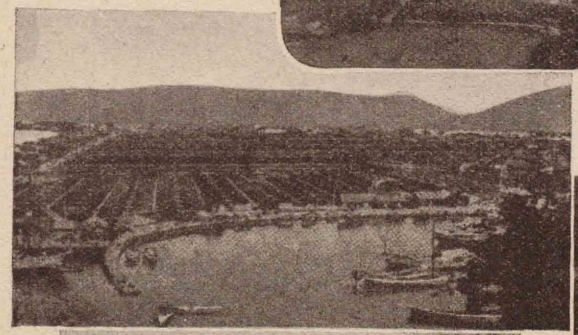


櫻島

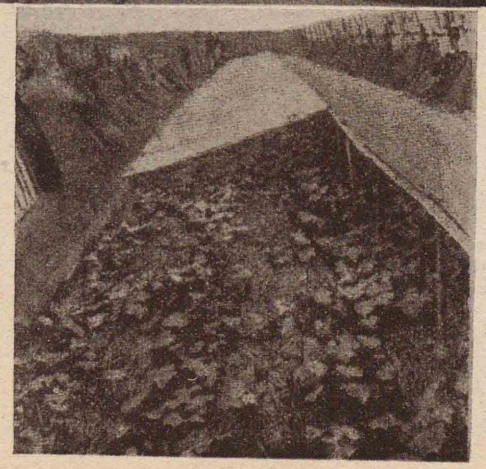
讃岐平野の麥秋



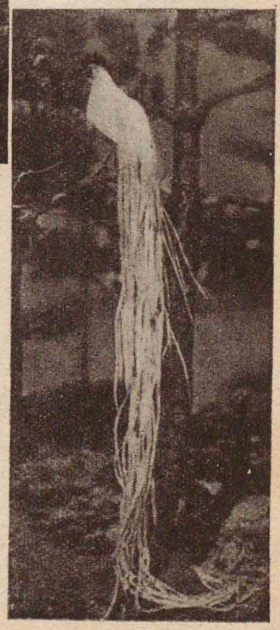
愛媛縣の蜜柑山



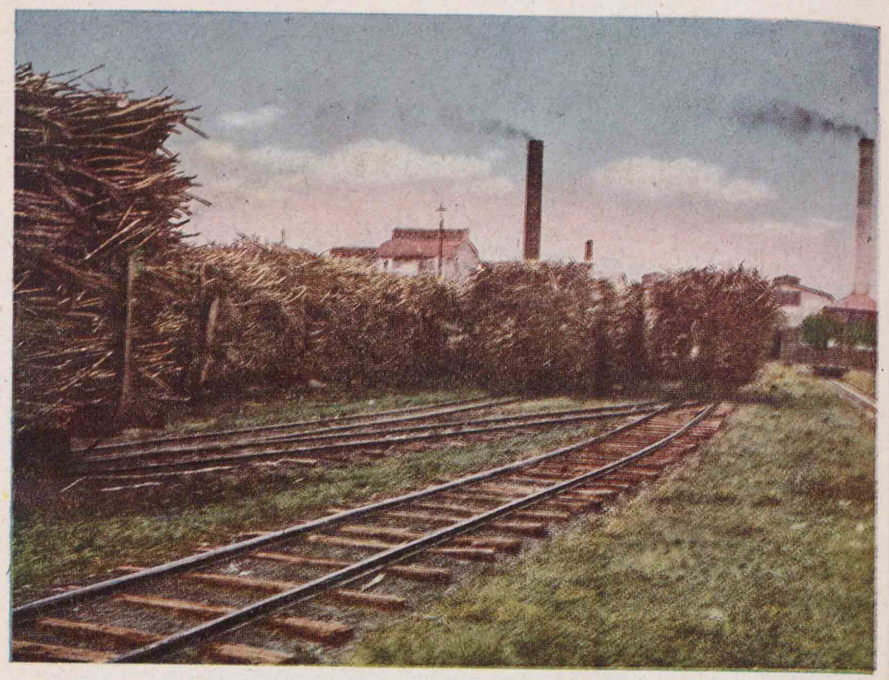
鹽出坂田



高知縣の促成栽培



→高知縣の長尾鷄



臺灣の製糖工場

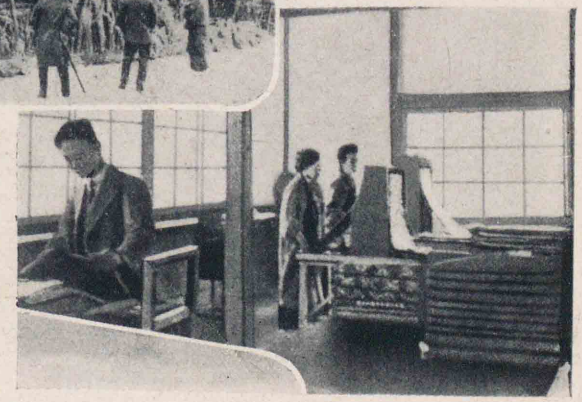
濟可許部令司塞要雄高號七七二第日八月八年六十和昭

臺中市のバナナ市場

別府溫泉（海地獄）

琉球の榕樹

島原港



大島紬の製造

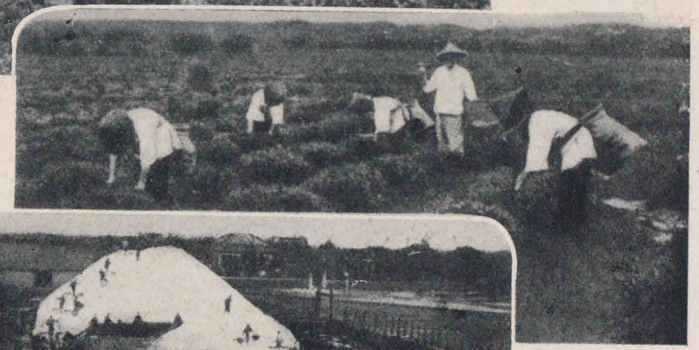
昭和十六年八月十二日
津輕要塞司令部許可濟

大沼

神居古潭

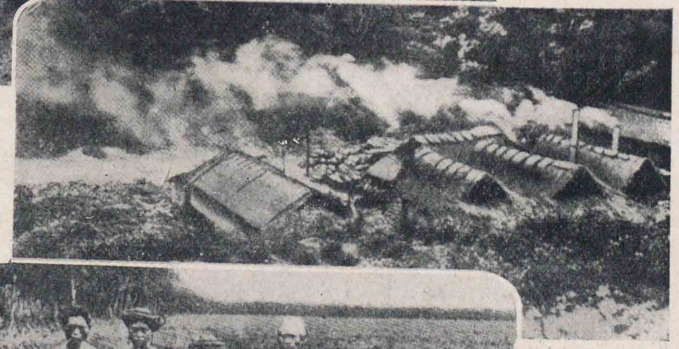
石狩平野

稻の收穫



茶摘み

↑天日製鹽



↑樟腦製造

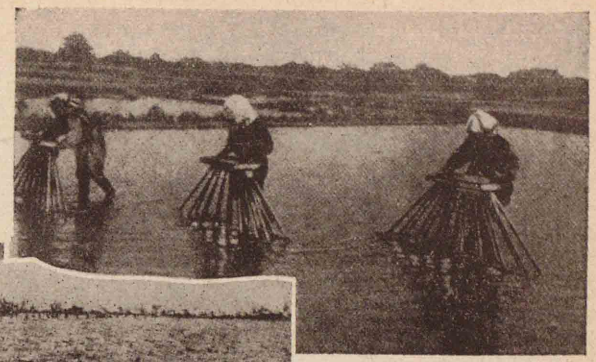
パイナップル園

昭和十六年七月三十一日北部軍司令部許可濟

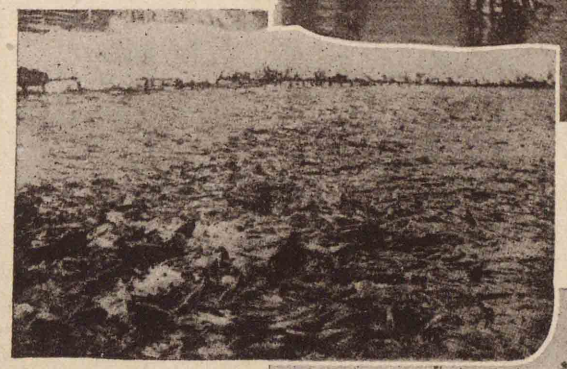
海豹島の腦肭獸とロッペン鳥

馴鹿と橇

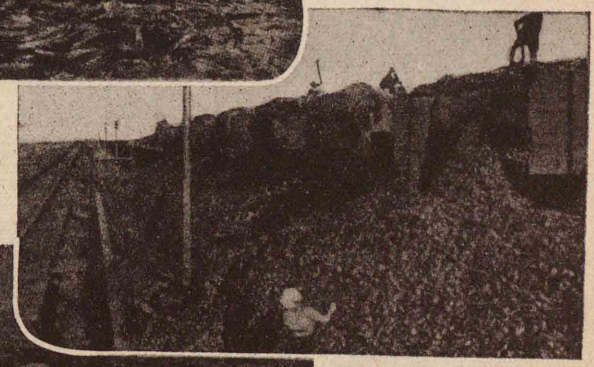
鈴谷平野

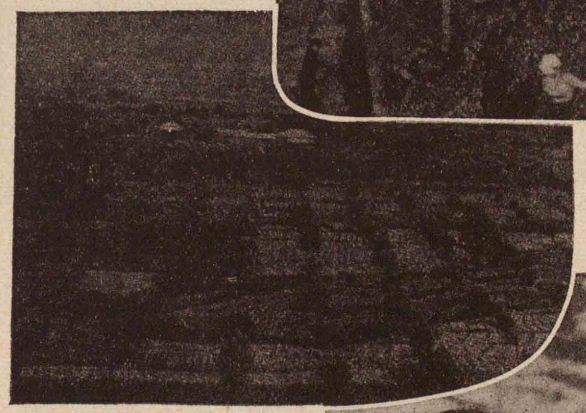


稻の直播



石狩川の上遡鮭





余市の苹果園

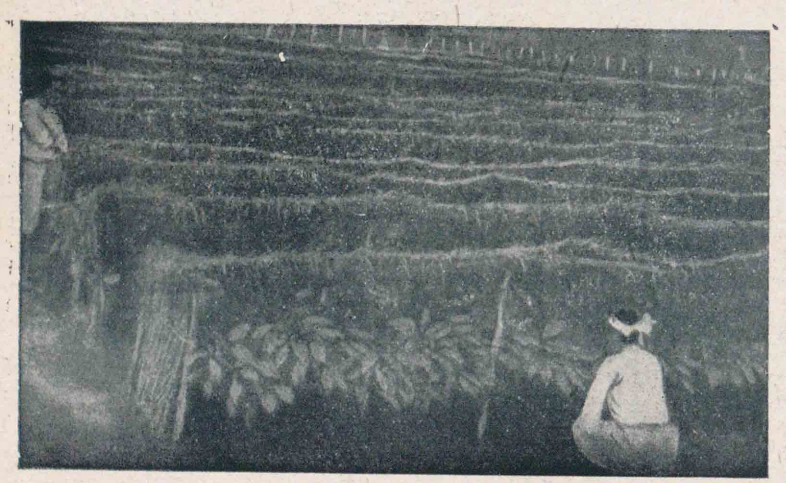
甜菜の輸送

札幌の郊外

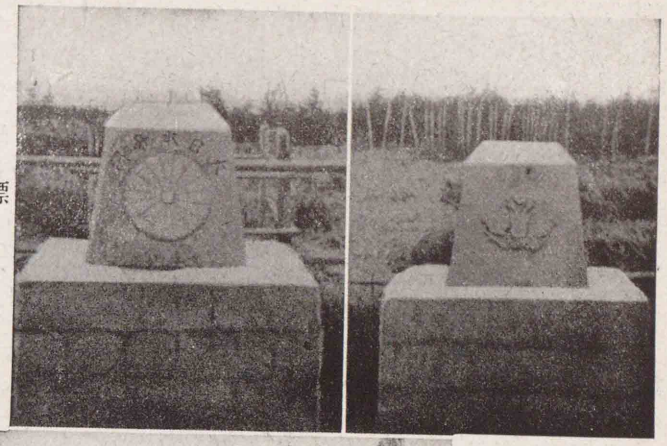
北鮮の造林

木浦港の棉花積出

昭和十六年八月一日
朝鮮軍司令部許可



開城の人蔘畑

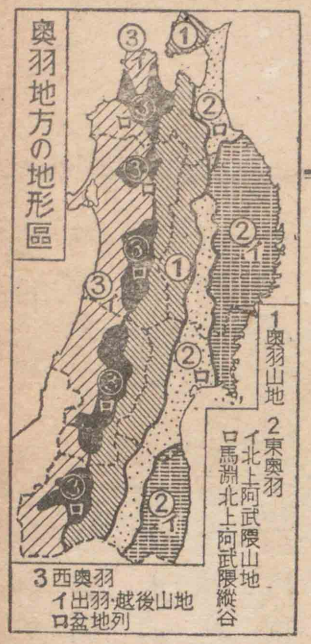


日露境界標

ニクブン族

鰊の大漁

甜菜の畑



位置
地形

第二章　奥羽地方

六六、九二方粁
七二六萬人

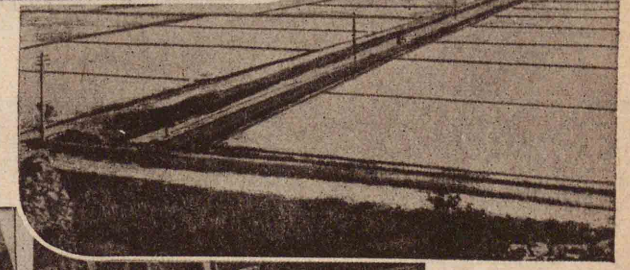
一　自然

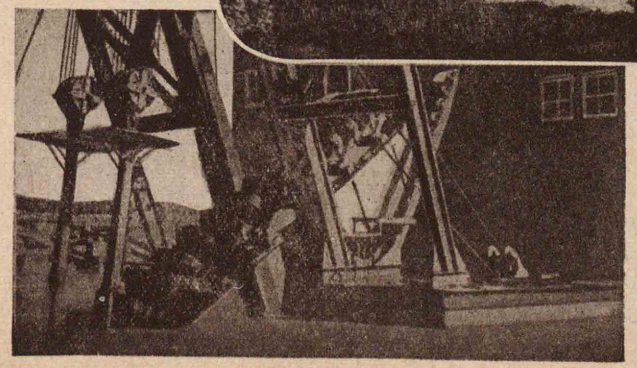
(一) **位置**　本州の北東部を占め、昔の陸奥・出羽の地である。

(二) **地形**　①中央に奥羽山脈が走り、那須火山脈を伴なつて岩手・磐梯等の大きな火山が聳え、この地方を東奥羽・西奥羽に分ける。②東奥羽には阿武隈・北上・馬淵（マブチ）河谷や、仙臺平野を連ねる低地を挟んで、北上・阿武隈山脈があり、③西奥羽には、盆地的性質を帯びた津輕平野や、横手・新庄・山形・米澤・會津等の盆地列を距てて、出羽・越後山地がある。これによつて

京城の牛市

揚陸の魚首石



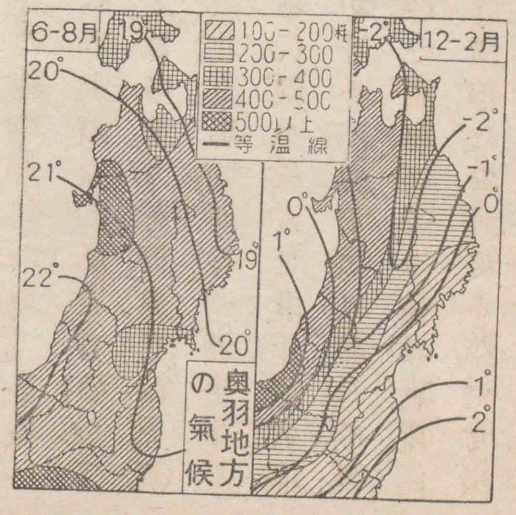


砂金の採收

朝鮮西南部の干拓地

圖のやうな五地形區に分けられる。

(三) 氣候　①太平洋方面は千島海流が北から南下し、日本海流は南から來て、東に外れる。從つて東奥羽の北部は、南東季節風の吹く夏には濃霧が起つて氣溫が下り、作物の生育を妨げる。②日本海方面は、冬季は北西季節風のために深雪地帶となるが、晩春から急に暖くなつて、梅・櫻・桃・李が一時に花を開き、盆地内は夏はかなり高溫となる。

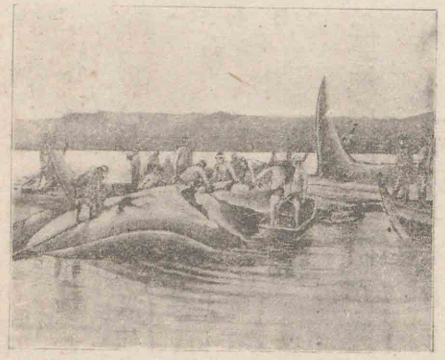


二　原始産業

(一) 奥羽山地　北部には、小坂・尾去澤・花岡等の銅・金・銀産地が連なつて、鑛業地帶が開け、松尾・沼尻には**硫黄**の産が多い。湖には鱒が飼はれる。

松尾・沼尻の硫黄は、共に火山の爆烈火口内に出來たもので、松尾は又全國第一の硫化鐵鑛山である。

(二) 東奥羽　北上山地には鐵山の釜石、含銅硫化鐵鑛山の田老があり、岩手縣の砂鐵は近時利用されるに至つた。阿武隈山地には石灰岩を出し、南東に**常磐炭田**がある。岩手縣東部の灣内には、よい漁港があつて、鰮・鰹・鮪・鱒を産し、又鱒節・搾粕・竹輪・蒲鉾等の製造も行はれる。


鯨捕の縣手岩

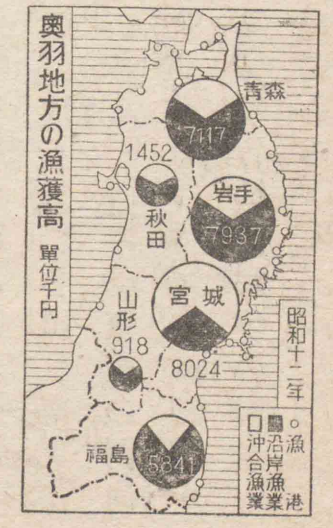
鮎川は、捕鯨の根據地である。

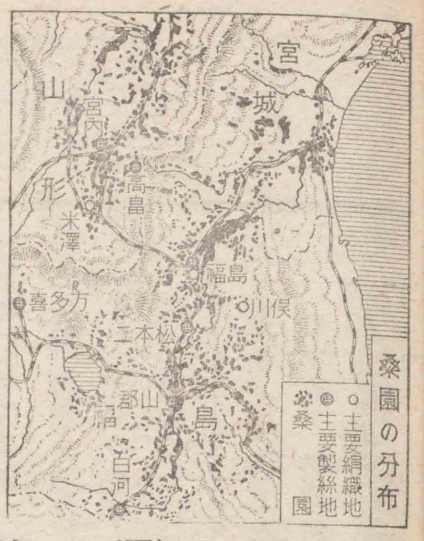
漁業　奥羽地方の太平洋岸は全國有數の漁場で、漁期には表日本各地の漁船が出漁する。近年、八戸・宮古・釜石・氣仙沼・女川・石巻・鹽釜・小名濱等は、各〻巨費を投じて、設備を整へたので、この方面の漁業は益〻有望となつた。

穆

低地には米田が連なり岩手縣では、**穆**・**大豆**等の雜穀が作られる。低地の兩側の斜面や三本木原は、**牧馬**に利用せられ、古來南部馬・三春駒の名が高く、主要な軍馬供給地である。

牧馬　奥羽地方の東部は、雨量が少くて原野が廣く、よい牧草に富み、且古くから產馬の改良に苦心したので、我が國有數の馬の產地となり、產馬は軍用としても優秀なことは、支那事變に於ても立證せられた。





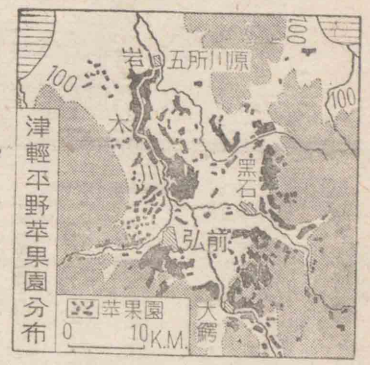
秋田油田の採油は、明治六年に始つた。其の產額は常に新潟縣に劣つてゐたが、近年八橋が俄に產出量を增したので、忽ち新潟縣の產額を遠く凌ぎ、近時は小國・院內も活氣を呈してゐる。

(三)西奥羽　荒川・發盛・阿仁には銅・銀・金の產が多く、秋田地方に**油田**があり、土崎港で製油する。

阿武隈河谷は養蠶地帶で、又煙草畑が開けてゐる。

海岸の平野には米田が連なり、津輕半島に羅漢柏、米代流域に杉の美林があり、能代市で盛に製材して、各地に送る。

八郎潟には鮒・せいご・ぼらは勿論・えびを產し、佃煮の原料として東京に送

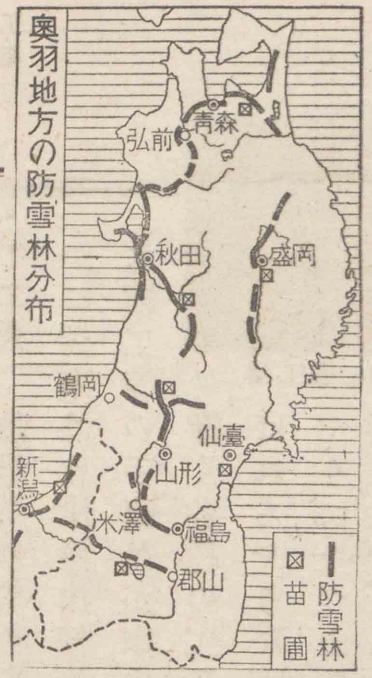


る。尚秋田の近海には雷魚の特産がある。

各盆地・平野は米産が多く、この地方の需要を充たして、尚餘米は京濱・北海道・樺太に移出される。津輕平野には苹果、山形盆地には櫻桃、會津盆地には柿の産が多く、米澤・會津兩盆地は、養蠶地帶である。

青森縣の苹果　明治七年、米國人がもたらして植ゑたのが初で、急に發展し、明治二十年代には立派な産物となつた。後、フランスの宣教師からフランス流の剪定法を學び、ために一樹から數十圓の良果を擧げるやうになつた。今は和歌山縣の柑橘の栽培にならひ、山地に栽培してよい結果を得てゐる。

農業（米・麥・稗・馬鈴薯・櫻桃・苹果・煙草・栽桑養蠶）
牧畜（馬）　林業（杉・羅漢柏）　水産業（鰯・鳥賊・鮪・鰹・鯨）　鑛業（金・銀・銅・鐵・石炭・石油・硫黄）



三　交通

(一)陸運　街道は勿來・白河・念珠等の關門を拔けてこの地方に入り、早くから縱谷・海岸に竝行して設けられた。

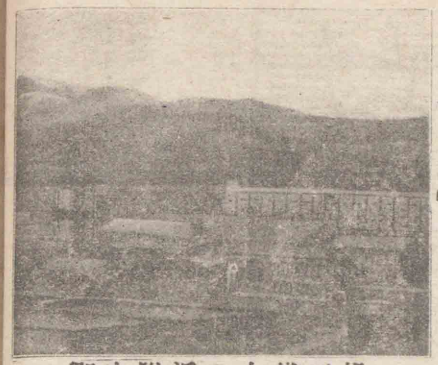
鐵道には南北の低地を走る縱貫線に、東北・奥羽・常磐・羽越の諸線があり、北海道に、青函・青室連絡船を通じてゐる。磐越・仙山・陸羽・横黒・花輪・米坂等の横斷線は、多く河谷を利用して、東奥羽・西奥羽を連絡してゐる。西奥羽を走る諸線は、防雪林・防雪トンネル等によつて、各、冬季の雪害を防いでゐる。

(二)水運　良港が乏しく、且太平洋方面の夏の濃霧、日本海方

面の冬の吹雪や風浪に妨げられて、餘り振はない。

四　工業　商業

(一)工業　地形・氣候等の關係から、近代工業は發達が後れ、僅かに從來は、會津塗・津輕塗・相馬燒・弘前の木通細工、仙臺の埋木細工等の手藝品が、家内工業的に行はれた。しかし近時漸く各種の工業が起り、特に東北振興の必要が叫ばれるやうになり、新しい工業も各地に見られるやうになつた。



郡山附近の人絹工場

北上山地の鑛産地域には、釜石・宮古に精錬事業が起り、大湊には砂鐵を原料とする精錬事業を見るに至つた。猪苗代發電地帶には、若松の東北に亞鉛精錬、化學藥品製造、福島・郡山附近には人絹・人織工業が起り、常磐炭田地域には、平に耐火煉瓦、四ツ倉にセメント、小名濱に硫安、錦に人織の工業が行はれる。

又阿武隈川最上川流域の養蠶地帶を背景として、郡山・二本松・宮内に製絲、川俣・鶴岡・山形・米澤に絹織業が起つてゐる。其の他、セメント・酒精・アルミニウム工業地としての八戸、パルプ其の他の工業地としての土崎港・秋田・酒田の一帶は、新興の工業地域である。

(二)商業　東京の商圈内にあるが、羽越線の開通で、大阪の勢力も侵入した。青森は東京・大阪兩市の商品を、北海道・樺太に仲繼し、船川港・釜石・鹽釜と共に開港場である。

五　處誌

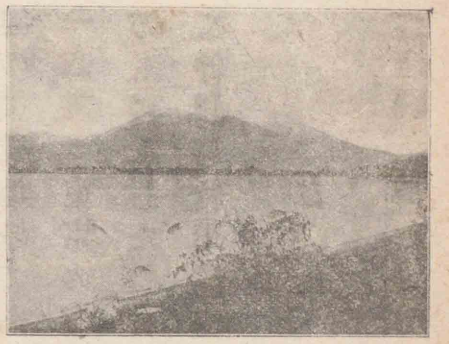
福島縣

阿武隈縱谷

白河・須賀川・三春・郡山・市二本松・川俣・福島市等

商業

福島縣
一五、七二二方粁
一五六萬人
一二五人



猪苗代湖と磐梯山

は、共に養蠶・牧馬地帶の代表聚落である。

阿武隈山地帶　**平市**・**内郷**・**四ッ倉**・**小名濱**等は常磐炭田に立脚した鑛工業聚落である。

西部低地　猪苗代湖水を利用した工業が起り、**若松市**は其の中心地である。

宮城縣

阿武隈流域は養蠶地帶で、**白石**(製絲)が中心、**仙臺平野**の**仙臺市**は、東北地方の學術・軍事の中心をなし、袴地・埋木細工・錆びない刃物の名産がある。外港**鹽釜**は漁港を兼ね、**松島**には牡蠣が養殖せられる。**石巻市**は今は漁港で、水産製造物の產が多い。

北上山地

海岸は漁業地帶となり、**氣仙沼**・**女川**・**鮎川**等の漁港が多い。

中央山地　**鍛冶屋澤**は牧馬の中心地、**鬼首**・**鳴子**は溫泉地である。

岩手縣

北上縱谷　南門の一關・**黒澤尻**・**花卷**は交通の要地で、盛岡市は牧馬地帶の代表聚落で、盛な馬市が立つ。

北上山地　**大船渡**・**宮古市**は漁業地帶を代表し、**釜石市**は宮古と共に精錬地である。

釜石鑛山　將軍德川家慶の頃、土地の一獵師が發見したといはれる。鑛床は延長六粁、幅一粁、厚さ二十米内外で、内地最大の鐵山といはれる。

宮古灣の漁業

青森縣

東部低地　**八戸市**は新興工業地・漁港で、**三本木**・**七戸**を中心とする一帶は牧場、**大湊**は海軍の要港である。

西部低地　**青森市**には青函・青室連絡船が發著し、鮭・鱒の罐詰・製材が盛である。津輕平野の**弘前**

宮城縣
七、二七四方粁
一三萬人
一七〇人

岩手縣
一五、三五方粁
一〇五萬人
六九人

青森縣
九、六三一方粁
九七萬人
一〇〇人

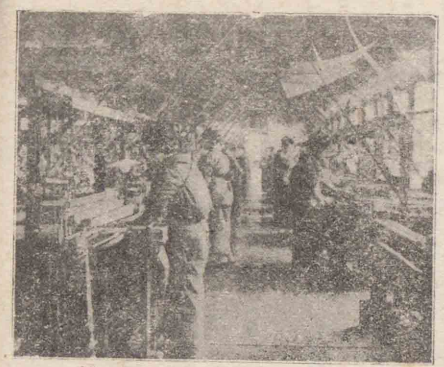
秋田縣
一一、六六四方粁
一〇四萬人
八九人

山形縣
九、三二六方粁
一一三萬人
一二〇人

市は、苹果産地の中心をなし、又清酒を産する。

四・六 **秋田縣** 中央山地 **鹿角**(カヅノ)盆地は鑛業地區で、小坂・尾去澤が知られてゐる。 一・五 〇・六

盆地帶 大館盆地は林業地で、中心に**大館**があり、米作地の横手盆地には**横手**がある。 一・八 二・三



場工物織絹の岡鶴

出羽丘陵地帶 發盛・荒川・阿仁は鑛業地で、海岸の平地には、**能代市**(製材)・**秋田市**・**土崎港**(製油・製材)等がある。 三・六 六・一 一・八 開港の**船川港**は、秋田の外港となつてゐる。 〇・七

山形縣 出羽・越後山地 庄内平野には米田が連なり、**酒田市**・**鶴岡市**は、平野の代表的都市である。 三・二 三・七

盆地帶 米田・桑園が廣く、山形・米澤の地方には櫻桃園が多い。

桃櫻の縣形山

新庄盆地の中心は**新庄**(シンジャウ)、山形盆地の中心は**山形市**、米澤盆地の中心**米澤市**は、絹織物で名高い。 二・〇 七・〇 五・〇

櫻桃 明治五年に政府が支那から輸入して、全國に苗を配布したのが、特にこの地方と北海道とに好成績を擧げ、明治二十一年頃から立派な産物となつた。産額は老樹の多い山形縣に多いが、樹數は福島縣が多いから、福島縣の産額が增す傾向にある。樹は扇狀地に適し、近年山梨縣や長野縣にも栽培されてゐる。

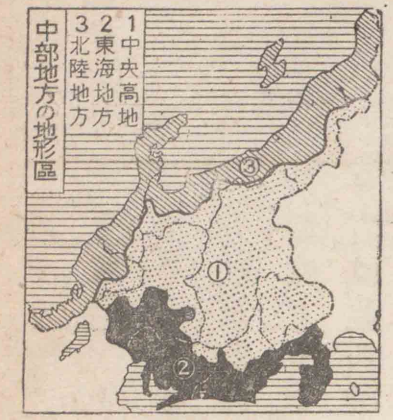
六　生活　特性

(一) 北邊的位置と冷凉氣候とのため、産業が十分振はない。從つて**面積**は關東地方の二倍あるが、**人口**は二分ノ一に過ぎない。生産地の縱谷・盆地は、稍人口が稠密(チウミツ)であるが、概して東半よりも西

半に、産業が起つてゐる。都市は昔ながらの**城下町**が主で、**新興都市**としては、僅かに郡山・釜石・小坂等の工鑛業都市があるに過ぎない。

(二) 一般に經濟生活が困難で、福島・山形地方では、定期漁民として北海道は、東京方面に**出稼**し、青森・秋田地方では、定期漁民として北海道や樺太の方面に出稼し、尚北海道・樺太・滿洲國への移植民が多い。

(三) 政府ではこの地方の振興に力を盡し、各種工業の作興、水力發電、港灣の修築、原始產業の改良等を圖つてゐるが、尚廣い森林の利用、鑛物資源の開發、水力電氣による各種工業の施設等、なすべき事柄は頗る多い。



位置

地形

第三章 中部地方

六六、七三〇方粁
一、三一萬人

一 自然

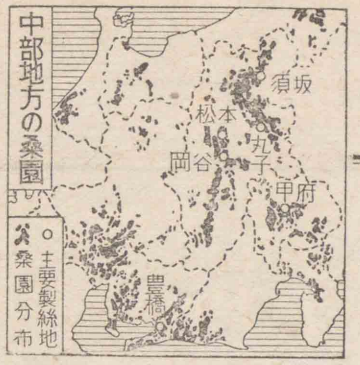
(一) **位置** 本州の中央部に位し、西南日本と東北日本との續く部分である。

(二) **地形** この地方は西南日本の山系と、東北日本の山系との出會ふ處で、こゝに富士火山脈が噴出し、天城・富士・八ヶ岳・妙高等の火山や、熱海・修善寺・諏訪等の溫泉がある。故に本州中幅が最も廣く、三國・關東・赤石・木曾・飛驒等の山脈は斜に竝び、且高く、乘鞍・白山・那須等の火山脈も噴出して、燒淺間・白山等の巨大な火山が聳える。この地形により、圖

氣候

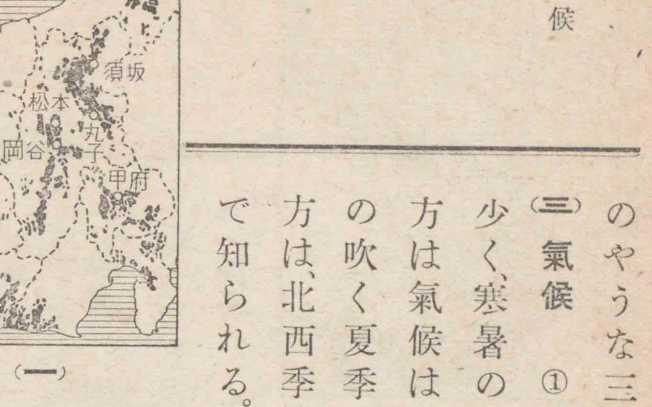
のやうな三地形區に分けられる。

(三) 氣候 ①中央高地は概して雨量が少く、寒暑の差が甚だしい。②東海地方は氣候は一般に溫和で、南東季節風の吹く夏季に雨量が多い。③北陸地方は、北西季節風の吹く冬は特に深雪で知られる。



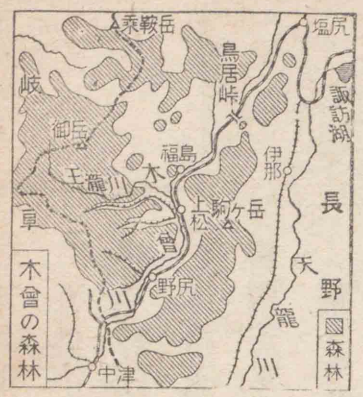
二 原始産業

(一) 中央山地 鑛産は少く、神岡の亞鉛・鉛、久根・尾小屋の銅、木曾山脈南端の陶土が著れてゐるに過ぎない。桑園が多く養蠶が盛で、善光寺平は**苹果**を産し、甲府盆地の扇狀地は葡

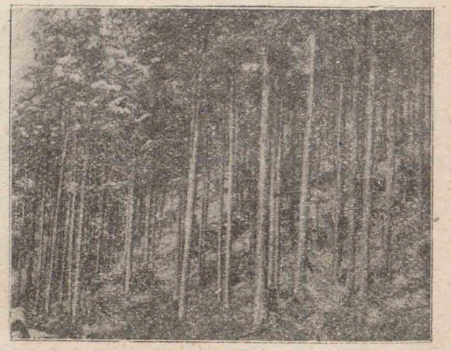


萄を産する。

甲州葡萄 約七百年前發見して栽培を始め改良して來たもので、德川時代からこの地の名産として知られた。小石まじりの排水のよい扇狀地に適し、今は西洋種も作られる。西洋種は在來種より甘いが、貯藏にたへぬ缺點がある。近來は**葡萄酒**の釀造も起つて來てゐる。



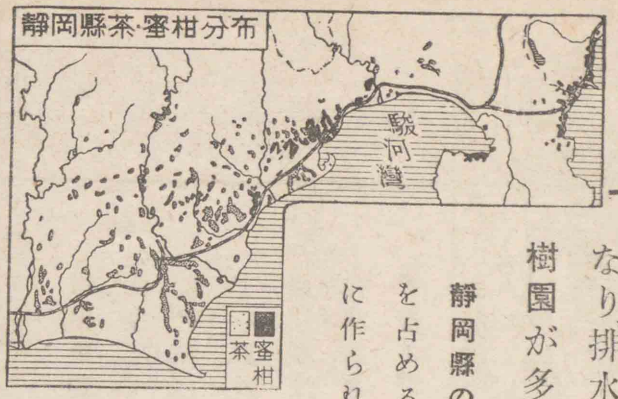
山地は**森林**に富み、木曾・天龍の上流は檜、飛驒山脈は椹（花柏）、太平洋斜面は栂を產し、林業を以て生活するものが多く、**山蔟**畑も多い。



林森の曾木

木曾の森林 總面積は約十萬町歩で、御料林となつてゐる。德川時代からよく保護せられたため、美林となり、五木（檜・椹・ネヅコ・アスナロ・カウヤマキ）が名高い。

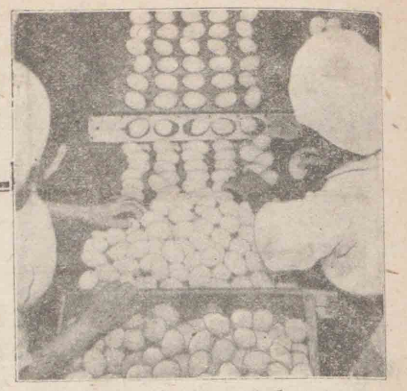
(二)東海地方　伊豆半島には**金**産があり、天城山には、**杉**の美林・**山葵**畑が多い。各平野は、夏は米田、冬は麥畑が遠く連なり、排水のよい臺地や丘陵に、**茶園・果樹園**が多い。



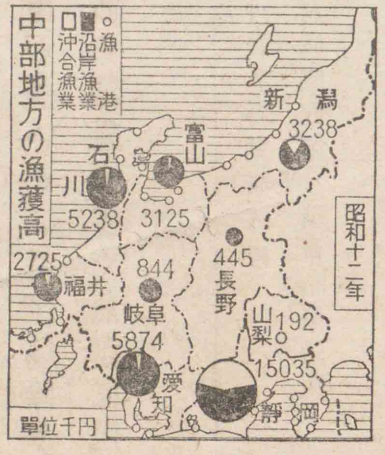
靜岡縣の茶　靜岡縣の茶の産額は、内地の半を占める。これ等は排水・日射のよい丘陵地に作られる。輸出向の茶は清水に集り、再製して外見を揃へ、美麗にした上嚴重に濕氣を防いで積出される。

三角洲に梨園が開け、久能山の南斜面では石垣苺、濱名湖畔では蘭を栽培してゐる。

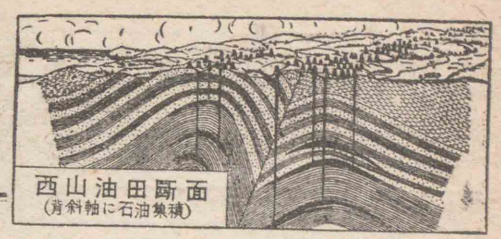
富士の裾野や美濃の山地は、三椏・楮を栽培し、濃尾・三河兩平野の周圍には、桑園が開け、養蠶地帶となつてゐる。濱名湖を始めとして、靜岡・愛知二縣では、養魚が盛に行はれる。名古屋附近には進歩した野菜畑が多く、大きい養鷄場が見られ、三河卵の名が高い。沿岸には鰹・鮪・鰮の漁獲が多く、燒津は全國第一の鰹遠洋漁業の根據地で、鰹節の製造が盛である。


靜岡縣の蜜柑　愛知縣　査檢の卵鷄

(三)北陸地方　東山・西山の兩丘陵には**油田**があり、佐渡の相川は古くから知られた**金**産地である。



越後油田の石油　燃ゆる土(水)と稱し、既に奈良時代から知られ、江戸時代には營利的に採掘された。秋田油田に首位を奪はれた。從來我が國第一の産額があつたが、今は


西山油田斷面
(積集油石に軸斜背)

越後平野の砂丘列や河畔には**梨園**が多く、信濃川下流には輸出向花卉(クワキ)の**球根**が作られ、富山・石川・福井の山麓地方には**桑園**が多い。

越後・富山・加賀・福井の諸平野は、**米田**が多いが、二毛作は餘り行はれない。日本海方面には**烏賊**の漁獲が多く、魚津に送つて**鯣**(スルメ)とする。

農業(米・麥・茶・梨・蜜柑・葡萄・苹果・苺・野菜・花卉・栽桑・養蠶・楮・三椏)　**牧畜**(鷄)　**林業**(檜・椹・栂)　**水産業**(鰹・鮪・鰮・烏賊・鯣・鰹節)　**鑛業**(鉛・亞鉛・銅・石油・陶土)

三　交通

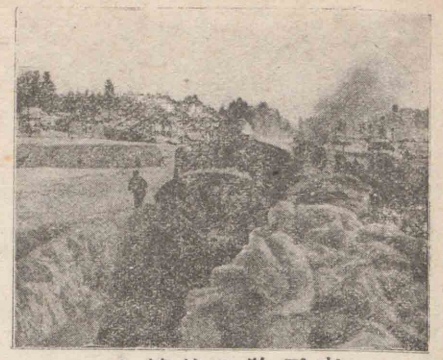
陸運

水運

(一)陸運　街道に東海道・中山(ナカセン)道・北陸道があり、東海道・中央・北陸の主要鐵道は、これに沿つて開通し、關西・信越・篠井(シノノヰ)・高山・小濱・上越・羽越の補助線がある。深雪地帶の鐵道には、スノーセット・除雪車が備はつてゐる。

(二)水運　名古屋・清水の兩開港は、航路を海外にも通じ、敦賀(ツルガ)は、ウラディウォストク及び北鮮諸港との連絡港として、重要である。

(三)空運　航空路は、東京・名古屋・大阪、東京・新潟、東京・富山・金澤・大阪間に通じてゐる。


上越線の除雪車

空運

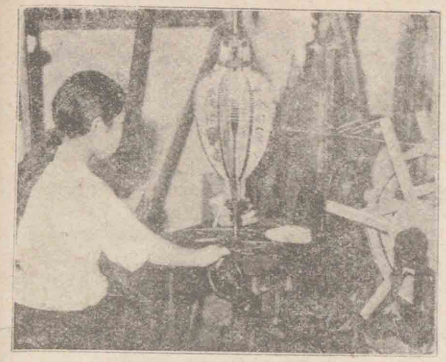
工業

四　工業

(一)工業　交通の便利な東海地方は、中央高地から**水力電氣**の供給を受けて、工業が發達し、特に名古屋及び其の附近は一大工業地域をなし、**綿工業**では名古屋・濱松・岡崎が著れ、毛絲・毛織物は一宮・岐阜・大垣が盛である。其の他名古屋の飛

行機・時計・陶磁器、有松・鳴海の絞木綿、濱松の樂器・帽子、豐川の兵器も産額が多い。

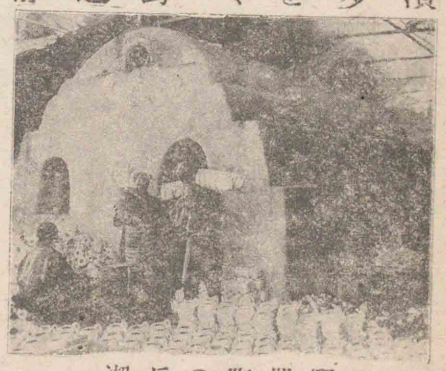
木曾山脈の南端は、良質の陶土を産し、古來、燒物業が瀨戸・多治見に起り、又常滑に土管を産する。富士の裾野の大宮を中心として洋紙・和紙が製造せられ、美濃山地には和紙、靜岡には漆器、岐阜には傘・提燈・團扇の産が多い。



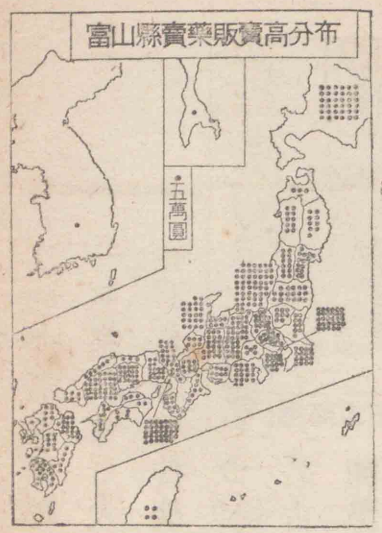
製造の燈提阜岐

中央山地の養蠶地域は、岡谷・須坂・松代・松本・上田等に製絲が盛で、山梨縣に甲斐絹・郡内織を産する。

諏訪盆地には其の寒冷な氣候を利用して、伊豆の石花菜を原料とし、寒天を製する。北陸地方は、深雪の農閑期を利用する必要から、各地に機織業が



瀨戸の陶器竈



石花菜

起り、延いて福井・石川・富山の輸出向羽二重・人絹織物等の、盛大な絹織業にまで發展した。又敦賀には人絹製造が起り、富山縣の賣藥は、遠く滿洲國・支那・南洋にまで勢力を伸ばしてゐる。

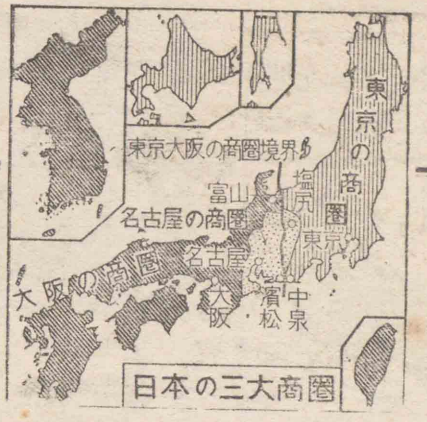
富山の賣藥　將軍德川綱吉の頃から始つた業で、冬季農閑期の餘つた人力を以て、この業に從事したのが發達の根本原因である。今は年賣上高三千萬圓に及ばんとし、販路は滿洲國・支那・タイ國・インド・支那・インド南洋に及んでゐる。

水力電氣の開發と共に、近時各地に近代工業が起り、特に新潟は製油・製紙・紡績、富山は絹織・紡績・機械の一大工業市となつた。陶土に惠まれた石川縣では、九谷燒を産し、輸

商業

島の漆器、高岡の銅器、高岡・伏木の曹達も產額が多い。

(二) 商業　東京・大阪の兩商圈は、東西の交通機關を利用してこの地方で接觸し、名古屋も亦、漸次兩者の間に勢力を展べつゝある。



日本の三大商圈

名古屋・清水・武豐・敦賀・七尾・伏木・新潟・兩津(夷)等の開港があるが、外國貿易は、尙橫濱・神戶の後背地で、中央山地の生絲、北陸の羽二重・富士絹・人絹織物は、橫濱・神戶から世界各地に送られ、棉・鐵材等の工業材料は、多く神戶から輸入される。

五　處誌

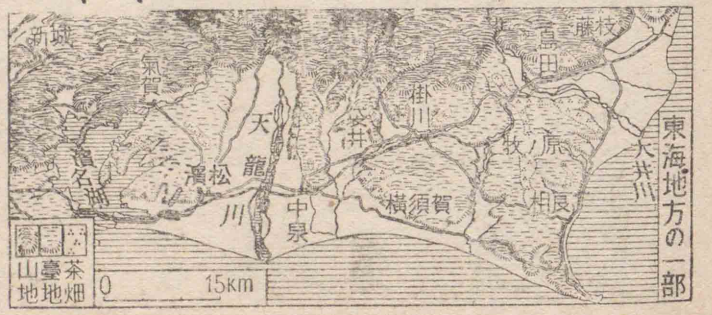
以下述べる處は**東海地方**で、靜岡・愛知・岐阜縣の南部に亙り、中部地方の要部である。

靜岡縣　七、七七〇方粁　一九四萬人　二五〇人

靜岡縣　富士火山脈地帶　熱海市・伊東・修善寺等の溫泉町が多く、湘南に續く休養地帶で、三・一　二・〇　〇・六　三島市は交通の要地に當る。富士の裾野地帶には三・三　小山・大宮・沼津市等の工業市が興つてゐる。一・五　二・五　五・〇　駿河灣岸　清水市は豆粕・豆油・罐詰・六・一　製材の工業が行はれ、茶の輸出が多い。靜岡市は茶を精製し、又綿絲・綿織物・漆器等を產する。二〇・一

富士梨の出荷

靜岡縣の園藝　蜜柑は三百年前に、九州又は紀州から移植したもので、大消費地を控へてゐるのと、米國への輸出增加とによつて急に發展した。梨は富士川の三角洲に多く、早く東京其の他の市場に出されるのが、長所



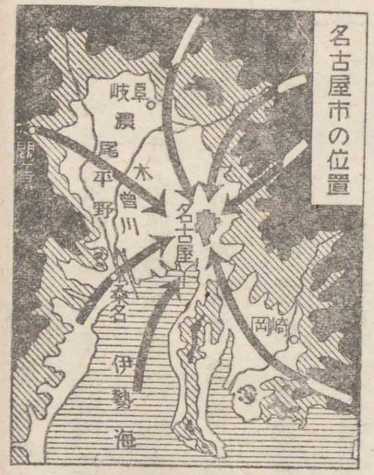
である。枇杷は溫海の丘陵に植ゑられてゐる。苺は久能山の南斜面を利用して植ゑられ、冬季に成熟し、農家の冬の副業として大きな利益を上げてゐる。これ等の原料によつて、附近の地域に罐詰業が起つてゐるのは、農村工業化の一例として注意すべきである。

島田・金谷は、元は渡頭町として發生したが、今は島田は製材、金谷は茶の集散で若返つた。

遠州灘方面　濱松市は工業市で、紡績・綿布・樂器・帽子・ベニヤ板・フィルムの產が多い。

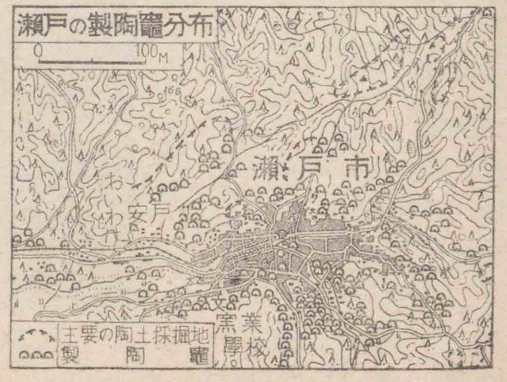
愛知縣　**三河平野**　豐川流域の豐橋市は製絲、矢作川流域の岡崎市は紡績・製絲・綿布・人絹等を產し、中京工業地帶の續きとしての景觀が濃い。

中京工業地帶　名古屋市は、東京・大阪に次いで新しく經濟の一中心地となり、又纖維・機械・化學等、諸種の大工業が行はれて活況を呈してゐる。附近の一宮市・瀨戸市・半田市・常滑等は、一大工業地區を形成してゐる。



岐阜縣　**平野部**　西部は農業が盛で、中京工業地帶の續きをなし、岐阜市・大垣市等の工業市が連なつてゐる。東部の丘陵地帶には、多治見市・中津の工業地がある。

以下述べる處は中央高地で岐阜縣の北部及び山梨・長野諸縣に亙つてゐる。



飛驒高原　中央盆地の中心高山市は、生絲・一位細工を產し、小京都の名がある。

山梨縣　**絹織地帶**　甲府が中心となつてゐる。

愛知縣
五、〇八一方粁
二六六萬人
五六三人

岐阜縣
一〇、四九五方粁
一三三萬人
一一七人

山梨縣
四、四六六方粁
五五萬人
一四五人

久能山と三保模型

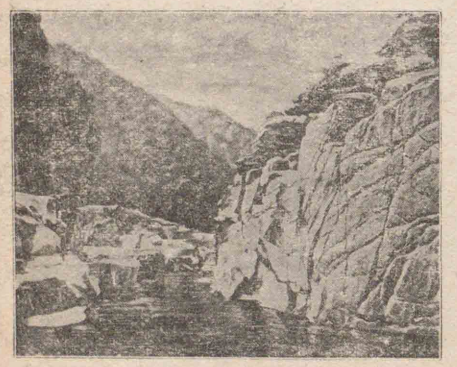
盆地 笛吹・釜無諸川の流した土砂が堆積して出來た平野で、東部の葡萄栽培地の中心に勝沼(一三)がある。一般に桑園が多く、中心の甲府市(一三)は、生絲・水晶細工を産する。

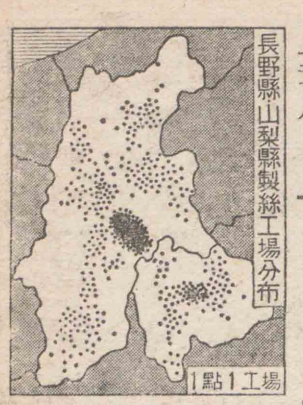
水晶細工 水晶は元、奥御嶽(ミタケ)で採掘したが、今は紫水晶は朝鮮、其の他の透明水晶はブラジルから輸入する。水晶加工術は元京都から傳へたものであるが、今は電力機械を用ひ、其の技術は世界に名高い。

長野縣 諏訪盆地 諏訪市・下諏訪(一四)は溫泉町、岡谷市(一八)は、諏訪湖の出口に發達した製絲業地である。(四二)

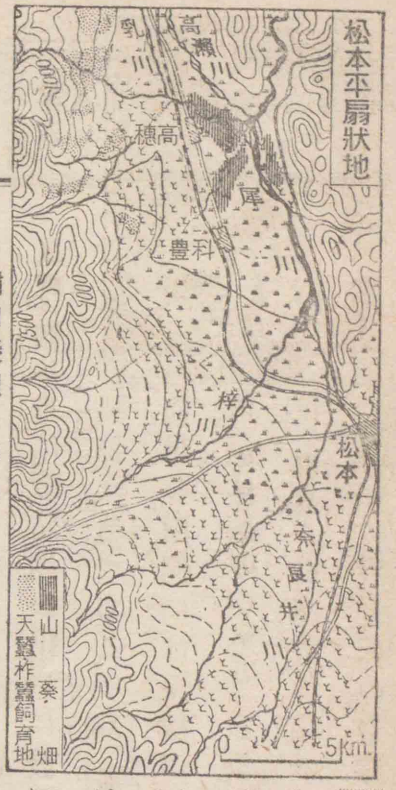
伊那谷 天龍川の兩側には桑園が開け、飯田市は其の中心である。(三一)

木曾谷 福島(一八)は木曾林業の一中心で、附近に寢覺床の奇勝がある。


寢覺床



長野縣
一三、六二六方粁
一七一萬人
一三七人



稻田養鯉　海魚を得るに困難なこの地方では、養鯉は既に德川時代の初期から試みられた。しかし明治に入り、稻田に飼ひ、鰲の蛹を飼料とするに至り、急に發展した。秋から冬にかけては池で養ひ、二年で四十糎以上に育てる。

上田盆地　養蠶製絲が盛に行はれ、**上田市**は其の中心聚落である。

松本平　桑園が廣く、山葵も作られ、中心の**松本市**は生絲の產が多く、**大町**にはアルミニウム工場がある。

佐久平　**輕井澤**は別莊地、**小諸**は製絲地で、附近に稻田養鯉が行はれる。

佐久平の稻田養鯉

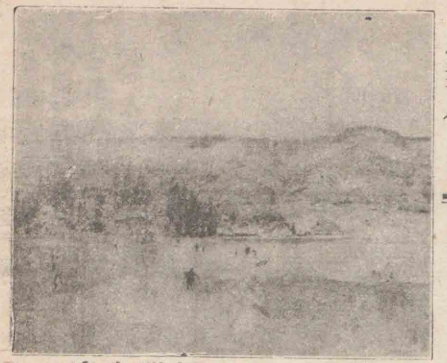
新潟縣　一二、五七六方粁　二〇〇萬人　一五九人

善光寺平　**長野市**は善光寺の門前町で、生絲の產が多い。千曲川の東は桑園が多く、**須坂**・**松代**は製絲の中心である。

以下述べる處は**北陸地方**で、新潟・富山・石川・福井諸縣に亙り、裏日本の代表地帶である。

新潟縣　**上越**　**高田市**は、**赤倉**と共にスキー場で著れ、**直江津**は交通の要地である。　**下越**　米作・油田地帶の中心に、**長岡市**・**柏崎**・**新津**があり、山麓織物業地の**十日町**・**小千谷**・**加茂**がある。　**新發田**は城下町、**新潟市**は港としての缺點はあるが、盛な商工市である。　**佐渡**　**兩津**は避難港、**相川**は古い鑛山町である。

佐渡金山　德川時代の初に發見せられ、一時は相川の人口は十萬に達した。現在も尙採掘が續けられ、近時深部に向かつて採鑛の計畫がある。

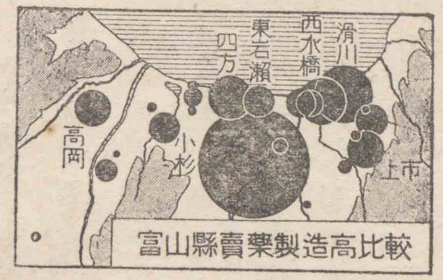

赤倉附近のスキー場

富山縣 四、二五七方粁 八〇萬人 一八八人

石川縣 四、一九三方粁 七七萬人 一八三人

福井縣 四、二六四方粁 六五萬人 一五四人

富山縣 富山平野 **富山灣**岸に**新湊**・**魚津**・**滑川**・**氷見**の漁港が連なり、平野には、灌漑用水路が縦横に通じて、越中米の産が多い。平野の周りの諸川の急流部には發電事業が起り、ために近代工業が縣内の各地に起つた。即ち平野東部の中心**富山市**は、製藥・絹織・藥品・紡績・機械の工業地となり、西部平野の中心**高岡市**は銅器・**曹達**・**捺染**の工業が行はれ、**伏木**には製紙・曹達等の工業が急に興つて來た。山麓地方には養蠶が行はれ、**城端**は、羽二重を産する。

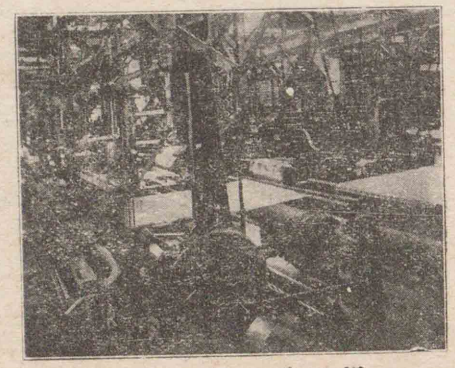


較比高造製藥賣縣山富

石川縣 能登半島 七尾灣岸の**七尾市**は開港で、**和倉**溫泉がある。**輪島**には漆器を産する。 加賀平野 砂丘の內側には米田が連なり、臺地には桑園が多い。**金澤市**は前田氏の城下町で、絹織製絲等の工業が盛である。白山の麓近くに、**小松市**・**大聖寺**は、九谷燒絹織物を産する。**山中**・**山代**の溫泉がある。

九谷燒 德川時代初期に、大聖寺藩主が九谷村に磁器の製造を始め、藩士を支那に送つて技術を學ばしめたことに起り、今は小松・大聖寺・金澤等に產出が多い。

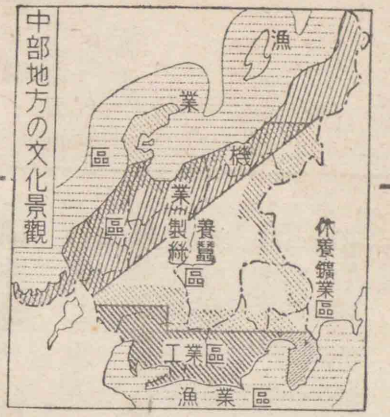
福井縣 福井平野 一帶は我が國有數の羽二重・人絹織物・富士絹の產地をなし、**福井市**・**大野**・**勝山**は其の中心地で、**武生**は和紙・蚊帳を產する。 若狹灣岸 日ソ・日滿間の重要連絡港である**敦賀市**や、**小濱**等の良港がある。


福井の羽二重工場

六 生活特性

(一) 中央高地・北陸地方・東海地方によつて、地文・人文が著しく異な

つてゐる。**東海地方**は土地利用が最もよく行はれ、多くの人口を收容し、都市密度も大で、大工業地區がある。**中央高地**は土地利用度が低く、人口・都市の密度も少く、近代工業は起らない。**北陸地方**は氣候に惠まれず、且、冬季に勞働力が餘るから、新潟・石川兩縣の酒杜氏を始め、中部の製絲・機業地或は東京・名古屋・京阪地方に出稼する者が多い。又近來水力電氣によつて、小規模の家内工業から、近代的工業に進んで來た。



(二)位置の關係上、東西の交通は頻繁で、東海道線の輸送力は次第に行詰りつゝあるので、東京・下關間には更に直通の廣軌線を敷設する計畫がある。北陸地方は近時滿洲國の發展につれて、其の連絡上重要性を增した。尙未開發の水力を利用することは本地方の急務である。

第四章　近畿地方

三三、九八六方粁
一、三一三萬人
三九八人

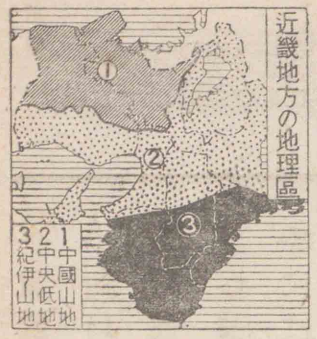
一　自然

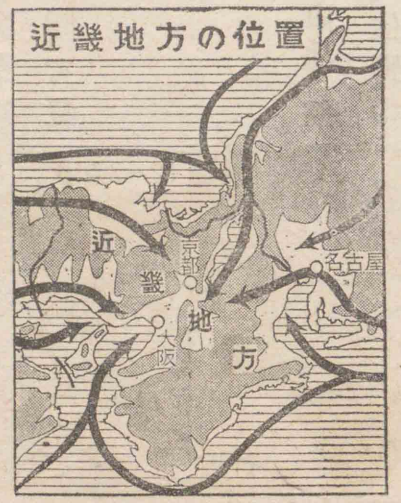
位置

(一)位置　本州の中央的位置を占め、經濟上・交通上極めてよい位置にある。

地形

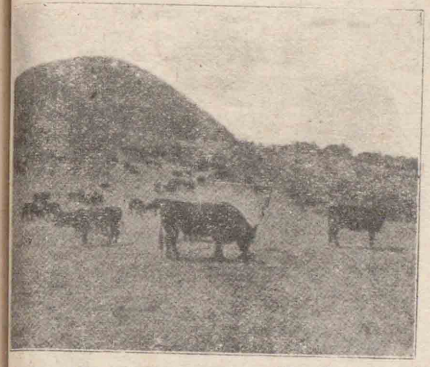
(二)地形　北に高原性の中國山脈、南に高い紀伊山脈が連なり、この南北兩山地の間に、琵琶湖や伊勢海から、京都・奈良兩盆地を經て大阪平野・瀨戸内海に續く低地があつて、圖のやうな三地形區に分けられる。





(三) **氣候**　中國山地は冬季に稍雪が多く、瀬戸內海沿岸は四季共に快晴が續き、京都・奈良・近江等の盆地は、稍寒暑の差が甚だしい。紀伊山地は溫暖で夏季には特に雨が多い。

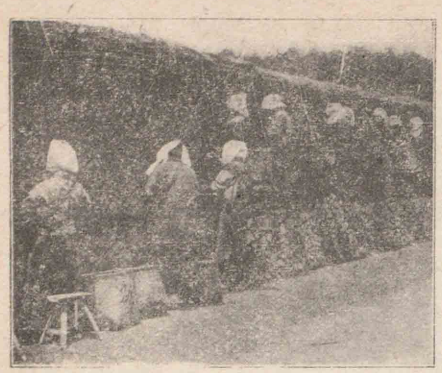
二　原始產業



中國山地の牧牛

(一) **中國山地鑛產**　には、生野の銀・銅、明延の錫が知られる。高原は中國地方に續く牧牛地帶で、牛が多く、役用を主とし、神戸に送つて、牛肉の罐詰とする。盆地・河谷には、桑園が連なつてゐる。

(二) **中央低地**　人工灌漑が進歩し、耕地が多い。米田は諸平野に開け、裏作として麥・菜種を作る。京都盆地・三重・奈良二縣の傾斜地に茶園、大都市の近郊に蔬菜園が多く、大阪平野南部に玉葱畑・蜜柑園・葡萄園、京都盆地に竹林、奈良盆地に西瓜畑があつて、特色ある景觀を呈してゐる。



摘茶の治宇

トラック蔬菜地帶　蔬菜は新鮮でなくてはならぬから、遠距離から移入することが出來ないので、都市の周りには必ず

手入の行き届いた蔬菜園が開ける。しかし近時はトラックで輸送が行はれるため、其の蔬菜地域の半徑も大きくなつた。このトラック輸送範圍の蔬菜栽培地域を、トラック蔬菜地帶といふ。東京・名古屋・大阪等の周りの蔬菜園は、この地帶に發達して、都市附近の共通景觀の代表的なものとなつてゐる。

赤穗の地方は、瀬戸内製鹽地帶の東端で、古くから製鹽で著れ、瀬戸内海では、鯛・鰆等が多く漁獲せられる。

紀伊山地

(三) 紀伊山地　紀ノ川の谷が主要生産地で、川の兩側には米田が連なり、其の中に桃園が點在し、兩側の山地には蜜柑園が開けてゐる。

有田川流域の丘陵は頂上まで蜜柑園となり、其の良質の蜜柑は全國各地に送られる。南方一帶には除蟲菊畑・梅林・罌粟畑が多い。

除蟲菊

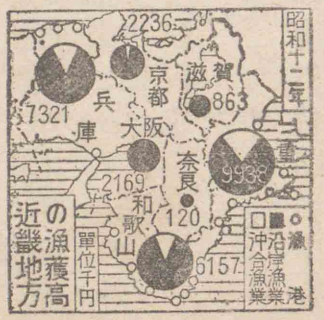
和歌山縣の蜜柑　氣候が溫暖で、土壤が蜜柑に適するため大産地となつた。德川時代の初から既に京阪に知られ、江戸に送つて次第に聲價を高めた。有田川流域一帶と、紀ノ川中流とが産地で、前者のは甘いが早く腐敗する缺點がある。

この部は、一般に雨量に惠まれて森林が連なり、林業を專業とするものが多く、杉の良材を産する。

耕地が少く、沿岸民は漁業に從ひ、鰮・鰹・鯛等の漁獲が多い。

東部の溺谷に眞珠貝を養殖する。

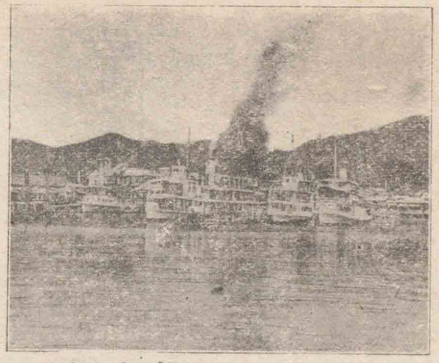
養殖眞珠　英虞灣・五ヶ所灣を始め和歌山縣の入江、長崎縣の大村灣、バラオ島等で養殖せられ、「ミキモトパール」として世に名高い。初め眞珠貝の體内に貝殼の核を入れ、再び海中で養ふのである。



農業(米・麥・菜種・西瓜・玉葱・蜜柑・葡萄・梅・茶・除蟲菊・栽桑・養蠶)　牧畜(牛)　林業(杉)　水産業(鯛・鰆・鰮・鰹・鮪・眞珠貝・鹽)　鑛業(銀・銅・錫)

三　交　通

陸運
水運
空運



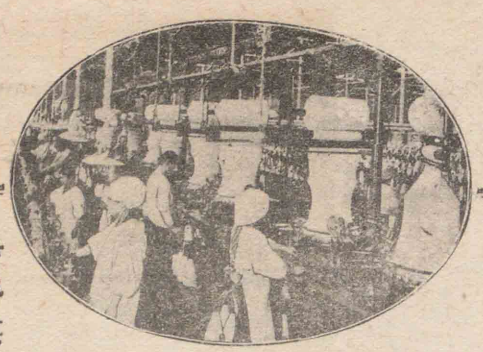
（港大津）運水の湖琵琶

(一)陸運　本州の地峽部に位し、永く政治の中心であつたため、主な街道は京都に集り、又東海道・山陽・關西・福知山・南海等多くの鐵道・電車が、阪神に集中してゐる。其の外、山陰・播但・參宮・奈良・紀勢の諸線、及び阪急・參宮等の諸電車が、四通八達してゐる。

(二)水運　大阪は近海航路、神戸は海外航路の中心で、紀伊半島沿岸・琵琶湖及び其の疏水・淀川等の水路も利用される。

(三)空運　定期航空路は大阪を中心として、富山・松山・白濱・高知・城崎・米子等に通じ、又東京から大阪・福岡・朝鮮・大連に至る幹線にも當つてゐる。

工業
阪神



大阪工場スヤリメの

伊勢海の沿岸

四　工業　商業

(一)工業　阪神は、京濱と竝ぶ我が國有數の大工業地帶で、餘勢は四隣に及び、綿絲・綿織物・毛織物・メリヤス・機械器具・燐寸・肥料・藥品・硝子・セルロイド等の製造が多い。

阪神工業地帶　阪神・京濱は我が國の二大工業地帶で、特に阪神は早くから文化が發達して需要が多い上、住民は商工業に秀れた才能を有つてゐる。而も位置は日本の中央を占め、地峽部に位して交通機關の集中點にあり、瀨戸内海の主交通路を有し、これによつて九州・中國・四國と連絡して原料・勞力・燃料が得易い等多くの好條件を具へてゐる。

伊勢海の沿岸　は中京工業地帶の續きで、四日市・津の綿絲、津・松阪の綿布、四日市の燒物等が著れる。

宮水の井戸

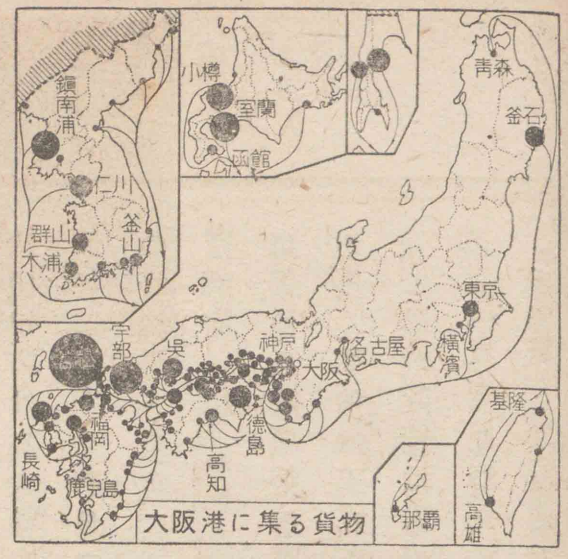
尚多量の水を必要とする人絹製造は、大津・宇治等琵琶湖の排水部に行はれ、又宮水（ミヤミツ）と原料とに惠まれた灘地方には、清酒の釀造が行はれる。

灘酒 六甲山の花崗岩下から湧く宮水を有すること、吉野杉の樽材がよいこと、攝津米のよいこと、丹波杜氏の技倆が勝れてゐること、交通機關が備はること、需要が多いこと等のため發達したもので、特に宮水は附近にも輸送して造酒家に愛用せられる。

京都に美術・工藝品、海南に漆器、八幡（ハチマン）附近に麻織物、滋賀縣の長濱、京都府の峰山等の養蠶地帶に縮緬、兵庫縣の龍野・加古川等の麥作地帶に醬油、奈良縣の高取附近に賣藥の製造が行はれ、兵庫縣の廣畑は近時大製鐵地となつた。

(二) 商業

大阪は安價・實用的の商品によつて、全國一の商業市となり、其の商圏は、西日本・滿洲國・中華民國を主とし、全世界に及んでゐる。**神戸**は輸入が多く、**大阪**は綿製品の輸出が多い。**四日市**は、繰綿を輸入し、綿絲・綿布を輸出する。日本海岸には開港の**宮津**があるが、商勢は振はない。



大阪港に集る貨物

五 處誌

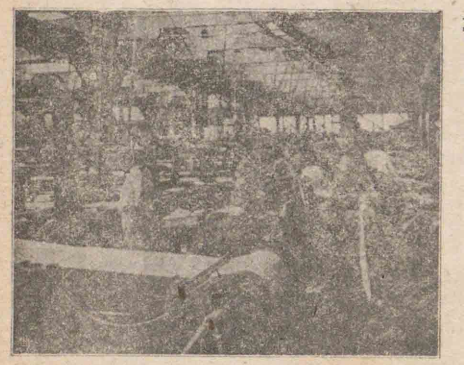
滋賀縣 湖北

養蠶地にある**長濱**は、濱縮緬の產地で、**米原**（マイバラ）は交通の要地である。

湖東

米・菜種等の產が多く、又織物業が發達し、綿絲・生絲の**彥根市**、綿帆布の**八幡・草津**、

滋賀縣 四、〇五一方粁 七一萬人 一七六人



長濱の縮緬工場 製品は濱縮緬といはれる

蚊帳・麻織物の**日野**等がこれを代表する。

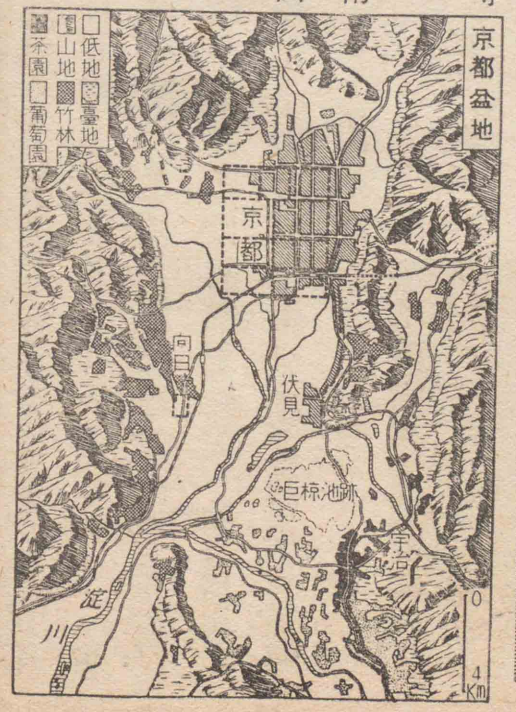
交通の要衝に當り、人絹・紡績・麻・ビロードの大工場がある。

三重縣　伊勢平野　**桑名市**・**四日市市**・**津市**・**松阪市**・**宇治山田市**等の綿工業市が連なり、中京工業地帯の延長としての景觀が濃い。宇治山田市は皇大神宮のある所で、神都といはれる。

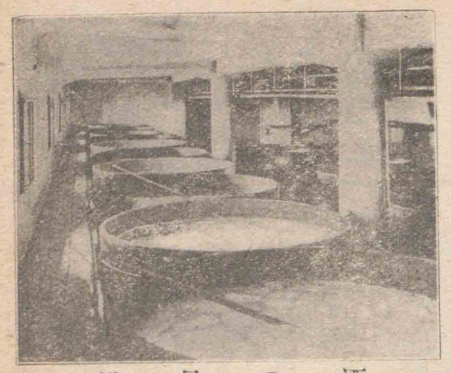
志摩半島　**大津市**は、水陸溺谷が多く、**鳥羽**・**波切**等の好漁港がある。

京都府　京都盆地　南東部の丘陵地帶に茶園が多く、**宇治**は玉露茶の産で著れ、近時は人絹の産額が多くなつた。

宇治茶　茶は溫暖で、水はけのよい丘陵地・臺地に適し、日射が十分で、適度の水蒸氣を得る所がよい。靜岡縣や宇治附近はこの條件に適つてゐるため、茶業が起り、宇治は足利時代既に盛であつた。宇治茶の産額は靜岡に遠く及ばないが、品質の優良なことは其の特色である。



三重縣	五、七六五	方粁
	二七萬	人
	二〇四	人
伊賀盆地の上野市（二一・一）は生絲・傘を産する。		
京都府	四、六二	方粁
	一七〇萬	人
	三六八	人



伏見の酒

京都市は、桓武天皇以來一千七十餘年間の帝都であつた處で、元、盆地北部の中央に南面して建設されたが、今は神社・佛閣の多い東郊に發展した。西陣織・友禪染・清水燒・栗田燒・蒔繪・京人形等、純日本式美術工藝品を產する。市内の**伏見**は、清酒を產する。

西陣織　桓武天皇の奠都遊ばされた時から、既に京都の絹織業は起つた。應仁の亂に一時四散した業者は、亂後西軍の陣地跡に歸つて其の業を復興したので、西陣織の名が起つた。明治に入り西洋の染織法をも採用し、今は數千萬圓の產出高を見てゐる。

奈良縣
三、六八九方粁
六二萬人
一六八人

丹波高原 牧牛・養蠶地帶で、**綾部福知山市**[一・四]等はこれを背景として發達した製絲地である。

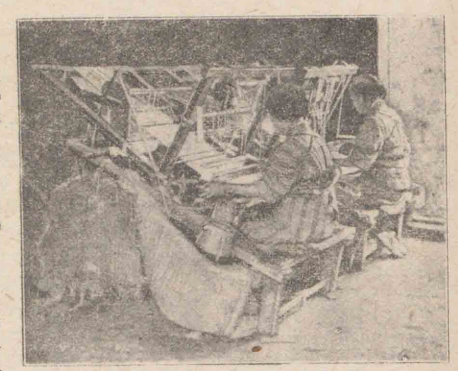
北部山地 若狹灣岸には、海軍要港の**東舞鶴市**[三・七]及び商港の**舞鶴市**[二・六]、開港の**宮津**[一・四]等がある。奥丹後には砂洲(サス)の天ノ橋立、縮緬產地の**峰山**[〇・五]がある。

奈良縣

奈良盆地 盆地は大生產地域である。**奈良市**[五・六]は、古の平城京(ナラノミヤコ)が、東大寺・興福寺の門前町として東方に移動した遊覽都市で、墨(スミ)・精巧工業品・蚊帳等の產が多い。**郡山**(コホリヤマ)[一・八]は綿絲布・金魚を產する。

郡山の金魚 德川時代の中頃、城主の柳澤氏が觀賞用に飼養したのに始り、明治維新の時、藩士の本業となつた。そして一般農家にも開放せられ、今では京阪神・東京・九州・中國・北海道・米國等に移輸出せられる。

和歌山縣
四、七二三方粁
八六萬人
一八三人



大和絣の織場

高田・御所(ゴセ)[一・六]附近は大和絣(ガスリ)の本場で、**高取**[〇・四]の附近は富山に次ぐ新興製藥地帶である。

南部山地 杉の美林が連なり、吉野川・熊野川によつて運び出され、住民は多く林業を專業として生活する。史上に名高い**吉野**[〇・四]は、遊覽地となつた。

和歌山縣

山地 **高野**[〇・八]は、金剛峯寺(コンガウブジ)で知られ、杉の良材を出す。

海岸 漁民・海外移民が多い。**新宮**(シングウ)**市**[三・二]は、熊野材の集散地で、製材・製紙が行はれ、**田邊**(タナベ)[二・七]附近に**白濱**[〇・五]溫泉がある。**湯淺・箕島**(ミノ)[一・一][一・五]は蜜柑を集散し、**海南市**[三・〇]は漆器・綿絲布を產する。

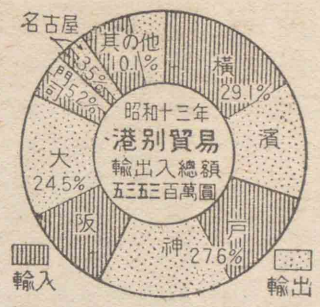
紀ノ川流域 **和歌山市**[一八・〇]には、綿織物・紡績・捺染を始め、諸種の工業が

大阪府
一、八一四方粁
四三〇萬人
二、三六九人

兵庫縣
八、三三方粁
二九二萬人
三五一人

盛である。

大阪府　**大阪市**は阪神工業地區の核心で、**布施市**・**豐中市**は其の接續市街をなし、**吹田市**は麥酒、**岸和田市**は綿絲布、**堺市**は綿絲布・セルロイド、**池田市**は酒で知られる工業地である。

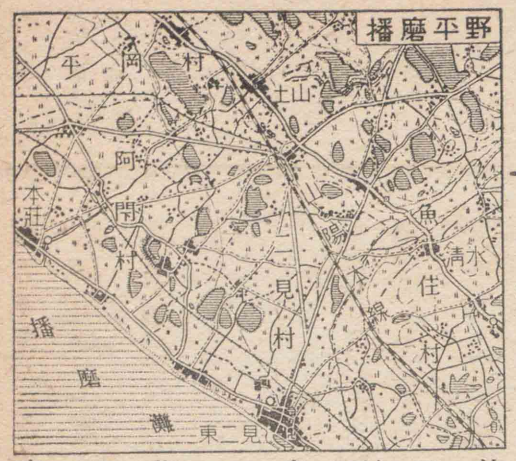


大阪市は、豐臣氏以來發展が著しく、商・工業區域は、淀川の三角洲上に開け、工場は五萬を算し、殊に纖維工業が盛である。

兵庫縣　**六甲山麓**　雨が少く溫暖で、溫泉(有馬)・冷泉(寶塚)もあり、休養・住宅區となつてゐる。

尼ヶ崎市は硝子・麥酒等の工業が盛で、**西ノ宮市**・**御影**等を含む灘地方は、釀造で著れる。**蘆屋市**は住宅地、**伊丹市**は清酒の産地である。

神戸市は天然の良港をなし、設備もよく、大工業地を控へて、我が國の主な貿易港である。

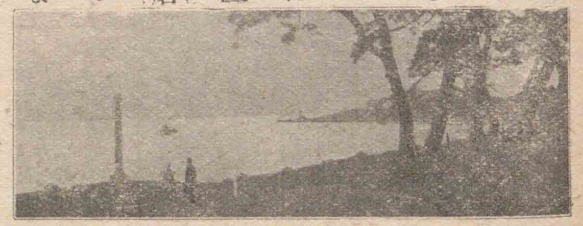


阪神間は阪神國道を通じ、尚東海道線・阪神・阪急等の鐵道・電車の便があり、我が國屈指の生産都市と貿易都市とが一都市の如くなつてゐる。尚**神戸**は鐵精錬及び鐵材料、造船・ゴム製品・製粉等の大工業市である。

明石市は綿絲布・燐寸の産が多く、この海岸一帶は休養地である。

淡路島　休養地區で、**洲本市**は綿工業地である。

播磨平野　山陽式の景觀を備へ、米・麥の産が多く、又近年漸く工業地區となつて來た。**西脇**は綿布、**加古川**は毛織物、**姫路市**は革細工・毛織物を產し、**飾磨市**には紡績・燐寸の工業が行はれる。**龍野**は醬油・素麺の產地で、**赤穗**は製鹽の中心をなし、炭酸マグネシウムを產する。



明石の海岸

赤穗鹽田　千種川の三角洲上に開け、淺野藩の奬勵により發達し、同藩のよい財源となり、多くの名臣を養ふことが出來たものである。

但馬地方　銀・銅山の**生野**、柳行李（ヤナギカウリ）産地の**豐岡**、溫泉地の**城ノ崎**等があつて、一般に山陰式の景觀を呈してゐる。

近畿地方の文化景觀

六　生活　特性

地形・歷史・交通・産業の關係から、中央低地の**人口**は、關東平野より稠密で、こゝが工業地區となり、中心は阪神大工業區をなし、尚續續**新興都市**が起つてゐる。阪神工業地區に聚落が集り、其の附近に、蔬菜栽培が榮え、風景・氣候・交通に惠まれた地が史蹟と相俟つて、休養・遊覽・週末旅行地帶となり、又中心部と周邊部とが密接な關係にあることは、關東・濃尾の兩地方に似てゐる。

位置
地形
氣候

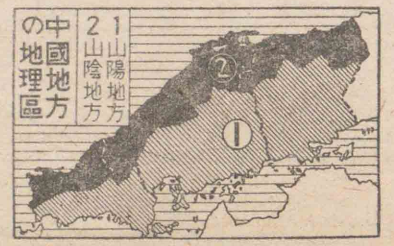
第五章　中國地方

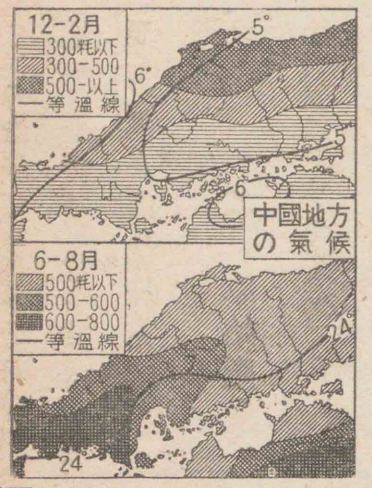
三一、六七九方粁
五七一萬人　一八一人

一　自然

(一)位置　本州西南部の半島で、近畿・九州兩地方の中間に位する。

(二)地形　稍中央より北に偏（カタヨ）つて高原性の中國山脈が東西に連なり、脈中には大山・三瓶山等の白山火山脈に屬する巨大な火山が竝び、圖のやうな地形區に分けられる。



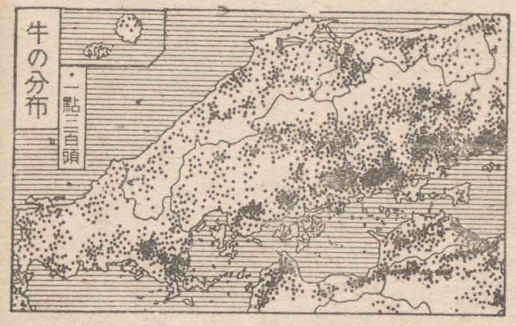


(三)氣候　中國山脈はこの地方を

二つの氣候型に分ける。山陽地方は南北に山地を控へて、夏冬共に季節風の風下となつて晴天が續き、山陰地方は冬に積雪が多い。

二　原始產業

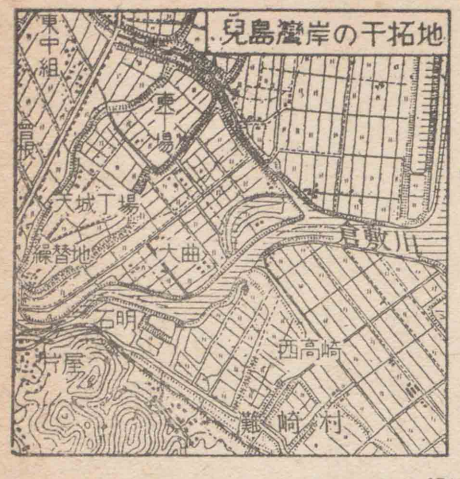
山陽地方　山地



(一)山陽地方　(1)山地　柵原(ヤナハラ)に硫化鐵、大嶺(オホミネ)に無煙炭、秋吉に大理石を產する。花崗岩地が廣いから、花崗岩材・陶土の產も多い。山地は雨量が少く、花崗岩の禿山で、林業は振はないが、山口縣の竹材、山口・廣島二縣の松・杉材が知られ、三次盆地には大麻の產がある。

平野及び沿岸

無角牛



牧牛も盛で、生牛を阪神に送つてゐる。

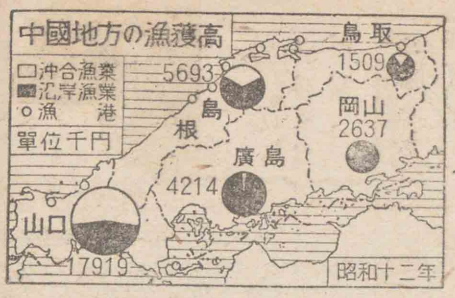
中國地方の牧牛　奥羽・北海道が牧馬地帶の核心であるのに對し、中國地方は牧牛の核心地帶で、既に上古より牛の產地として知られてゐた。特に岡山縣西北部產の千屋(センヤ)牛は肉牛として知られ、三次地方の神石(シンセキ)牛は和牛の最良種で、附近の七塚原には種畜牧場がある。隱岐には牧畑による特殊の牧牛法が行はれ、山口縣には無角牛の新品種もある。

(2)平野及び沿岸　瀬戸内海の島嶼は花崗岩の名產地で、宇部の炭田は我が國の主要炭田の一である。

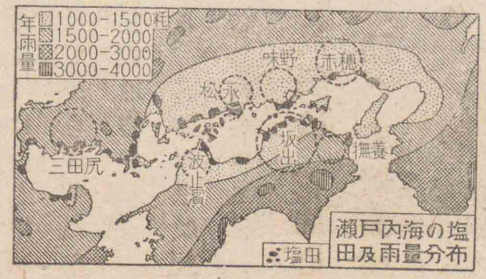
瀬戸内海の花崗岩　瀬戸内海一帶は我が國花崗岩の名產地である。兵庫縣六甲山麓より產出するのは「本みかげ」、岡山縣北木(キタギ)島のは「北木みかげ」、廣島縣倉橋島のは「倉橋みかげ」、山口縣德山產のは「德山石」、小豆島產のものは「小豆みかげ」と稱せられ、阪神・九州は固より、關東方

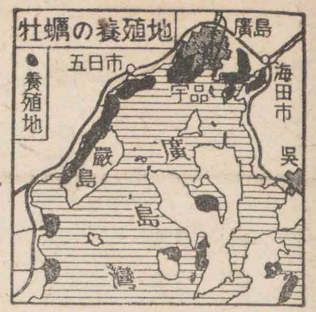
面に送られて、神社・大建築物を飾つてゐる。

平野は、諸所の干拓地や河谷の階段耕作地と共に、米産に富み、防長米・備前米の名が著れ、下關は米の集散地として名高い。一般に二毛作が行はれ、岡山縣は特に麥作が盛である。三備の海岸では**藺草**を栽培し、岡山・廣島兩縣に除蟲菊・薄荷を産し、又丘陵・島嶼には、桃・**梨**・**蜜柑**園が多く、牧畜では牛の舍飼が行はれる。



沿岸は干潟が多く、潮汐干滿の差が適度で、且晴天が多いため、至る所に鹽田が開け、味野・松永・防府は其の中心をなしてゐる。瀨戸内海は春夏の交には、産卵のため魚族が來集し、鯛・鰆・鰤の漁獲が多く、又廣島



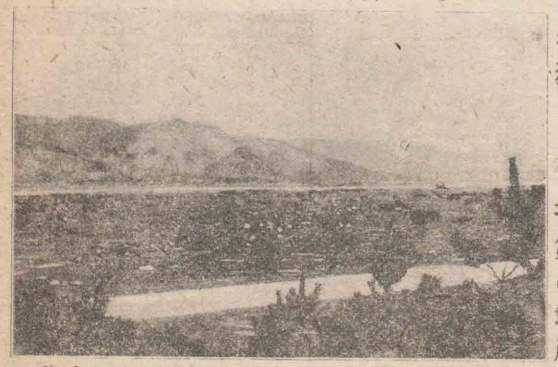


灣・兒島灣では牡蠣を養殖してゐる。

瀨戸内海の鯛　鯛は我が國民に賞味せられる魚で、瀨戸内海は春期産卵のために集る鯛が多く、鯛漁は多くの觀光客をも引いてゐる。稚魚は秋までに三寸大となつて外海に出で、數年後には親魚となつて、再び來游する。近時稚魚の捕獲により、次第に鯛産額を減じてゐる。

(二)山陰地方　(1)**山地**　砂鐵が多く、米子ではこれを原料として特殊鋼を作る。鳥取縣の岩美、島根縣の笹ヶ谷の銅は名高い。島根縣の西南には楮が多く、石見半紙を産する。

(2)**平野及び沿岸**　鳥取・斐伊川等の平野では米産が多く、二毛作は、餘り



斐伊川平野の松並木　松並木をめぐらした家が散在してゐる

振はない。海岸の砂丘の多い地方は栽桑養蠶が盛で、鳥取縣の梨、萩の夏蜜柑もよく知られる。隱岐群島と海岸の各地とは烏賊・鰒・鯛の漁利が多く、山口縣民は朝鮮近海にまで出漁し、下關は大漁港で竹輪・蒲鉾の產がある。

農業(米・麥・桃・梨・蜜柑・蘭草・除蟲菊・薄荷・楮・栽桑養蠶)
牧畜(牛)　林業(松・杉・竹)　水產業(鯛・鰆・鰒・烏賊・牡蠣・鹽)　鑛業(硫化鐵鑛・石炭・大理石・花崗岩・材・砂鐵・銅)

三　交通

(一)陸運　山陽線・山陰線は二大幹線で、二線の終點下關は釜山・門司に連絡船を通じてゐる。山口・伯備・因美・木次諸線は、主に山陰・山陽を連ね、四國との連絡には宇野線と連絡船と

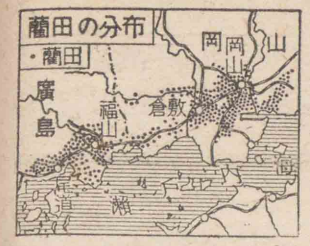
がある。

(二)水運　瀨戶內海は、內外の航路に當り、又中國・四國間、阪神・北九州間の交通路である。

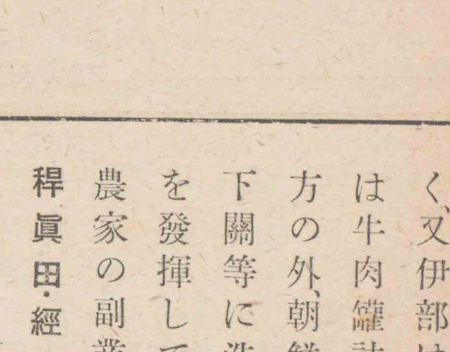
四　工業　商業

(一)工業　山陽地方は原始產業が發達し、水陸の交通が至便で、動力・勞力が豐であるから、阪神・北九州を結ぶ近代式大工業地として發展しようとしてゐる。岡山・倉敷・玉島・笠岡・福山等には綿工業が榮え、岡山・津山には生絲の製造が行はれる。清水に惠まれた三原・廣島・岩國・防府等には人絹・人纖工業が榮え、鞆・西條・三原には清酒を產する。山口縣には德山・宇部の曹達、宇部・小野田のセメント、下關(彥島)・宇部の硫安等、化學工業が榮えてゐる。三石・伊部には耐火煉瓦の產が多

く、又伊部は備前燒を產する。廣島には牛肉罐詰業が盛で、其の原料は本地方の外、朝鮮・支那に仰ぐ。尙玉野・因島・下關等に造船所があつて、內海の特色を發揮してゐる。岡山・廣島兩縣では、農家の副業として蠶表・輸出向花筵・麥稈眞田・經木眞田等が多く造られる。岡山・福山・尾道等は蠶表・花筵を、笠岡・高梁等は眞田類を集散する。

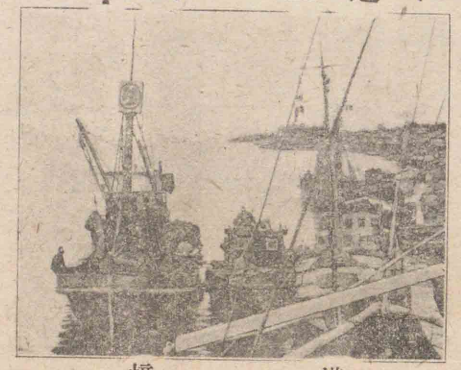


備後表　戰國時代に始めて織り出され、德川時代の初期に廢品原料利用の必要から中繼表が出來た。德川吉宗の頃花莚が出來、明治になつて織機が發明されて產額を增加し、今は輸出額も多い。原料の藺は冬期水田に苗を植ゑ、夏期刈取る。刈取後の株間には稻を作ることが出來る。


宇部セメント工場

山陰地方は山陽に比し、地理的條件が劣るため、工業の發達が後れ、從來は養蠶を背景とする鳥取・倉吉・米子・松江の生絲、石見の赤瓦・和紙、萩の萩燒等が僅かに知られるに過ぎなかつた。然し最近に至り、高津・江津に人絹・人纖の近代工業が勃興するに至つた。

(二)商業　大阪の商圈內にある。玉野・尾道・糸崎・宇部・下關(關門港の一部)・萩・濱田・境等、多くの開港場があるが、貿易は阪神の後背地で、下關港が僅かに著れるに過ぎない。


境港

五　處誌

岡山縣

岡山平野　三石・伊部は燒物を產し、岡山市・倉敷市・玉島・笠

岡山縣
七、〇四六方粁
一三萬人
一八九人

廣島縣
八、四三七方粁
一八〇萬人
二一四人

山口縣
六、〇八二方粁
一一九萬人
一九六人

造製田眞稈麥の縣山岡

岡等は纖維工業地で、又疊表を集散する。一・五

玉野市 三・八 は交通の要地で造船業が盛である。

北部山地 一般に牧牛地帶で、津山市 三・六 は生絲、高梁 一・〇 は麥稈眞田を產する。

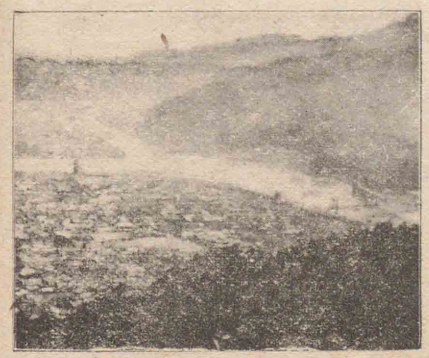
廣島縣 東部 綿絲・疊表產地の福山市、五・八 備後絣產地の新市、〇・三 疊表產地の尾ノ道市・三 三・一 原市 三・七 等の工業都市が連なる。

西部 中國地方の要部で、西條(酒)〇・四 海田市(製鋼)〇・四 呉市・廣・廣島市 二三・一二・三 三・〇 等が竝び、軍事關係工業地域として活氣を呈してゐる。

三次盆地 牧牛地帶で、三次 〇・七 が中心である。

山口縣 瀨戸內海方面 岩國市 五・一 德山市・下松市・防府市・宇部市・小野田市 三・二 三・四 五・一 七・七 三・〇 開港の下關市 一八・二 等があり、大工業地とならうとしてゐる。山口市 三・五 は、一教育地である。

日本海斜面 開港萩市 三・三 は、夏蜜柑を產する。



町次三が景近

地川盆江次は三川

島根縣
六、六二五方粁
七五萬人
一一三人

鳥取縣
三、四八九方粁
四九萬人
一四一人

島根縣 石見地方 奥地は林業地、海岸は漁業・農業地で、濱田市 三・三 は其の中心である。

出雲地方 大社 〇・九 には出雲大社があり、松江市 五・二 には瑪瑙細工・出雲燒の特產がある。

隱岐 島前 〇・五 には牧牛が行はれ、島後 〇・五 に漁港の西鄕 〇・五 がある。

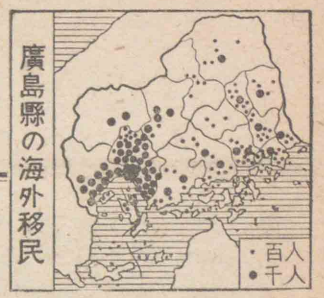
鳥取縣 平野では米作、臺地及び海岸の砂丘では桑作が行はれる。

米子平野 米子市 三・七 は平野の中心で、夜見ヶ濱の先端に開港の境 〇・七 がある。

倉吉平野 倉吉 一・七 は、平野の中心である。

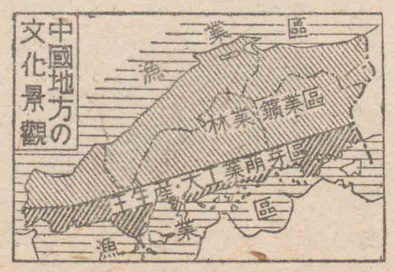
鳥取平野 中心の鳥取市 四・五 は生絲を產する。

六 生活 特性



(一)山陰は古來朝鮮と交渉があり、出雲文化を開いたが、瀨戸內海が交通の中心舞臺となると共に衰へた。山陽は交通に惠まれ、次第に工業地帶としての景觀を備へつゝある。山陽は總人口の四分の三を有し、人口の密度も大で、海外に發展するものが多い。山陰は人口の密度も小で、國內に出稼するものが多い。

(二)國勢が大陸方面に伸びると共に、廻廊としての山陽の役目は益〻重要性を加へ、神戸・下關間の新鐵道や、朝鮮海峽の海底トンネル等も計畫されてゐる。山陽地方は工業地として將來が期待されるが、旱魃や洪水の害を少くするため、造林と河川の改修とを急務とする。

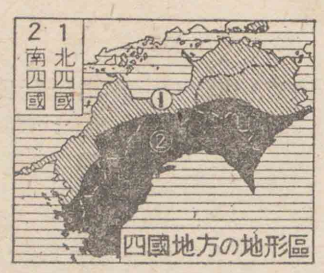


位置
地形
氣候

第六章　四國地方

一六、七三方粁
三三四萬人

一　自然



(一)位置　北は瀨戸內海を隔てて中國と相對し、南は太平洋に臨み、近畿、九州兩地方の中間にある。

(二)地形　中央を四國山脈讃岐山脈が走り、劍・石鎚等の高峯が聳えて、この地方を圖のやうな二地形區に分けられる。又瀨戸內海岸に沿つて、瀨戸內火山脈が走り、屋島の臺地や飯山を噴出してゐる。

(三)氣候　四國山脈の南北で、氣候は著しく異なり、北四國は溫和快晴であるが、南四國は多雨で、榕樹・樟・林投樹等の亞熱

帶性植物が生育してゐる。

二　原始産業

(一)北四國　北四國山地

(1)**山地**　別子に銅鑛を産し、小豆島には花崗岩の産が多く、西部には養蠶が行はれ、櫨・楮・三椏等が栽培される。

楮の原料製紙

別子銅山　元祿頃の發見にかゝり、以來續いて採掘されてゐる。鑛石は地下一二〇〇―一三〇〇米の處から盛に採掘されてゐる。其の鑛石は山下まで索道で送られ、こゝから鐵道で新居濱附近に送り、こゝで選鑛して海上十五粁の四阪島に運び、精鍊して粗銅とし、再び新居濱附近で、純銅・金・銀に分解せられる。

四國地方の氣候

(2)**平野及び沿岸**　平野に米・麥が作られ、丘陵・島嶼には蜜柑園・苹果園が開けてゐる。吉野川の流域は、礫層が多いので

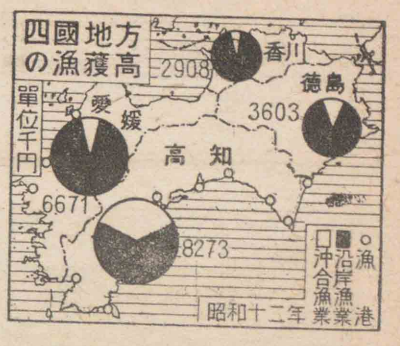
米田に適しないから畑が多く、池田附近に煙草を産し、脇町附近は藍作が衰へて桑の栽培が盛となつた。撫養・坂出・波止濱を中心として瀨戸内製鹽地帶の主要部があり、瀨戸内海に鯛・鰆、撫養に和布の産が多い。

十州鹽田　播磨備前備中・備後・安藝・周防・長門・阿波・讃岐・伊豫の十箇國に亙る鹽田のことで、其の製鹽額は內地の九割を占める。

(二)南四國　(1)**山地**　高溫多雨のため、杉・檜等の密林があつて、木材・薪炭・樟腦を産し、丘陵には楮・三椏が廣く栽培せられる。

高知縣の米の二期作

(2)**平野及び沿岸**　高知平野では年二回の米作さへ行はれ、又早



期蔬菜を作つて、京阪神地方に送る。近海は、鰹・鰤・鮪・鯨の水産に富み、特に高知縣は土佐節を産し、近年遠洋漁業も盛に行はれる。

農業（米・麥・野菜・蜜柑・梨・楮・三椏・櫨・煙草・藍・養蠶）　水産業（鯛・鰆・鰹・鰤・鮪・鯨・鹽・和布）　鑛業（銅・花崗岩材）　林業（杉・檜・薪炭・樟腦）

三　交通

陸運

(一) 陸運　鐵道は、山に隔てられて、各小平野に別々に設けられてゐたが、今は豫讃・高徳・徳島・土讃の四線が出來て、各地の連絡が稍便利になつた。

水運

(二) 水運　陸上の交通に反し、沿岸各港間及び各港と阪神・中國との水運は、割合に便利である。

(三) 空運　航空路は大阪から松山を經て別府に至り、又大阪・徳島・高知間にも開けてゐる。

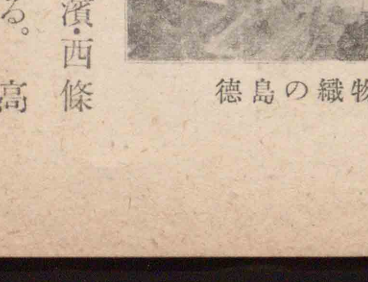
四　工業　商業

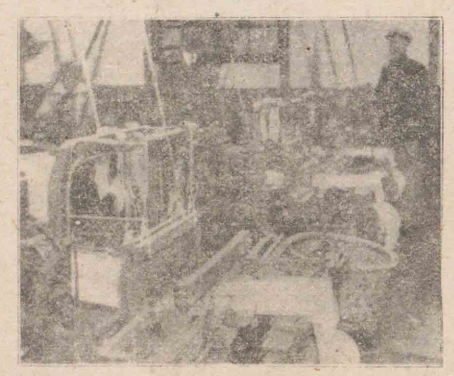
工業

精錬

近代工業

(一) 工業　中國と同様に瀬戸内海方面が盛である。別子の銅鑛は四阪島で精錬し、又直島では生野の鑛石を精錬して金・銀・銅を得る。徳島・高松・坂出・今治・西條・宇和島・八幡濱等には綿絲布、新居濱には化學・機械、徳島・新居濱・西條に人絹・人絹等の近代工業が行はれる。高





徳島の織物工場

和紙

商業

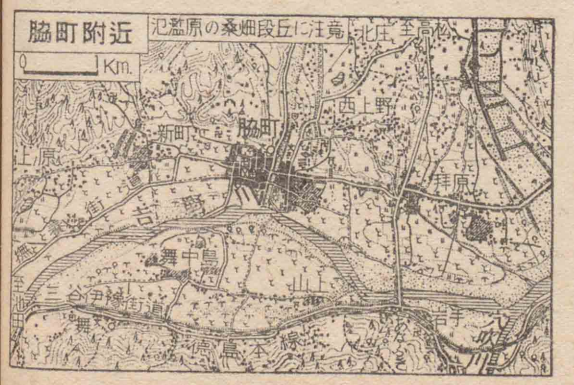
德島縣 四、一四三方粁 七三萬人 一七六人

知・愛媛兩縣には和紙の產額が夥しく、高知・伊野等が其の中心である。其の他、香川縣には麥稈眞田・叺(カマス)・醬油(小豆島)、高知・大洲(オホズ)・宇和島・八幡濱には生絲、高知にはセメント、宇和島附近には酒精の工業が行はれる。

(二)商業　阪神の勢力下にある。今治・高知は開港場である。

五　處誌

德島縣　吉野川流域　德島平野は水田が少く、池田(〇八)は煙草を產する。脇町(〇七)附近の藍畑は、近來多く桑園となつた。德島市(九七)は城下町で、人絹・綿布を產し、外港小松島(一九)は、綿絲の產が多い。撫養(一八)は鹽・足袋の



香川縣 一、八五九方粁 七五萬人 四〇三人

愛媛縣 五、六六七方粁 一一六萬人 二〇六人

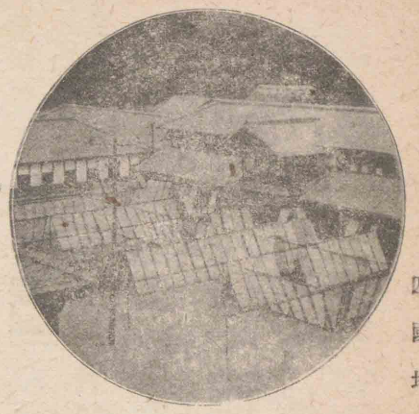
高知縣 七、一〇四方粁 七一萬人 一〇一人

產地である。

香川縣　讃岐平野　多くの灌漑用貯水池は、養鯉・養蛙にも利用され、耕地がよく開けて農產が多い。高松(八七)・市・丸龜(三〇)・市・坂出(二一)・多度津(〇七)・善通寺(一七)等の都市があり、次第に工業地化して來た。琴平(〇七)は金刀比羅宮(コトヒラグウ)の門前町である。

愛媛縣　東豫　新居濱市(三二)・西條市(三三)・今治市(一八)等の工業地が連なり、波止濱(〇四)は製鹽地である。北豫　松山市(一二二)には綿工業が行はれ、道後湯(〇八)は溫泉地である。南豫　肱川流域は桑畑(〇八)が多く、大洲(一六)は生絲を產する。佐田岬以南のリアス式灣內に、地方的中心の八幡濱市(三一)・宇和島市(五一)がある。

高知縣　足摺岬方面　清水(一二)を始め漁業聚落が多い。高知平野



伊野の製紙

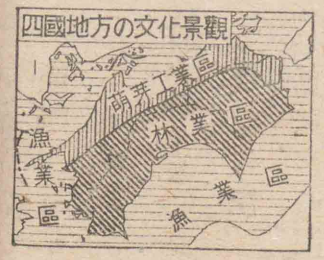
須崎は漁港で、伊野には製紙が盛である。高知市〇・九〇・八一〇・三は、城下町で、セメント・和紙・生絲を產する。

室戸崎方面　室戸岬は漁業が盛で、附近は雄大な眺を以て著れる。〇・六

六　生活　特性

(一)人口は內海方面に集り、殊に香川縣の人口密度は、本邦第六位で、縣外に出る海員・出稼人・移民が多い。南四國は久しく隔絕して、人口密度が尙小さい。要するに四國地方は、主要交通路より外れ、南北兩方面とも、平野が少くて大都市の發達がおそい。

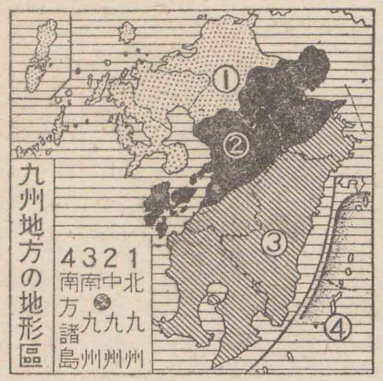
(二)北岸方面は山陽地方と同樣、工業地帶とすべきで、工業發達の條件を多く備へてゐる。



第七章　九州地方

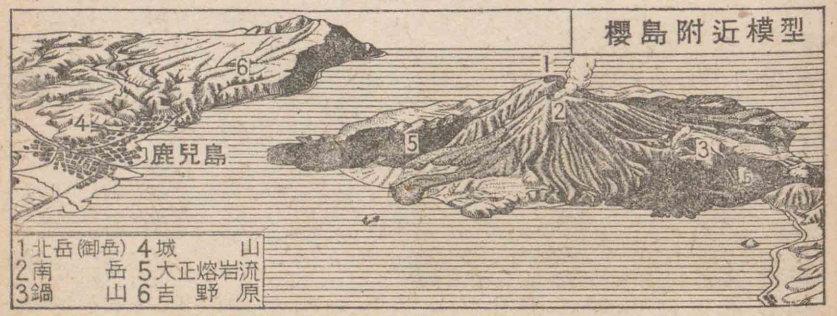
四四、四六五方粁
一、〇五一萬人
二三六人

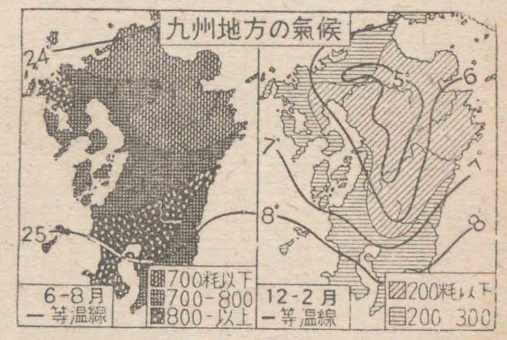
一　自然



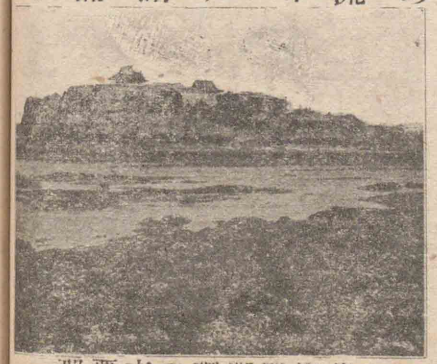
(一)位置　內地の最西部で、大陸に對するよい位置を占め、特に北九州は主交通路に沿つてゐる。

(二)地形　北部には多くの山塊に分れた筑紫山脈、南部には高い九州山脈が、共に斜に走り、この二つの山脈の間には、鶴見・由布・阿蘇・雲仙等の





が流れて一般に溫暖である上に、近海は暖流は山陰に似て、冬は曇天が多く、南九州葵は高溫多雨で樟が繁り、南方の諸島は亞熱帶性で雨が多く、榕樹・蒲葵（ガジュマル・ビロウ）が繁り、珊瑚礁が發達してゐる。

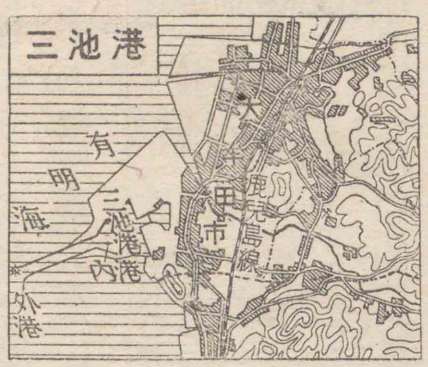

那覇市の珊瑚礁海岸

(三) 氣候　南方にある上に、近海は暖流である。北九州は山陰に似て、冬は曇天が多く、南九州葵は高溫多雨で樟が繁り、南方の諸島は亞熱帶性で雨が多く、榕樹・蒲葵が繁り、珊瑚礁が發達してゐる。

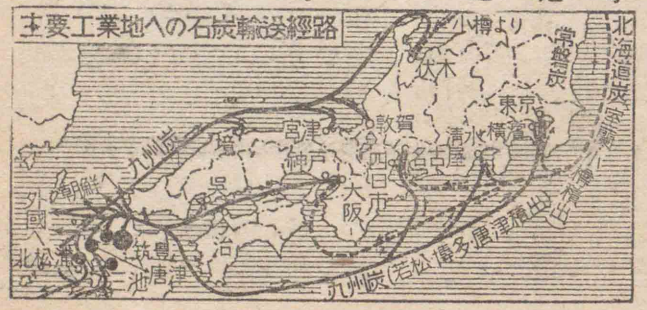
火山や別府・雲仙等の溫泉が多い。南部には、霧島・櫻島等の火山や霧島・指宿等の溫泉を含む霧島火山脈が、遠く薩南・琉球等の列島に及んでゐる。この地形により、この地方は圖のやうな四地形區に分れてゐる。

二　原始產業

(一) 北九州　遠賀（オンガ）川流域の筑豐炭田を始め、三池・唐津・高島等の諸炭田があつて、北九州繁榮の原動力となつてゐる。



北九州の石炭は、足利時代に三池で見出された。石炭のことを五平太（ゴヘイダ）といふのは、今から二百二十餘年前、高島炭を見出した人の名だといふ。今は全國出炭額の四十四%を產出し、其の三分ノ二は筑豐炭が占める。これ等の石炭は若松・戸畑・門司・三池から積出され、關東・北陸から海外にまで供給さ

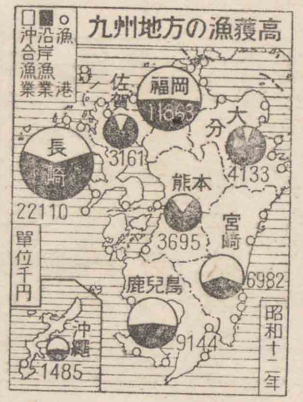


れる。

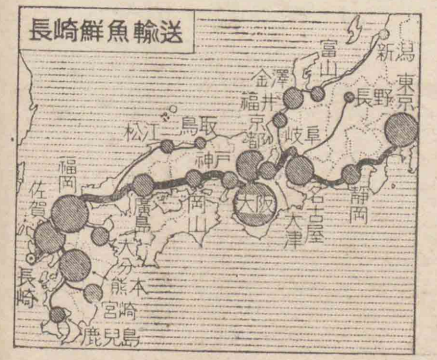
農業

諸平野には米田が開け、筑紫平野には灌漑・排水の溝渠網が全國中最もよく發達してゐる。これ等の米は、主として久留米・佐賀・門司等で集散される。一般に二毛作が行はれ、麥・菜種の產も多い。筑紫平野の丘陵には櫨が多くて秋色麗(ウルハ)しく、木蠟を產する。各地の砂丘地・臺地には甘藷・粟等の栽培が盛で、長崎附近は枇杷の產が多い。

水產業

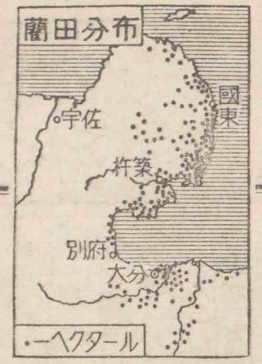


近海は烏賊・鰮・鯖・鰤、有明海は牡蠣・蠣(アゲマキ)の產が多い。トロール漁業は戸畑港を根據とする。海產物は長崎の大漁港を始め、博多・唐津等に集められ、遠く京濱・支那にまで供給される。



中九州鑛業農業

(二)中九州　火山地域に鯛生(タヒオ)・馬上(バジヤウ)の金產地がある。熊本平野は肥後米の產地として名高く、其の周圍の火山灰臺地には粟・甘藷の產が多く、養蠶も盛である。球磨川の三角洲には西瓜、國東(クニサキ)半島には七島藺が多く栽培される。

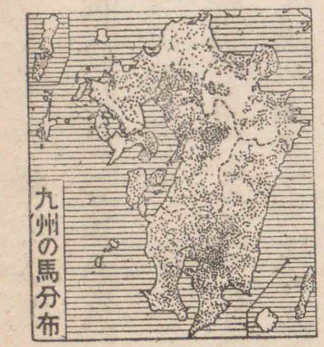


牧畜

七島藺(シチタウヰ)　かやつり草科の多年生植物で、普通の藺とは異なつてゐる。大分縣が主產地で全國の過半を產し、靜岡・熊本・鹿兒島・沖繩の諸縣にも作られる。質が強いから引裂いて乾かし、七島表に製する。

七島藺

火山の裾野や火口原は、馬・牛の牧場に利用される。



南九州
鑛業
林業
農業
牧畜

(三) **南九州**　山地には山ヶ野・串木野の金、見立・尾平の錫、及び槇峰の銅等、鑛産が豐である。大分・宮崎の兩縣には杉・檜の良材や、薪炭・椎茸・樟腦・竹材等を産する。

火山灰の臺地には畑が開け、甘藷・粟の栽培が盛である。

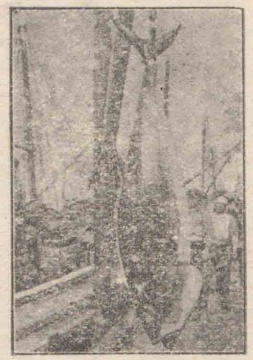
九州の甘藷分布

甘藷　元祿の頃琉球人が南支那から傳へ、種子ヶ島を經て鹿兒島に入り、享保の頃日本の各地に弘められた。暖い國の砂質壤土又は火山灰・輕石層の畑地に適するので、九州地方の産額は全國の過半を占めてゐる。從つてこれを背景として近時は酒精釀造の業が、大津・出水・高鍋・鹿屋等に起つた。

國分・指宿・出水附近には煙草の栽培が榮え、又豐後水道方面には蜜柑、宮崎附近や指宿溫泉地には野菜の促成栽培が行はれる。火山の裾野や火山灰臺地は牛・馬

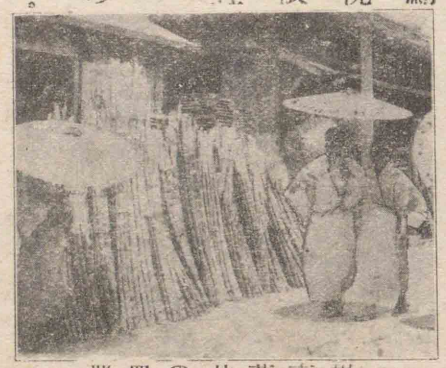
水産業
南方諸島

の放牧に利用されるが、近年次第に開墾されつゝある。


漁鰹の州九南

水産では鰹・鮪が著れ、山川・枕崎等は其の根據地をなし、且良質な薩摩節を産する。

(四) **南方諸島**　高溫であるが、山勝ちのため、甘藷・甘蔗の栽培が盛である。豚・山羊の飼育が普及し、漁業も榮えてゐる。屋久島には杉の美林がある。


場市蔗甘の覇那

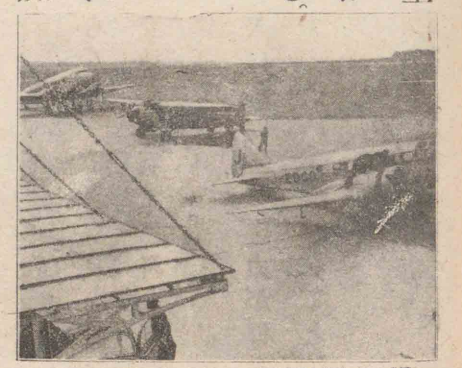
農業(米・麥・粟・菜種・甘藷・西瓜・野菜・甘蔗・煙草・櫨・七島藺・養蠶)
牧畜(馬・牛・豚・山羊)　**林業**(杉・檜・薪炭・椎茸・樟腦・竹材)　**水産業**(烏賊・鰮・鯖・鰤・鮪・鰹・鰹節)　**鑛業**(石炭・金・錫・銅)

三　交通

(一)陸運　鐵道は北西九州に最も發達し、南東九州は疎である。鹿兒島線は北は關門連絡船に連なり、南は三太郎越の難所を通過して、南北九州を連絡する。日豐線は東岸を通過して鹿兒島線に連なうて九州の大環狀線をなし、肥薩線は、ループ線で九州山脈の矢岳を越え、日豐線に連なる。豐肥線は阿蘇火口原を横斷して、鹿兒島日豐兩線を結び、長崎線は九州の産炭・工業地と長崎とを連結する。

(二)水運　門司は瀨戸內海の咽喉を扼し、且石炭積込地で、長崎と共に北九州工業地の門戸であるから、出入の船舶が多い。鹿兒島は、琉球・臺灣航路の要港である。

(三)空運　航空路には、大阪・福岡、福岡・臺北、大阪・別府、東京・福岡・大連等の諸線があり、近時北支・中支にも空路を通じる。


福岡飛行場にある雁の巢

四　工業　商業

(一)工業　工業は位置・燃料・勞力・交通に惠まれた北九州に勃興してゐる。殊に門司・小倉・戶畑・若松・八幡は、連續した一大工業市をなし、小倉の陸軍造兵工廠・八幡の製鐵所を始めとし、大工場が連なり、鐵機械・小麥粉・砂糖・麥酒・洋紙・綿絲・セメント・硝子・肥料・工業藥品・電線・化學等の近代工業が興つてゐる。

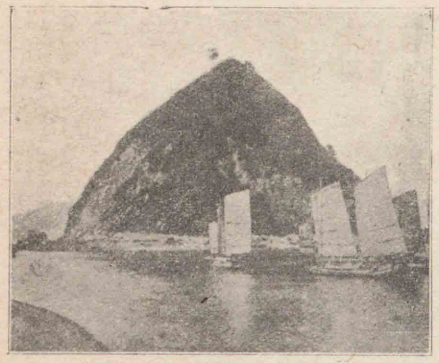
八幡製鐵所　元、官設であつたが、今は日本製鐵株式會社の經營である。原鑛は朝鮮・滿洲國・中華民國・南洋から輸入し、洞ノ海沿岸數粁に亙る大工

場で處理してゐる。八幡は明治二十年頃は人口一千二百に過ぎなかつたが、明治二十九年製鐵所設置以來、急に發展して、今は二十一萬の大都市となつた。

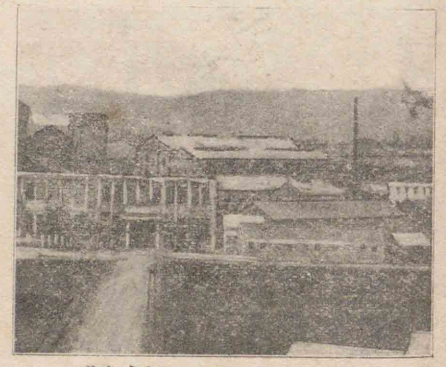
又餘勢は四隣に及び、長崎・佐世保に造船、大牟田・佐賀・長崎・大分に紡績、佐賀、關に金・銀・銅の精錬、久留米に地下足袋・タイヤ・機業、博多・久留米にゴム靴の工業が起つた。

北九州が大工業地帶となつた理由は種々あらうが、①豐富な炭田を控へて燃料を得るに便利なこと、②海陸の交通が便利で、原料や製品の輸送に都合がよいこと、③朝鮮・中華民國に近く原料の買入、製品の輸出の便利であること等が大原因で、尙 ④人口が稠密で勞力が得易いこと、⑤諸川の上流は水力發電に適し、電力の供給が容易なこと等が擧げられる。

尙水力電氣の便ある延岡・水俣に窒素工業、養蠶業を元にし


三角港

て烏栖・宮崎・都城・鹿兒島に製絲業が興り、又延岡に人絹、久留米・博多・大島等に織物、飯塚・柳河・長崎等に釀酒、有田地方に燒物、國東半島に疊表、鳥栖附近に製藥、八代・津久見にセメントの工業が行はれ、各地に酒精も製造せられる。


延岡の窒素工場

(二)商業　北九州港は頗る活氣を呈し、遠く阪神・東京・滿鮮・支那と取引する。**地方商業**の中心は、福岡・熊本・鹿兒島である。**外國貿易**は、阪神と關係せずに獨立して行はれ、門司・長崎が二大門戶で、綿絲・綿布・精糖・石炭等を輸出し、棉・豆粕等を輸入する。

福岡縣
四、九四〇方粁
二七六萬人
五五八人

右の外、若松・博多・唐津・三池・住ノ江・口ノ津・三角・嚴原・鹿兒島・那覇の十開港がある。

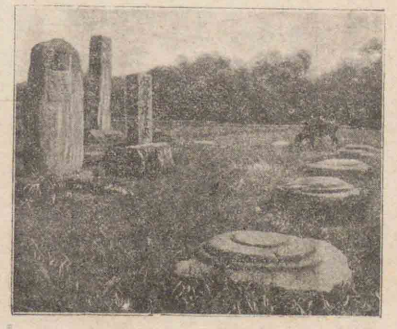
五　處誌

福岡縣　位置がよく、石炭・勞力等諸條件に惠まれて產業が榮え、十個の市がある。

北九州工業地帶　大工業地域で、**門司市**・**小倉市**・**戸畑市**・**若松市**・**八幡市**等の大工業市が連なり、阪神・京濱・中京と共に我が國の四大工業地といはれる。

筑豐炭田地方　我が國の最大の炭田があり、**二瀨**・**直方市**・**飯塚市**・**後藤寺**等の炭坑町が發達してゐる。

福岡平野　**福岡市**は九州文化の中心で、種々の工業が行はれ、**太宰府**は昔時鎭西の要地であつた。


太宰府の古址

筑紫平野　大農產地帶で、**久留米市**は其の中心の商工業市である。**三池**炭田を背景とした**大牟田市**は大工業市となつた。

佐賀縣　筑紫平野　**鳥栖**は製絲・製藥地、**佐賀市**は米の取引地で、綿絲布の產地である。

筑紫山地　**唐津市**は石炭の輸出港である。**有田**は有田燒の產地で、外港**伊萬里**は漁港である。

長崎縣　灣入が多く山勝ちで、甘藷が盛に作られ、海外移住者又は漁民が多く、漁獲高は他府縣に冠絕してゐる。

筑紫山地　**長崎市**、交通・製絲地

島原半島　**雲仙嶽**は

佐賀縣
二、四四九方粁
六九萬人
二六〇人

長崎縣
四、〇七六方粁
一三〇萬人
三二八人

帶で、**久留米市**は其の中心の商工業市である。**三池**炭田を背景とした**大牟田市**は大工業市となつた。

佐賀縣

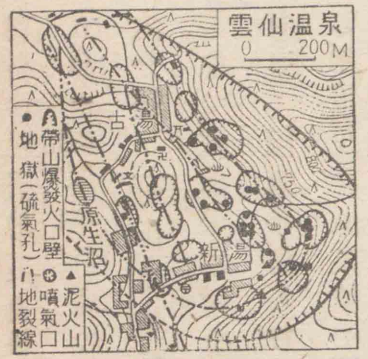
筑紫平野　**鳥栖**は製絲・製藥地、**佐賀市**は米の取引地で、綿絲布の產地である。

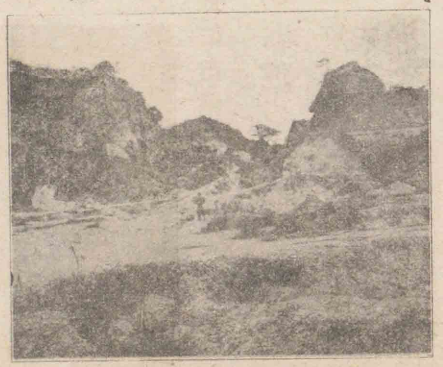
筑紫山地　**唐津市**は石炭の輸出港である。**有田**は有田燒の產地で、外港**伊萬里**は漁港である。

長崎縣　灣入が多く山勝ちで、甘藷が盛に作られ、海外移住者又は漁民が多く、漁獲高は他府縣に冠絕してゐる。

筑紫山地　**長崎市**、交通・製絲地の**諫早市**等がある。

島原半島　**雲仙嶽**は




有田の陶土採掘場

大分縣
六、三三四方粁
九八萬人
一五五人

熊本縣
七、四三八方粁
一三九萬人
一八六人

内外の休養地で、**島原市**[三・一]は史上に名高い。

島嶼部 漁業地域で、五島の**福江**[フクエ]、**平戸**[ヒラド]島の**平戸**[一・三]、壹岐の**勝本**[カツモト][〇・七]、對馬の**嚴原**[〇・九]等漁港が多い。

大分縣 周防灘斜面 **中津市**[三・〇]は綿絲工業地で、豐前米・木材を集散する。

別府灣斜面 國東半島の**杵築**[キツキ][〇・九]は七島表を集散し、**別府市**[六・二]は溫泉地で、**大分市**[六・二]は綿絲を產する。

豐後水道方面 **佐賀**[一・五]**關**は金・銀・銅の精錬地、リアス式灣内の**臼杵**[三・一]は製絲、**佐伯**[サヘキ]**市**[三・二]**津久見**[二・〇]はセメント工業地である。

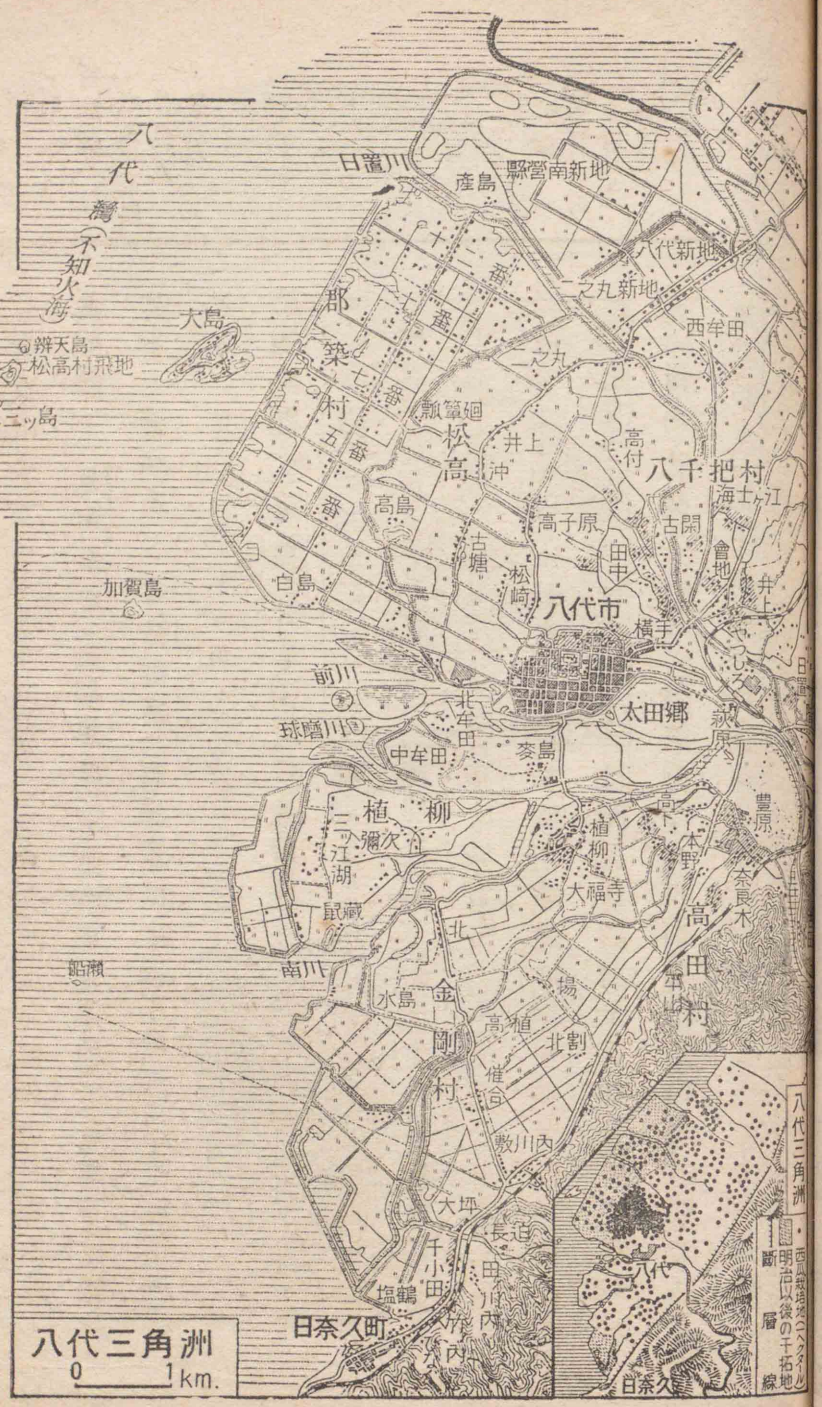
西部山地 **日田市**[三・五]は日田盆地の中心である。

熊本縣 熊本平野 中心は城下町の**熊本市**[一八・七]で、其の門戸に開港**三角**[〇・七]がある。

球磨川上流 山地は木材・椎茸・薪炭を產し、**人吉**[一・八]で集散する。

八代海岸 球磨川三角洲の中心の**八代市**[三・二]は、種々の工業が行はれる。**水俣**[二・八]は、窒素工業が盛である。

椎茸の栽培



宮崎縣 七、七三九方粁 八三萬人 一〇七人

鹿兒島縣 九、一〇四方粁 一五九萬人 一七五人

天草島には丘陵・臺地が多く、甘藷を栽培し、又陶土・無煙炭を産する。島内には出稼する者が多い。

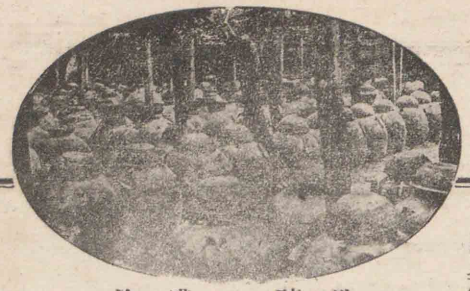
宮崎縣 日向平野 **延岡市**は窒素・人絹工業地で、**宮崎市**は綿絲・生絲を産する。霧島山麓 **都城市**は生絲、**小林**は農・畜産市場である。

鹿兒島縣 大隅 肝屬平野の**笠野原**は、大農式の新開墾地で、**鹿屋市**はこの地帶の中心である。**國分**・**垂水**は煙草を産する。薩摩 **鹿兒島市**は城下町で、生絲・織物を産し、**出水**は酒精釀造地、**指宿**は溫泉町で、**谷山**は鹿兒島に對する野菜供給地である。

山川・枕崎は、漁港で鰹節を産し**川内市**は米の集散地である。

薩南諸島 種子ヶ島・屋久島・奄美諸島から成り、大島の**名瀬**が最大

沖繩縣 二、三六六方粁 五九萬人 二四八人



泡盛の醸造

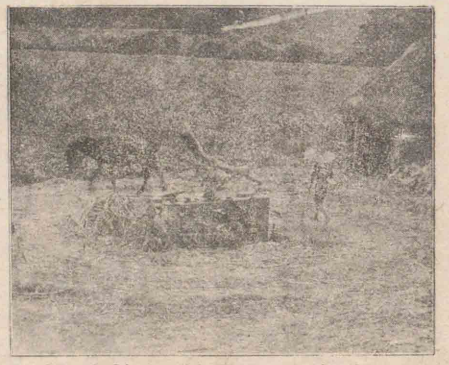
聚落である。

沖繩縣 山勝ちの小島で氣溫が高く、榕樹・蒲葵が茂つてゐる。南方に孤立してゐるので文化の發達は稍後れ、人口が稠密で縣外に活躍する者が多い。住民は多く甘藷を作り、米で泡盛を釀し、甘蔗で黑砂糖を製する。芭蕉布・漆器・琉球絣を産し、豚・山羊を飼養する。

沖繩諸島 開港の**那覇市**には、この地方特有の工業が行はれ、**首里市**は舊都である。

先島諸島 は甘蔗を作り、鰹節を産する。

大東島・沖大東(ラサ)島は、燐礦を産する。



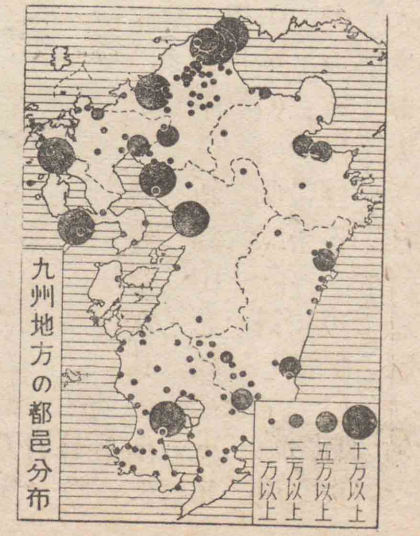
小規模な製糖

黑砂糖の製造

大東列島 北

六　生活　特性

(一) 南東九州は早く神代に開けたが、近代的工業を招く要素を缺き、人口も疎で農村型の聚落が多く、九州の背面として九州の生活景を表してゐる。北西九州は夙に外國との交通が開け、工業の發達が著しく、人口が急增し、多くの工業都市・炭坑都市が起つた。



(二) 將來は大阿蘇の伏流・九州山地の多量の水を利用する發電事業を起し、其の優秀な位置を利用して、益々工業の殷盛を圖り、延いて貿易の發展を期さなければならない。

第八章　臺灣地方

附　新南群島

三五、九六一方粁
五七萬人
一二三人

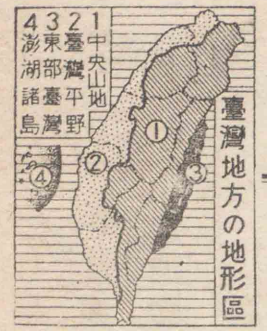
一　自然

位置

(一) **位置**　帝國の南西端に位し、東支那海と南支那海とを扼し、海を隔ててフィリピン・中華民國と對し、この方面の重要な我が生長尖端（セイチョウセンタン）である。

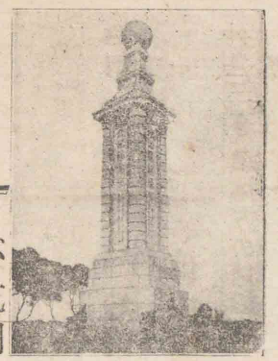
地形

(二) **地形**　臺灣山脈が中央を南北に走り、蕃界嶺が其の西に前山となつて連なり、これ等の山脈中に、新高山を始めとして高峯が聳えてゐる。山地の西側は、急斜して臺灣平野となり、更に淺い臺灣海峽に移る。東側は臺東地溝を距てて臺東山脈があり、太平洋に急斜する。尚北方には大屯火山群が噴出してゐる。この地形



により、圖のやうな三地形區に分けられる。

(三) 氣候　北回歸線が略中央を横ぎり、極めて溫暖で四季の變化が目立たない。雨量は一般に多く、夏は南西季節風が吹くから、南部が雨季で北部が乾期となるが、冬はこれに反し、北東季節風が卓越するから、北部が雨期、南部が乾期となる。初秋には屢〻颱風の被害がある。



北回歸線の南方の標

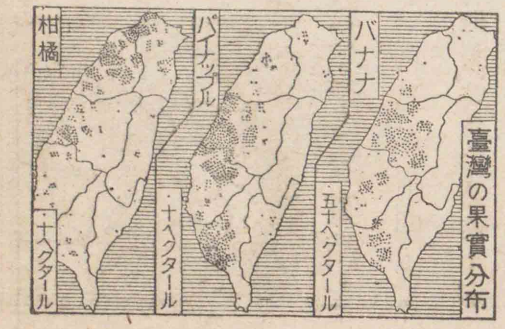
二　原始産業

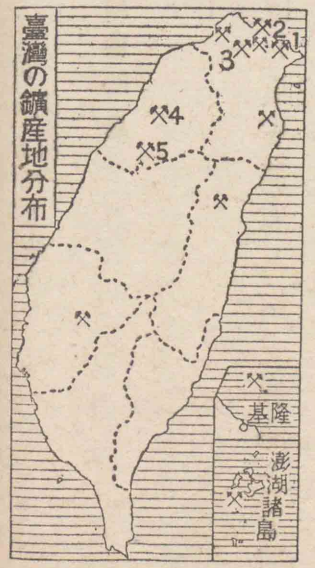
(一) 中央山地　蕃界嶺の麓は含油層が多く、**出磺坑**に石油、錦水に石油ガスの噴出がある。金瓜石・瑞芳に金・銅・石炭、武丹坑に石炭を産する。高山上には寒帶植物があり、下ると檜・紅檜の原生林がある。阿里山・八仙山・太平山の美林は、盛に伐採されてゐる。

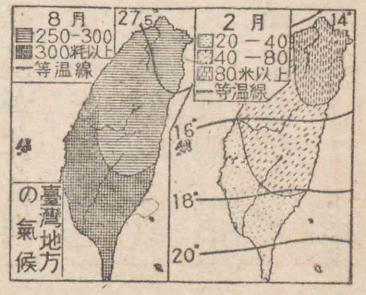
阿里山の廣さは東西八粁、南北二十粁に及び、其の蓄積材木量は針葉樹と濶葉樹とで、二億二千萬石に達する。

八仙山は廣さ東西十六粁、南北三粁、蓄積量一億石、**太平山**は東西四十八粁、南北二十粁、蓄積量五億石に及んでゐる。

(二) 臺灣平野　溫暖であるから、この平野には榕樹・檳榔樹・ヘゴ・林投樹・竹・大甲蘭・バナナ・パイナップル・パパヤがよく生育し、茄子・蕃椒は多年生である。





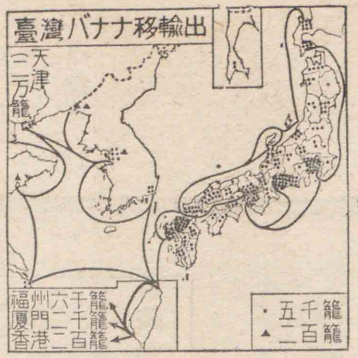


水牛

丘陵地は、熱帶闊葉樹林帶をなし、樟は本島森林の王といはれる。動物には、水牛・黃牛・豚・穿山甲等が住み、特に豚の頭數は內地の二倍に及んでゐる。

中部は、極めて雨量が少いから、埤(溜池)圳(水路)を作つて灌漑し、米の增收に大きな實績を擧げてゐる。

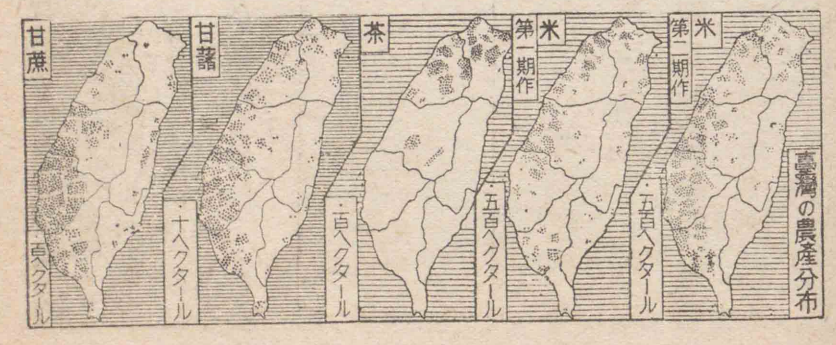
農が主産業で、**米**(年二回收穫、內地米改良の蓬萊米が多い)は各地に作られ、彰化・臺中は其の取引地で、基隆から內地に送る。茶は北部の丘陵・段丘上に作り、年十數回摘葉され、臺北で精製し、基隆から輸出する。中にも紅茶は英・米に、烏龍茶はアメリカ合衆國に、包種茶は南洋に送られてゐる。



甘蔗園は平野の中部以南に廣く、**甘藷**は米に次ぐ常食物で、季節と所とを選ばず栽培され、特に南部平野に多く、米・茶・甘蔗と共に、本島の四大農產物である。**落花生・麻類・煙草・バナナ・文旦・パイナップル・龍眼肉**の產も多く、バナナは盛に內地・中華民國に送られる。

陸棚の廣い北方の海には、乾季に漁業が行はれ、近年遠洋漁業も起つた。

鰹節は基隆で製造される。中部南部の少雨地には天日製鹽が行はれ、沿岸の砂嘴や潟湖の多い



地帶では、虱目魚・鯔・牡蠣を養殖する。

(三) **東部臺灣**　砂金の埋藏が多いといはれ、地溝は內地人・本島人の移住者によつて次第に開かれ、米・甘蔗・落花生が栽培されてゐる。

農業(米・甘蔗・茶・甘藷・バナナ・パイナップル・文旦・龍眼肉・落花生・麻類・煙草)
牧畜(豚・水牛・黃牛)　**林業**(檜・紅檜・樟)　**水產業**(鰹・鰹節・虱目魚・鯔・牡蠣・鹽)
鑛業(金・銅・石炭・石油)

三　交通

陸運

(一) **陸運**　臺灣平野は鐵道網が密で、臺灣縱貫線を幹線として、宜蘭・淡水・臺中・潮洲の諸線があり、林業地・製糖地には、多くの輕便鐵道が開け、東部には、臺東線がある。

水運

(二) **水運**　基隆・高雄は航路の中心で、西海岸・河川に、竹筏が使はれる。

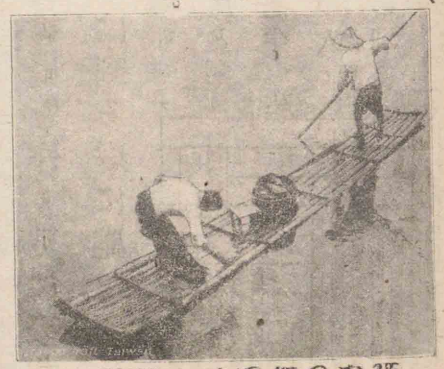
空運

(三) **空運**　航空路は、福岡・臺北間が主で、尙臺灣一周線等がある。近時臺北より、タイ國に行く空路も開けた。

四　工業　商業

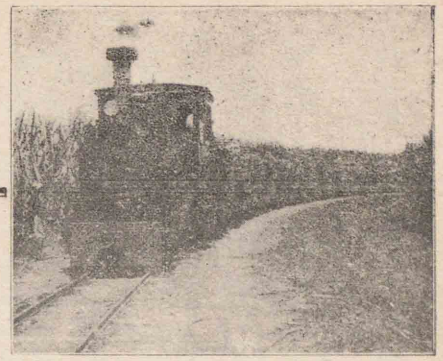
工業

(一) **工業**　水力による發電事業は有望で、現在は大規模のものが日月潭に完成してゐる。一般に工業は未だ萌芽時代で、大抵原始產業地域に、直接原料を得て起つてゐる。甘蔗園中に、高く煙突を拔いた製糖工場は、南部の平野に見られ、バガス(甘蔗のしぼりかす)からの製紙も起つた。



筏るたひつ用作に竹川で河や筏海竹近

臺灣の製糖業は、漢族の移住と共に支那から傳はり、占領の蘭人によつ

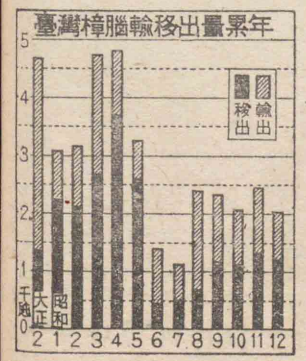


甘蔗運搬列車

て重要商品となつた。我が國が臺灣を領有した當時は、日本全國砂糖需要額の四分ノ三は輸入に俟たなければならなかつたが、總督府の奬勵によつて今は自給した上、多額の輸出を見てゐる。

中・南部のパイナップル産地に、其の罐詰工場が起り樟樹の多い地帯では、粗製樟腦を作り、更に臺北で精製し、世界各地に送られ、籾摺・精米は到る處に盛である。

臺灣の樟腦　領有以前は品質が悪く、樟樹も濫伐にまかせてゐたが、領有後は專賣制度とし、種々の改良を行つた結果、世界需要の過半を供給することになつた。近時ドイツの人造品に壓せられて衰へたので、他の方面の利用について考究せられてゐる。



林投樹の葉や大甲蘭を用ひて帽子・大甲蓆を作り、竹材で紙・器具を家内工業的に作り、尚酒・酒精・小麥粉・セメント・煙草・煉瓦・阿片の製造、原料を南洋に仰ぐアルミニウム精錬も、近年起つて來た。

(二)商業　移輸出入は基隆・淡水・安平・高雄の四開港で行はれ、特に基隆・高雄は、築港が完成して本島貿易額の九五%を占める。西岸には、支那型船に限つて、特に入港を許す後龍・鹿港・東石の三**特別開港**がある。

五　住民　政治

(一)住民　原住民の**高砂族**は山地に住み、**閩族**は都市に住んで商業に從

高砂族の人婦機織

臺北州	臺北市	高雄州	高雄市	花蓮港廳	花蓮港街
新竹州	新竹市	臺東廳	臺東街	澎湖廳	馬公街
臺中州	臺中市				
臺南州	臺南市				

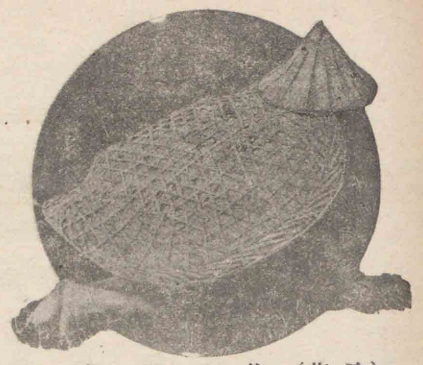
事し、**粵族**は平野に住んで農業に從事してゐる。共によく我が固有の風習に同化するに努めて、忠良の臣民となつてゐる。内地人は、僅かに二十七萬人に過ぎない。

(二) 政治 臺北にある臺灣總督府が全島を統轄し、其の下に、五州・三廳がある。

六 處誌

臺灣平野 **基隆市**(八七)は内地との取引が多く、諸種の工業が行はれる。**臺北市**(二七四)は、政治・軍事・學術・商工の中心で、**淡水**(二五)は、今は支那と取引する。**桃園**(二五)は製茶の中心、**新竹市**(五一)は林投帽、**苗栗**(ビヤウリツ)(五一)は砂糖・樟腦を産する。

宜蘭平野 **宜蘭**(ギラン)**市**(二六)は農產物・木材の取引地で、**蘇澳**(スアウ)(一六)は鰹節を產する。



(取草)作耕の米

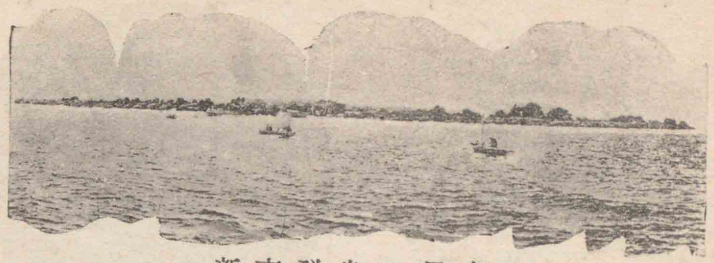
大甲(二六)は大甲帽・大甲蓆の產地で、**臺中市**(七〇)はバナナの大市場をなし、**彰化**(シヤウクワ)**市**(五一)と共に、米・甘藷・落花生を集散する。**斗六**(トロク)(三七)は樟腦を集散し、**嘉義市**(七三)は阿里山材の製材地で、製糖の業も行はれる。**臺南市**(一一)は精米の工場が多く、**高雄市**(八五)は米產の中心で、アルミニウム精鍊・酒精・セメント等の工業地となつた。**鳳山**(ホウザン)(一八)はパイナップルの市場で、**屏東**(イヨウ)**市**(四三)には、製糖・精米・罐詰・酒精等の工業が行はれる。

澎湖諸島 平均二十米の低島で、**馬公**(マコウ)(二五)は良灣をなし、海軍の要港となつてゐる。

臺東縱谷

臺東縱谷 **臺東**(一五)・**花蓮港市**(一七)は其の兩門戶で、花蓮港はアルミニウム・バガスパルプ・酒精の工場が起つた。

七　生活　特性



新南群島の長島

(一)住民は、多く西部の大生産地帶に集り、栽培業に從事し、裕福(イウフク)で、都市の密度もこの部に大である。臺東平野は、新植民地的氣分の處である。一般に文化の進むにつれ、支那風が內地風に改りつゝある。

(二)將來は熱帶性產物の增產を圖り、水力發電事業を起し、南洋の資源をも利用して、近代工業を起さなければならぬ。

附　**新南群島**　南支那海の南部にある小さい珊瑚島群で、早くから我が國人が發見して燐礦の採掘をしてゐたが、最近高雄市の管轄下に編入された。

第九章　南洋群島地方

二、一四九方粁　一三・一萬人　六一人

一　自然

位置

(一)位置　ミクロネシア(小島の意)の大部である。財政は獨立し、土民の教化も進んでゐる。面積が狹いので大富源は望まれないが、我が南方發展上、大切な處である。

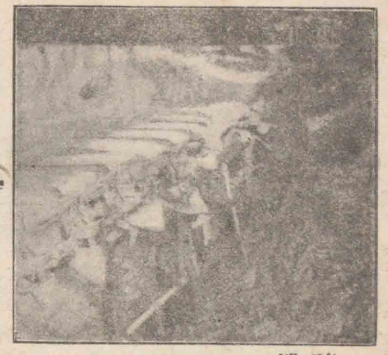
地形

(二)地形　マリアナ・カロリン・マーシャル三群島から成り、概ね火山島及び珊瑚島である。

氣候

(三)氣候　熱帶海洋性氣候で、北東貿易風帶にあるのと、驟雨(スコール)とのため凌ぎ易く、四季の變化(年中二六―七度)、晝夜長短の差が少い。

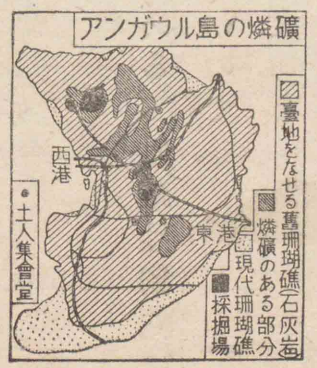
火山島の例
(左ウラカス右アソンソン)


燐礦のルウガンア

二　原始産業

植物はよく成育し、各地にココ椰子・木瓜（パパイヤ）が作られ、サイパン島は、甘蔗の栽培が盛である。**コプラ・砂糖**が主産物で、糖蜜から酒精も作られる。水産には、貝殻・海參（イリコ）・鰹・鮪があり、鰹節は近時産額が激増した。眞珠養殖も行はれ、諸島を根據とする鰹の遠洋漁業と共に有望である。アンガウル・ペリリューの**燐礦**、パラオのボーキサイトは、有望な鑛産である。

燐礦　珊瑚礁上に堆積した鳥糞が溶けて燐酸を生じ、珊瑚礁を作つてゐる炭酸カルシュウムと化合して生じたもので、肥料の原料に供せられる。



三　交通　商業　住民　政治

(一)交通・商業　サイパン・パラオ・ヤップ・ヤルート・アンガウルは**開港**で横濱と取引する。

(二)住民　**土人**はカナカ・チャモロ二族に分れ、總數五萬である。**内地人**は五萬三千人で、沖繩縣よりの植民が多い。

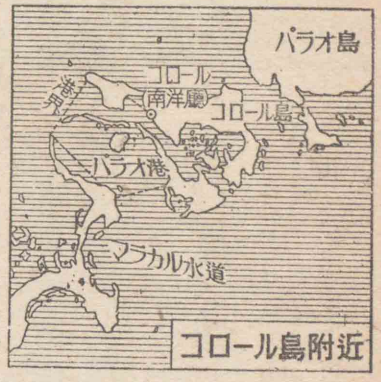
(三)政治　コロールに南洋廳を置き、管下をサイパン・パラオ・ヤップ・トラック・ポナペ・ヤルートの六支廳に分けて統治する。

少年園弥栄
日本兵民コウイケ
チャモロ兒童の筆蹟

四　處誌

マリアナ群島　サイパン・テニアン二島では、甘蔗が栽培され、砂糖を産する。

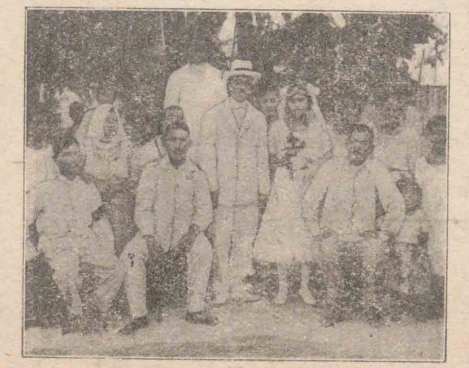
グアム島　五四方粁
一・八萬人
カロリン群島
マーシャル群島



二列の珊瑚列島で、**ヤルート島**に、ジャボールの樂園があり、ココ椰子を産する。

五　生活特性

面積は東京府位に過ぎないが、其の政治的・産業的價値をよく發揮してゐる點は、文明國の指導下にある熱帶栽培地の特性を表してゐる。



テャモロ族の結婚式

グアム島　米領で、海底電信の中心、米國海軍の要港である。

カロリン群島　ヤップ島は、海底電信の要地で、**パラオ諸島**のコロールは好錨地、アンガウル・ペリリュー二島は、燐礦を出す。

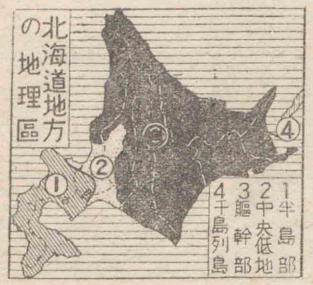
マーシャル群島

位置
地形

第十章　北海道地方

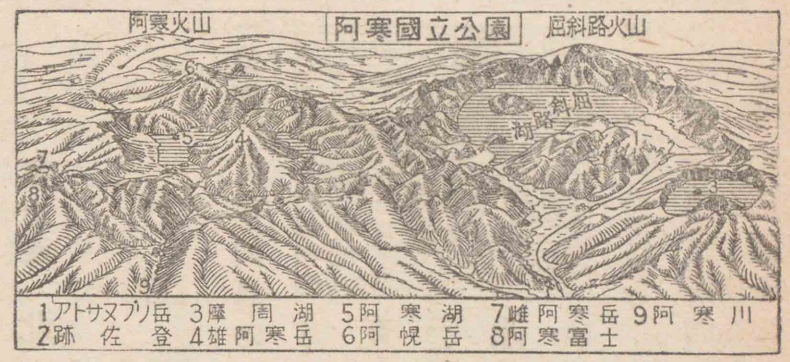
六、七五方粁
三七萬人

一　自然



(一)位置　日本列島の最北部に位し、ソヴィエト聯邦領の極東地方や、アメリカ合衆國領アリューシャン列島に亙る、豐漁帶を控へてゐる。

(二)地形　樺太山脈の續きである蝦夷山系は、北見日高二山脈と天鹽夕張二山脈の二列から成つてゐる。千島から來た褶曲列は阿寒火山を含む千島火山脈を伴なひ、蝦夷山系に會合する。この會合部は所謂北海道の屋根で、大雪山がこゝに聳える。これ等の山脈を根幹（コンカン）とする地帶が、この地方の軀幹部であ

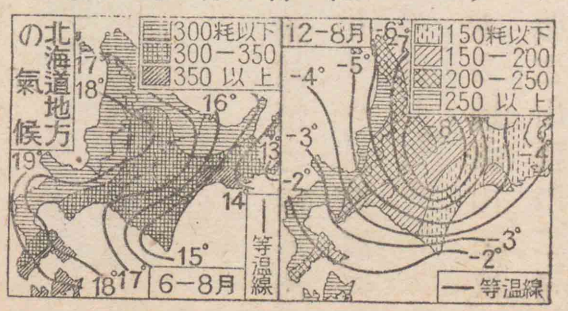


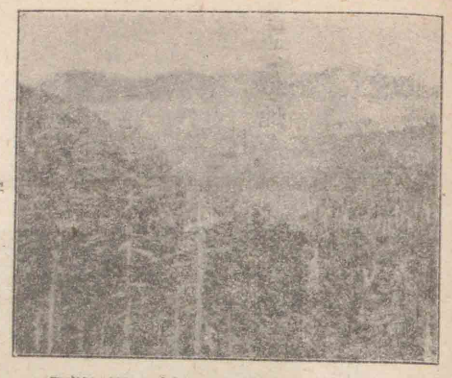
複製許可 陸軍省参謀本部 昭和十六年七月三十一日 陸地測量部

屢〻濃霧に苦しめられる。

半島部は那須火山脈の噴出地域で、駒ヶ岳・羊蹄山・有珠岳等が聳える。軀幹部と半島部との間は陷沒して石狩・膽振の兩平野がある。この地形により、この地方は圖のやうな四地形區に分けられる。

(三)氣候　日本海方面は、對馬海流のため、割合に暖く、太平洋方面は千島海流の影響により氣溫が低く、夏季は





林松櫪・松夷蝦の流上川狩石

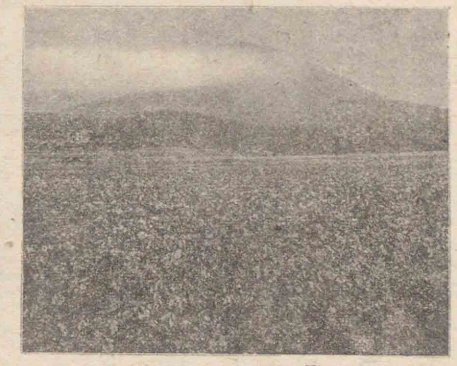
濃霧は暖流上の水蒸氣を含んだ空氣が、寒流上又は陸上の冷い空氣に混じて生ずるもので、六、七月頃最も多く、冬季は最も少い。又一日中では朝夕が最も濃く、二時間內外續くもので、海運を阻み、日射を遮つて、農作物の生育を妨げる。

北見方面は、對馬海流の一部が南下するため、釧路・根室方面よりも暖いが、冬季はオホーツク海の流氷が屢〻押し寄せる。內陸の盆地・平野は大陸性氣候の傾向があり、夏季は高溫、冬季は酷寒となる。雨は概して少く、梅雨の現象は全くない。

生物　津輕海峽は生物の分布上、ブラキストン線として名高い。卽ち其の以北には殆ど松がなくて、蝦夷松・櫪松が多い。又動物は猪・猿がゐないで羆がゐる。

二　原始産業

(一)半島部　**鑛産**では半島部の、靜狩・轟に金・銀、稻倉石に滿俺、幌別に硫黄を産する。夏季の溫度が足らないので、農業は振はないが、倶知安盆地には、米・燕麥・大豆・馬鈴薯が作られ、又余市附近は苹果を産する。烏賊・鯖・鱈等の水産が多く、沿海の火山岩は、よい昆布礁となる。



畑薯鈴馬と山蹄羊

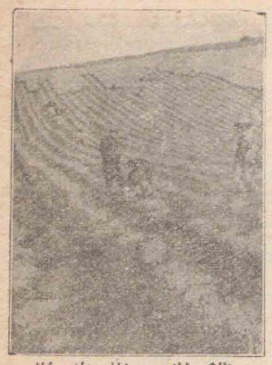
(二)中央低地　最も開拓が進んで、丘陵上まで耕され、大農法により、**米・豌豆・燕麥・玉蜀黍・馬鈴薯**を多く

北海道の米作北限界の移動

産する。月寒・瀧川を始め牧場が廣く、**牛・馬・緬羊・豚**が飼はれる。

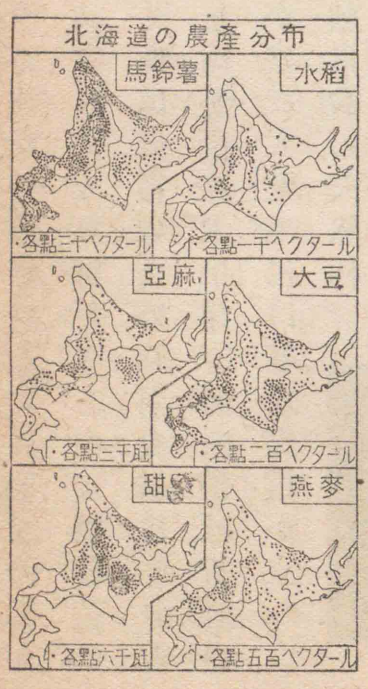
(三)軀幹部　**石炭**が多く、特に夕張山脈西麓の石狩炭田は、筑豐炭田に次ぐ大炭田で、この石炭は小樽・室蘭から積出される。鴻之舞に金・銀、硫黄山(知床半島)に**硫黄**の産がある。

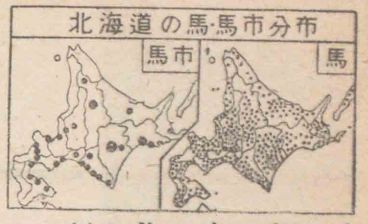
硫黄山　明治九年頃、噴氣孔から大量の硫黄を噴出したが、採掘しつくした明治二十二年、又硫黄の噴出を見た。然しこれが盡きて休山になつてゐた時、昭和十一年再び一大噴出を見て今盛に採掘されてゐる。

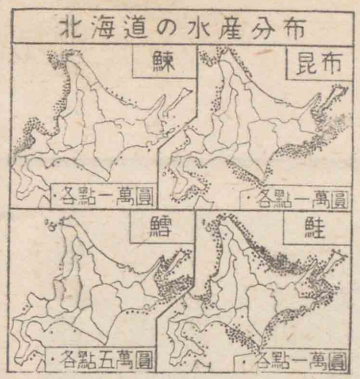


穫收の菊蟲除

名寄・旭川・富良野の諸盆







地には、新開の米田が遠く連なり、燕麥・豆類・除蟲菊・馬鈴薯も多く作られ、十勝平野には甜菜・大豆、野付牛方面には薄荷の産が多い。根室・釧路方面は、濃霧のため日射を妨げられ、農作が振はない。しかし雨が少く、太平洋方面一帯は新冠白糠を中心として牧馬が盛で、大樂毛には盛な馬市が立つ。

山地には蝦夷松・椴松・刺楸・楢の天然林が多い。水産には南岸一帶の岩石海岸に昆布、根室海峽方面に鱒・鮭、利尻方面に鰊の漁獲せられ、これ等は主として函館に送られる。

狩勝峠の林相

阿寒湖・支笏湖の鱒は姫鱒である。紅鱒は河川で産卵し、海中で生育するのを常とするが、阿寒湖に産するものは、これが何時しか海との交通を絶たれて生育を續けて來たもので姫鱒といはれる。北海道廳はこれを支笏湖に放つて好結果を得た。十和田湖の鱒もこれを移したものである。

姫鱒

陸運
水運

農業（米・燕麥・豆類・馬鈴薯・玉蜀黍・除蟲菊・甜菜・牧草）
牧畜（馬・牛・緬羊）　林業（蝦夷松・椴松・刺楸・楢）
水産業（昆布・鱒・鮭・鰊・鱒）　鑛業（金・石炭・滿俺・硫黄）

三　交通

(一)陸運　函館線・根室線・宗谷線・室蘭線は主要鐵道をなし、外に名寄・石北・網走・釧網の諸線及び數多の炭坑線がある。

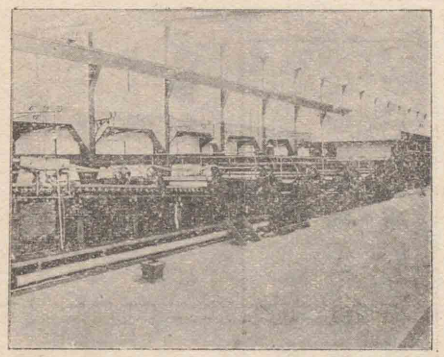
(二)水運　海上交通は早く開けたが、殊にオホーツク海方面の冬・春季の流氷、太平洋方面の夏の濃霧は、一大障害である。

小樽は、ウラヂィウォストク・羅津に航路を通じ、函館には青函連絡船、稚内には稚泊連絡船が發著する。

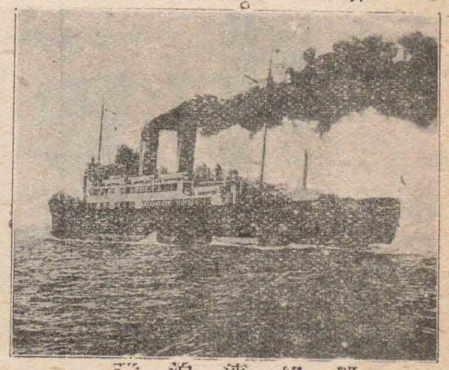
(三)航空路　東京から、札幌に達してゐる。

四　工業　商業

(一)工業　石炭・水力等の動力があり、交通も開けたので、この地方に産する原料を基とする工業が、近年著しく發達した。卽ち苫小牧・江別等に製紙・パルプ、札幌に麥酒・澱粉・麻、旭川・野付牛に酒精、帶廣に製糖、函館に罐詰等の工業が行



苫小牧の王子製紙工場



稚泊連絡船

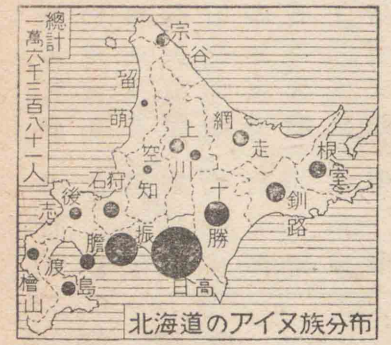
はれる。近年、室蘭・瀧川・留萌に石炭液化工場も出來た。室蘭の鐵・鋼、函館の造船等も有名である。

(二)商業　小樽・函館は、道内商業の中心である。この兩港は東京・大阪・樺太・シベリア・中華民國と取引が行はれ、室蘭・釧路・根室・留萌と共に開港である。

五　住民・政治

(一)住民　原住民のアイヌ人は、今は一萬六千に減じた。明治維新以後、奥羽・北陸等の移住者が來て、今は總人口三百萬を超

熊小と婦夫アイヌ



政治

半島部

渡島支廳	函館市
檜山支廳	江差
後志支廳	倶知安
膽振支廳	室蘭市
石狩支廳	札幌市
空知支廳	岩見澤
日高支廳	浦河
上川支廳	旭川市
留萌支廳	留萌
宗谷支廳	稚内
十勝支廳	帶廣市
釧路國支廳	釧路市
根室支廳	根室
網走支廳	網走

えてゐる。

(二)**政治** 行政上、七市・十四支廳に分れ、北海道廳長官がこれを統轄する。町村には、自治制が布かれてゐる。

六 處誌

半島部 **函館市**(二〇・七)は開港・漁港で、**大沼**附近には養狐が行はれる。**八雲**(ヤクモ)(一・七)は酪業地、**倶知安**(一・三)は農産中心である。**余市**(一・九)は苹果の産が多く、**岩内**(一・五)と共に漁港である。**室蘭市**(六・五)は、石炭・木材の移輸出地で、壯大な製鐵・製鋼所がある。

中央低地

軀幹部

千島列島

中央低地 **小樽市**(一五・四)は本島金融の中心で、罐詰用空罐が製造され、**札幌市**(一九・七)は本道の政治・學術の中心で、工業が盛である。**岩見澤**(三・二)・**砂川**(二・四)・**瀧川**(一・四)は、農産の中心で、**江別**(二・一)・**苫小牧**(二・二)は製紙業地である。

軀幹部 **石狩炭田**には、**美唄**(三・七)・**夕張**(四・二)等の大炭坑聚落が起つてゐる。**留萌**(一・八)は開港、**名寄**(一・六)は交通市である。**旭川市**(九・一)は上川盆地の中心都市で、**帶廣市**(三・六)は甜菜糖産地、**池田**(一・三)は製麻業地、**釧路市**(五・六)は釧路炭田を控へ、製材・製紙が盛である。**厚岸**(一・三)には牡蠣の養殖が行はれ、**根室**(二・〇)は、北洋漁業の根據地である。**網走**(三・二)は、北見の漁港で、**野付牛**(三・一)は北見平野の中心をなし、**稚内**(二・〇)は樺太に對する渡頭町である。

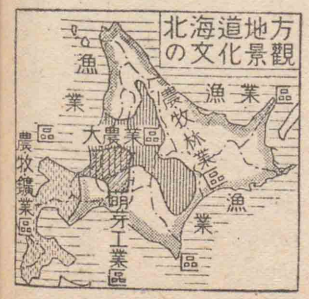
附 **千島列島** 面積は四國位、人口は一萬五千で、**紗那**(シヤナ)(〇・二)が主邑である。中千島には養狐が行はれ、近海は鱈・鱒・海獸等が豐富で、南・北千島には夏季に内地人が出漁する。

七　生活特性

(一) 北海道は**冷涼地域の新開拓地**で明治初年以來、道民の努力により有用作物の氣候順化に成功し、水陸の生產が激增した。

(二) 開發には豐漁帶が先づ植民を呼び、海岸に漁業聚落が起り、其れから漸次、內陸へと開發が進んだものである。小規模の農業經營に適しない地域であるから、小規模農家が生活困難に陷つて、他地方に轉出したものもある。されば、廣野は**大規模に農業經營**が行はれ、規則正しい散村が起り、都市も井然とした街區の處が多い。

(三) **中央低地**は人口の九割を收容し、將來大工業地に發展する可能性が多く、水產は漸く衰へたが、北洋漁業の根據地として重要である。



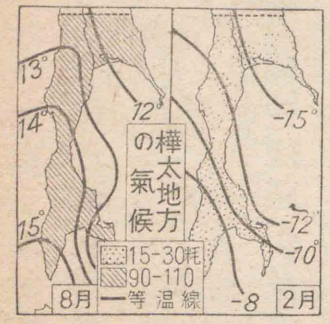
第十一章　樺太地方

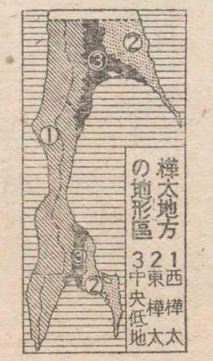
三六、〇九〇方粁
四一萬人
一二人

一　自然

(一) **位置**　我が國の最北部で、日露戰爭の結果、我が領有となつた處である。

(二) **地形**　西部には樺太山脈が連なり、其の西に那須火山脈の噴出がある。





この部の東には、一條の低地を距てて東北・鈴谷の諸山脈があり、圖のやうな三地形區に分けられる。

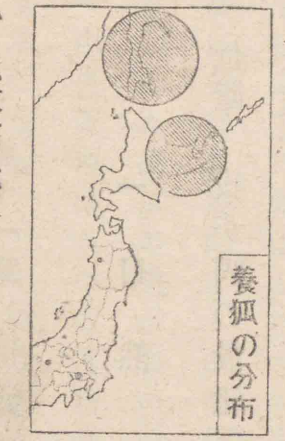
(三) **氣候**　西岸に**對馬海流**が流れ、本斗（ポント）眞岡は不凍港である。東岸は、樺太海流に

洗はれ、敷香は我が國の最寒地(年平均〇・一度)をなし、大泊では冬季に碎氷設備の汽船により交通する。

二　産業

鑛業

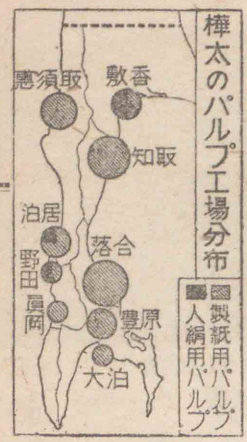
石炭の埋藏が多く川上・塔路・惠須取・知取・泊居・内幌等の炭坑は非常の活氣を呈し、尚多くの封鎖炭田を有する。内幌では石炭液化が行はれ、石油は今試掘中である。



農業

農作物に、豆類・麥類・馬鈴薯がある。原野が廣く牧草が繁茂してゐるから、牧畜が有望で、又養狐業も盛になつた。

林業



水産業

養狐　養狐は①氣候寒冷②濕氣はあるが雨雪少く③風靜かで④高燥⑤土地に硫黄又は石灰質なく⑥針葉・濶葉混合林があり⑦清らかな淡水が湧き⑧周圍が靜かで⑨魚の多い地に適する。樺太はこの條件に合し、大正四年柵飼を始めてから次第に發達し、今は農家の副業とまでならうとしてゐる。

養狐　樺太では非常に擴まつた

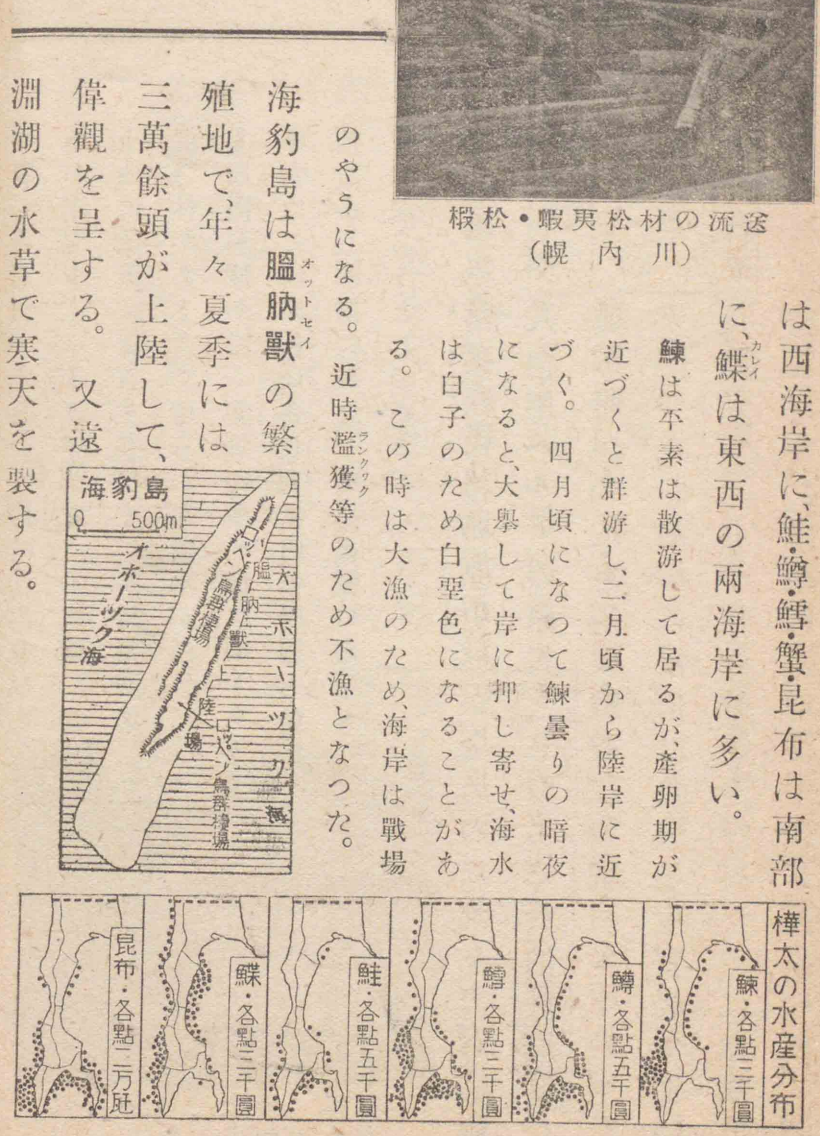
椴松・蝦夷松・落葉松・白楊の原生林が、全島の八割を占め、製紙・人絹用パルプの原料としてよく、大泊・豊原・落合・眞岡・野田・知取・惠須取・敷香に製紙・パルプの工業が起つた。沿岸の淺海は魚族の生育場で、よい昆布礁があり、小川は鮭・鱒を呼び、ために水産は本島の最大富源をなし、漁期には、内地漁民が渡來する。鰊

送流の材松冥蝦・松椴
（川内幌）

は西海岸に、鮭・鱒・鱈・蟹・昆布は南部に、鰊（カレイ）は東西の兩海岸に多い。

鰊は平素は散游して居るが、産卵期が近づくと群游し、二月頃から陸岸に近づく。四月頃になつて鰊曇りの暗夜になると、大擧して岸に押し寄せ、海水は白子のため白亜色になることがある。この時は大漁のため、海岸は戰場のやうになる。近時濫獲（ランクワク）等のため不漁となつた。

海豹島は臍肭獣（オットセイ）の繁殖地で、年々夏季には三萬餘頭が上陸して、偉觀を呈する。又遠淵湖の水草で寒天を製する。



三　交通　商業

(一) **陸運**　東海岸線・西海岸線・豐眞（ホウシン）線等がある。

(二) **水運**　北海道との間に稚泊・稚斗（チト）の連絡船を通じる。大泊・眞岡は**開港**で、多く小樽と取引する。

四　住民　政治

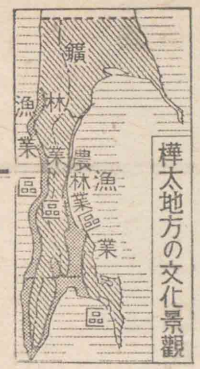
(一) **住民**　概して奥羽地方からの移住民が多く、土人は總數二千人で、アイヌ・ニクブン・オロッコの諸族に分れる。

(二) **政治**　樺太廳の下に、七支廳があつて全島を治める。

五　處誌

陸運　豐榮　豐原市
水運　大泊　大泊町
　　本斗　本斗町
　　眞岡　眞岡町
住民　泊居　泊居町
政治　元泊　元泊町
　　敷香　敷香町

中央低地南部
中央低地北部
西樺太



中央低地南部　大泊は本島の南門で、木材・水産物を集散し、豐原市は本島の中心で、落合は、パルプ工業地である。

中央低地北部　知取・敷香等の漁港・パルプ工業地がある。

西樺太　漁・林業・採炭業地域で、惠須取・泊居・眞岡・塔路はこれによつて發達してゐる。本斗は、この地帶の南門である。

六　生活の特性

(一)　産業は漁業に始り、次に林業に移り、更にパルプ工業が起つた。漁業・林業の次には鑛業が起つたが、樺太廳は今大部の炭田を封鎖してゐる。漁・林・鑛業の奪掠（リヤクダツ）經濟の後には、農・牧業が起る順序であるが、まだ樺太には餘り發達してゐない。

(二)　將來、住民は農・牧・林・漁・鑛に渉る多角的生業を營むと共に、豐かな原始産業を元とする工業化を圖らなければならない。

位置
地形

慶尚南道	釜山府	
慶尚北道	大邱府	
全羅南道	光州府	
全羅北道	全州府	
忠清南道	大田府	
忠清北道	清州	
京畿道	京城府	
江原道	春川	
黃海道	海州府	
平安南道	平壤府	
平安北道	新義州府	
咸鏡南道	咸興府	
咸鏡北道	清津府	

第十二章　朝鮮地方

三三〇、七九方粁
二、四三五人
一二〇人

一　自然

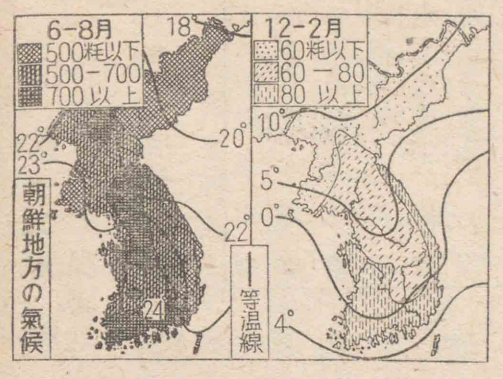
(一)　**位置**　內地・大陸間の半島で、古くから內地と關係が深く、邦人が大陸に發展する廊下として重要である。行政上、十三道に分れてゐる。

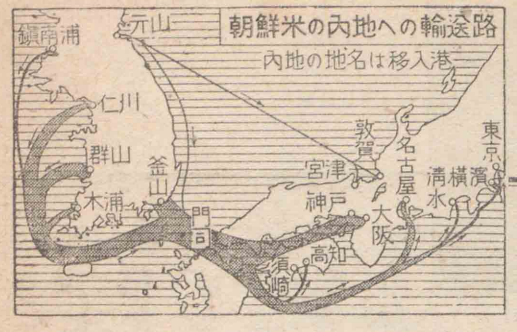
(二)　**地形**　北部には狼林・咸鏡・妙香・馬息嶺等の高い山脈が連なり、龍王潭を頂く白頭山が聳え、其の南部は熔岩臺地となつてゐる。南部には太白・車嶺・小白等の低い山脈があり、太白山脈中には金剛山の

名山がある。東朝鮮灣・江華灣を連ねる楸哥嶺（シュウカ）地溝によつて、圖のやうな二地形區に分けられる。

(三) 氣候

大陸の影響により、一般に寒暑の差が著しく、溫突（オンドル）といふ煖房法が行はれる。日本海にはリマン海流（寒流）が南下し、朝鮮海峽方面には對馬海流が東流し、黃海方面は西朝鮮海流が北上するため、西岸は東岸より寒暖を繰返す所謂三寒四溫は、大陸高氣壓の消長によつて起るものである。雨量は一般に少く、冬が乾季で夏が雨季である。



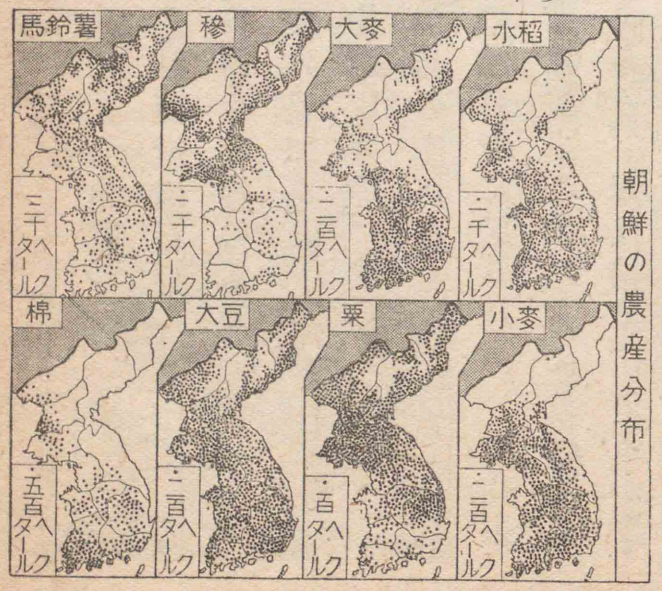


二 原始産業

(一) 南鮮

金堤・金井に金、三陟（サンチヨク）に石炭がある。木浦附近の明礬石（アルミニウム原料）は内地に送られる。米は、産額が多くて内地に供給し、大麥・小麥・煙草・棉・梨を產し、養蠶も行はれ、牛・豚・馬・鷄も飼はれる。

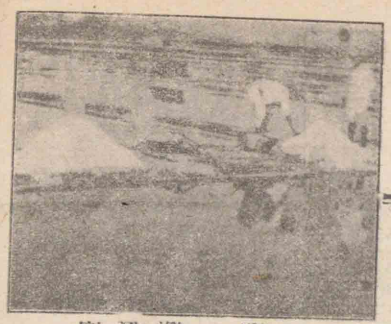
產米增殖計畫　湖の干拓・埋立、荒地の開墾、灌漑等を圖つて成績を擧げたが、產米過剩を來した



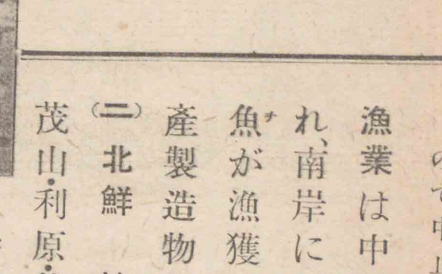
ので中止し、力を棉花の增産に注いでゐる。

漁業は中國・九州方面の內地人により開發され、南岸に鰮・鯖・鰕、東岸に明太魚・鰊、西岸に石首魚が漁獲され、鰮油・同搾粕・乾海苔・魚粉等の水產製造物が多い。**製鹽**は、朱安に盛である。

(二)北鮮　鑛產に富み、雲山・大楡洞・成興等に金、茂山・利原・載寧等に黑鉛の產がある。寺洞の無煙炭は德山の燃料廠に送られる。今尙未開發の鑛山が多く、鑛業は、將來この地方に於ける重要產業の一となるであらう。米は南鮮に劣るが、粟・穀・大豆・馬鈴薯・苹果・人蔘等は多い。



廣梁灣の鹽田

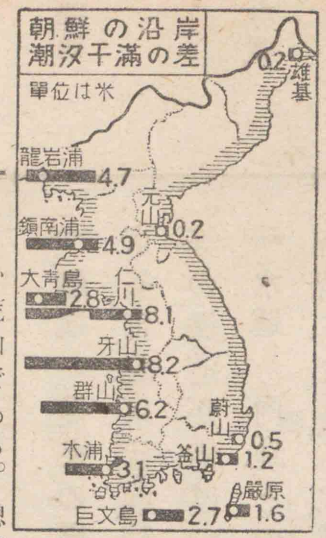


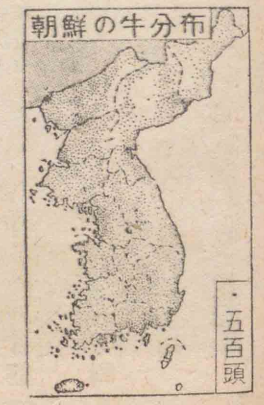
朝鮮人蔘は開城一帶が中心栽培地で、九、十月頃收穫すると總督府で買ひ上げ、不合格品を白蔘に、他を紅蔘に製し專賣する。

中華民國に需要が多い。

牧牛は盛で、每戶一頭乃至四十頭を有し、內地に多くの生牛・牛皮を供給する。

林業は、鑛產と共に二大富源で、鴨綠・豆滿の河谷では、紅松・唐檜・落葉松を伐採し、新義州・城津で盛に製材する。





朝鮮の林野は總面積千五、六百萬町歩に及ぶ。しかし其の內森林は五、六百萬町歩で、一千萬町歩は、役に立たない荒山である。總督府は林政の革新を圖り、無主公山を整理・植林してゐる。

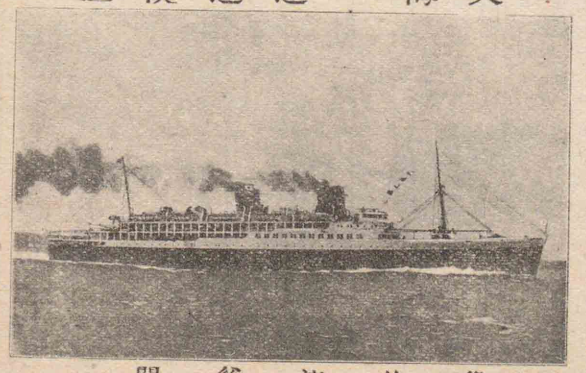
水產には東岸に鰮・明太魚が多く、潮汐干滿の差が大で、雨の少い西岸の廣梁灣に鹽を產する。

農業(米・棉・大麥・小麥・馬鈴薯・粟・穀・煙草・梨・苹果・繭・人蔘)
牧畜(牛・馬・豚・鷄) 林業(紅松・唐檜・落葉松) 水産業(鰯・明太魚・石首魚・鯛・鯖・食鹽) 鑛業(金・石炭・鐵・黒鉛・明礬石・マグネサイト)

三 交通 商業

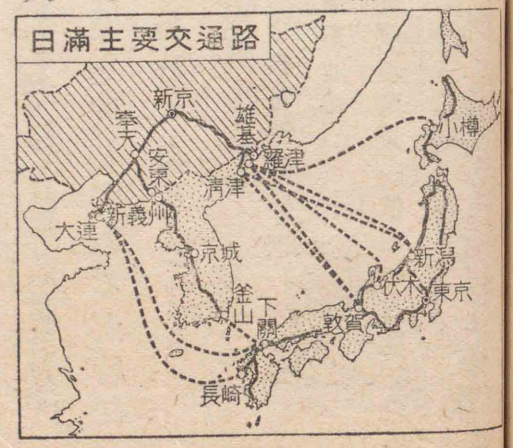
(一) **陸運** 從來の轎(カゴ)が自動車に代り、又京釜・京義・京元・咸鏡・湖南・全羅・圖們・東海等の鐵道が備はつた。

(二) **水運** 內地との交通は、主に關釜連絡船による。北鮮諸港は近時日滿連絡上重要となつた。鴨綠江・大同江・漢江は何れも汽船を通じ、冬はよい橇(ソリ)道となる。



關釜連絡船

(三) **空運** 航空路は福岡・大邱・京城・平壤・新義州を連ねて大連に達する。又新義州・奉天間、京城・清津間、琿春・清津間にも開かれてゐる。



四 工業

(一) **工業** 織物・釀造・陶磁器等、從來より行はれた各地の小規模工業は、次第に大規模となり、米産の增加と共に、粗摺・精米の業は各都市に盛となつた。特に內地資本の進出によつて、釜山・木浦・京城等に紡績、京城・大邱・全州・光州に製絲、兼二浦に製鐵、勝湖里(平南)、古茂山(咸北)にセメント、城津・新義州・吉州(咸北)にパルプ・製材、平壤・仁川に製粉、沿岸各港に水產製造が興つた。

北鮮は地形が大發電に適すること、諸種の鑛産に惠まれてゐること等の原因により、大工業地化しようとしてゐる。既に赴戰江の上流には周圍八十粁の人造湖を作り、其の水を日本海斜面に出し、十八萬キロワットの發電をなし、長津湖の上流には周圍約百二十粁の人造湖を作り、三十三萬五千キロワット（一部未成）の發電をなしてゐる。これ等の電力は北鮮各地に送り、各地に工業を興してゐるが、特に左の工業は著しく注目せられてゐる。

興南工場

(イ) 興南（咸南）＝硫安・マグネシウム。
(ロ) 本宮（咸興・興南の中間）＝石灰窒素苛性曹達。
(ハ) 永安（咸北）＝石炭の低溫乾溜重油。
(ニ) 灰岩（咸北）＝附近の阿吾地炭坑（理藏量一億噸）の石炭を原料とする石炭の直接液化による重油。

尙近時、虚川江の發電も計畫せられてゐる。

(二) **商業**　大都市以外は常設の商店が少く、所々に**定期市**が開かれる。取引は內地が主で、滿支・米・英がこれに次ぐ。**貿易港**に、釜山・仁川・鎭南浦・群山・新義州・龍巖浦・木浦・元山・城津・淸津・羅津・雄基がある

朝鮮の市場分布
（大市場・小市場）

五　住民　政治

(一) **住民**　大部を占める朝鮮民族は、よく內鮮一體の實を擧げ、內地人は五十萬人に及んでゐる。

(二) **政治**　總督は政務を、朝鮮軍司令官は軍事を統べ、十三道に知事が置かれ、道の下に、府・郡・島がある。

六　處誌

南鮮　**慶尚南道**　**釜山府**（二〇二）は半島南門の商・工・漁業都市である。**馬山府**（三三）は漁港で、釀造業に著れ、**鎭海**（二〇）は海軍の要港である。

慶尚北道　**慶州**（三二）は新羅の舊都、**大邱府**（ダイキュウ）は盛な定期市場で、工業も行はれる。（一〇七）

全羅南道　**米・棉**（米國種移植）の大産地で、内地人の農家が多い。

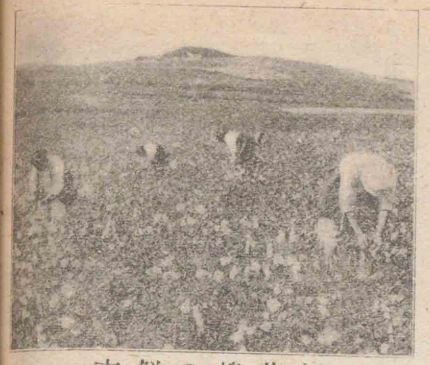
木浦府（六二）は棉・水産物の積出港で、又精米業地である。

光州府（五五）は農産の中心で紡績・製絲業が起り、麗水（レイスイ）（二八）は下關との連絡港である。

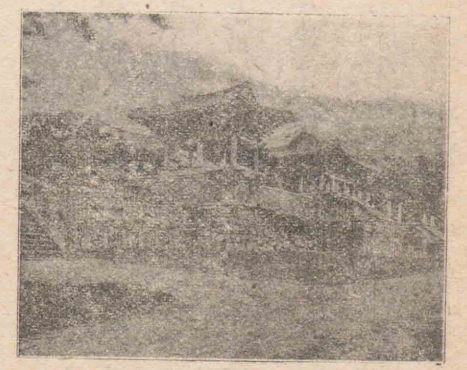
全羅北道　**全州府**（四二）は湖南平野の中心で、**群山府**は、米の積出港である。**裡里**（二二）

忠淸南道　**大田府**（タイデン）（二九）は交通の要地である。

忠淸北道　**淸州**は勝地、**忠州**は米・煙草の集散地である。



畑　花棉の鮮南



寺國佛の州慶
である粹の築建羅新

京畿道　**水原**（一四）には農事試驗場があり、**京城府**は、全半島の政治・學術・經濟・軍事・交通の中心である。（六五〇）**仁川府**（八三）は對支取引が多く、諸種の工業が行はれ、**開城府**（五六）には人蔘の特産がある。

江原道　**春川**（一六）には、素麻の鳴聲の遺蹟といはれる牛頭山があり、**長箭**（一八）は漁港である。

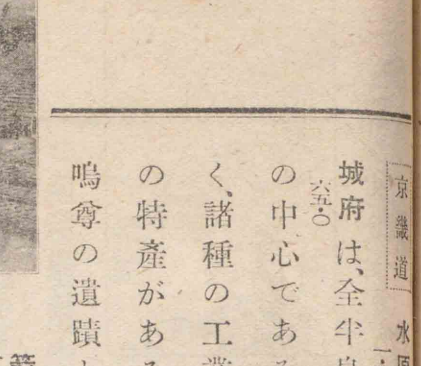
北鮮

黃海道　**載寧**　**殷栗**　**遂安**（金）　**兼二浦**（製鐵所）等、鑛業地が多く、**海州府**（三〇）は商業の中心である。（一〇六）（一〇八）（一七）

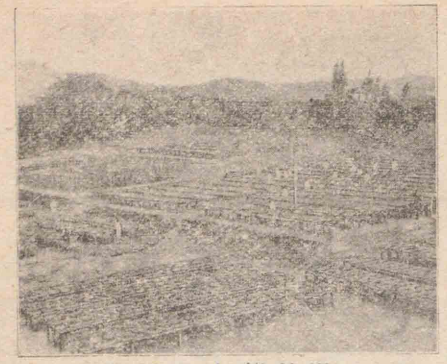
平安南道　**平壤府**（三〇）は工業市、**寺洞**（一八二）は炭坑地、**鎭南浦府**（五〇）は鐵・石炭の積出港である。

平安北道　山地は金産が多く、又森林が廣い。**中江鎭**（二二）は流筏の起點で、**新義州府**（五八）は、製材・精米・製紙業地である。

咸鏡南道　**元山府**（六〇）は開

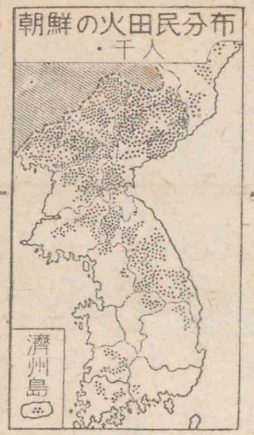


場驗試事農の原水



乾蔘人の城開

北鮮



港場・漁港で、精米・釀造も行はれ、咸興府は農産物市場である。赴戰江の發電により、興南には窒素工業が興つてゐる。成鏡北道日滿交通の要衝で、羅津府を始め、雄基・清津府(魚類・魚油・魚肥・魚粉)・城津(製材)は日滿の連絡港である。會寧は國境の要地である。

七 生活特性

(一) 南鮮・北鮮によつて、情勢を異にし、北部は鑛農・林工業地區、南部は農業地區である。全人口の七割は農民で、密度は南鮮に多く、農民は小作農が大部で、北朝鮮には火田民もゐる。

(二) 內地・大陸間の通路となるばかりでなく、將來は益〻內地に不足した資源の生產を圖り、經濟上に於ても內鮮一體の實を擧げなくてはならない。

第十三章 關東州地方

三、四六二方粁 一三七萬人

位置
地形
氣候

一 自然

(一) **位置** 日露戰役によつて、ロシアの租借權を受けついだ地で、渤海灣の喉元滿洲國の門戶に當り、我が大陸發展の生長尖端である。

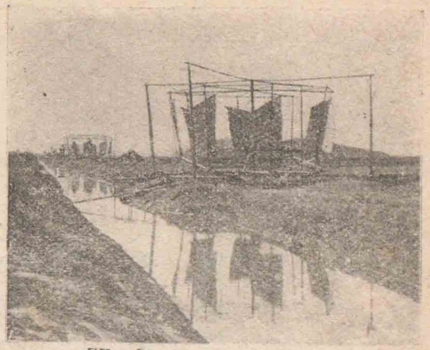
(二) **地形** 域內には丘陵性の**本幹山脈**が連なり、金州・大連二灣が彎入して、複雜な海岸線をなしてゐる。

(三) **氣候** 寒暑の差が甚だしく、雨量は夏季に多い。

二 原始產業

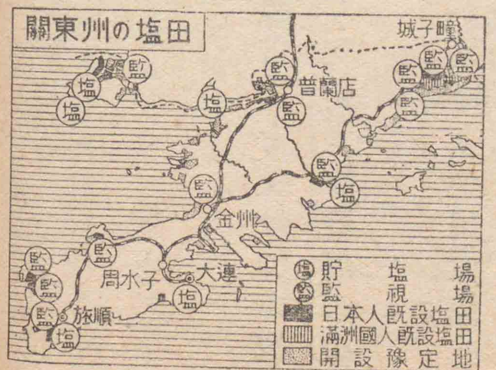
土地は瘠せてゐるが、住民は勤勉で、よく土地を耕し、玉蜀黍・

粟・高粱を輪作し、落花生も多く作られ、都市附近には蔬菜栽培、村落には養蠶が行はれる。尚、州廳の奬勵により米・棉・果樹の栽培、森林の培養、牧畜業等が起りつゝある。近海は石首魚・鮃(ヒラメ)・鰤・鯖の漁利が多く、貔子窩・普蘭店・雙島灣には天日製鹽が盛である。



關東州の鹽田
潮汲用の風車

關東州の製鹽 約七十年前に始められ、ロシアの租借當時全く衰へたが、我が治下に入つてから盛となり、現在の鹽田は領有當初の七倍に達してゐる。製鹽時期は五、六の二ヶ月が最も盛で、この間に總製鹽額の六、七割を作る。多く内地に移出して、漁業・曹達工業用に用ひられる。



三 交通 工業 商業

(一)交通 大連は内外に航路を開き、**連京線**を以て滿洲國と連絡してゐる。**航空路**は内地・滿洲國・北支に通じる。

(二)工業 滿洲國に原料を仰ぐ豆粕・豆油の製造が最も多く、尚綿絲・硝子・セメント・麻袋・硫安の製造が多い。

(三)商業 大連は州内第一の商港で、滿洲國の門戸をなし、同國貿易の大部を行ふ仲繼貿易港となり、自由港制をしかれ、日・滿・支三國關係の緊密化と共に、益々發展の形勢にある。

四 住民 政治

(一)住民 帝國の統治以來、**漢族**の來住が相次ぎ、人口は百萬(内地人十六萬)を遙(はるか)に越えた。

（二）政治　大連に關東州廳、其の下に四民政署（旅順・金州・貔子窩・普蘭店）があつて、新京の駐滿全權大使（關東軍司令官兼任）監督の下に行政が行はれる。

五　處誌

大連市（三七・七）には、關東州廳・南滿洲鐵道株式會社があり、西郊の沙河口は工業町である。旅順市（四・七）は海軍要港で、高等法院・工科大學があり、金州（一八）は紡績業が盛である。

六　生活特性

鐵道・航路・空路の集中、要塞的政治市、文明國の威力を現した商・工都市の存在、富裕・安全な生活を送る漢族等、何れも强國日本の生長尖端としての特性を現してゐる。

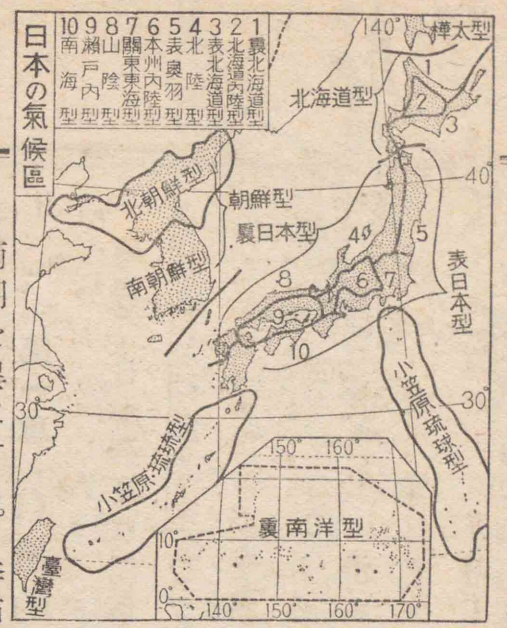
第三編　總括

第一章　自然的條件

（一）地勢

日本列島は三個の弓形を形づくる褶曲弧で、構造上圖のやうな內帶と外帶とに分れる。列島に沿ふ火山脈が多く、火山の數は二百を算し、又溫泉は各地に湧出する。列島の外側には深い海溝、內側には淺い緣海がある。こゝに內・外兩側地震帶があつて屢〻大地震が起

る。朝鮮半島は概して高原性で大平野がない。河は、短く急流をなすものが多く、水害の憂があるが、發電には都合がよい。湖沼は大抵淡水の小湖で、發電・養魚等に利用せられる。



(二) **氣候**　日本・對馬・西朝鮮等の暖流と、千島・樺太・リマン等の寒流があり、其の接觸する地方は濃霧が起つて、航海や農作を妨げる。海流・位置・地勢の關係上種々の氣候を含み、上圖のやうな氣候型に分けられる。又亞細亞大陸の影響により、夏・冬によつて變つた季節風が吹き、從つて列島の內側・外側により雨期を異にする。季節風の代り目には屢〻颱風の害を被ることがある。

第二章　人文的特性

第一節　原始產業

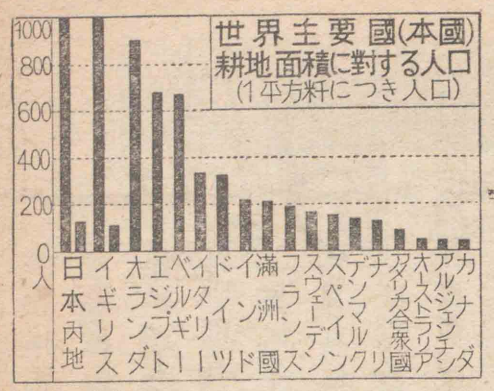
一　農業

我が國は古來農を立國の大本とし、皇室の御奬勵と國民の努力とによつて耕地が開かれ、耕作法を改めたので、農業は急激に進歩した。

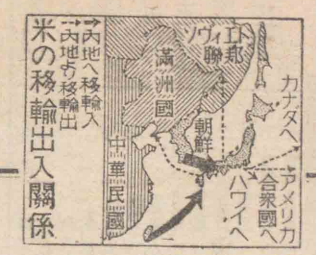
(一) **耕地**　耕地は土地の傾斜三十度を限度とするから、地形上、面積に比して廣くない。

(二) **農業者**　國民の約五割は農民である。然し農家一戸の平均耕地は〇・四ヘクタールに過ぎず、列强に比して頗る少く、又我が國農家一戸の理想耕地面積（一・六ヘクタール）に比べても、極めて少い。從つて農法は極端に集約的である。

(三) **主要農產物**　農產物は總額約三十五億圓で、收穫の



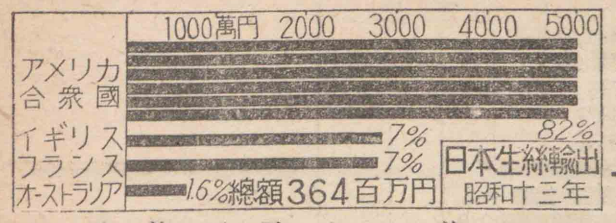
多少は國家經濟に大影響を與へる。我が國の農家は殆ど全力を食糧生產に集中して、偏作の缺點があるから、食糧品の値下りには忽ち不況に苦しむ。故に近時農業の多角的經營の必要が叫ばれ、副業として農村工業振興の聲が高い。



米は年產一億頓（ヘクトリットル）（內地）で、朝鮮・臺灣からの移入も多く、全國的に見れば自給自足の狀態である。故に豐作による米價の下落は直ちに生產者に影響するから、米價の調節が必要である。

麥類は米に次ぐ主食料であるが、其の量は米の四割に足らない。大麥は關東・朝鮮に多く、稞麥は中國・四國・九州を主產地とし、共に產額は漸減してゐる。小麥は關東・九州・朝鮮に多い。需要は增すが、國內用は概ね自給し、製粉用小麥は濠洲・カナダから輸入してゐる。

大豆は朝鮮・奧羽・九州に產するが、尙滿洲國よりの輸入が頗る多い。**甘藷**は臺灣・九州、**甘蔗**は臺灣が主產地である。



茶は輸出農產物の首位で、靜岡縣を最多とし、京都・鹿兒島・三重宮崎の諸府縣に多く、綠茶を主とし、臺灣では紅茶・烏龍茶・包種茶を多く產する。

煙草は栃木・茨城・鹿兒島三縣で、全國產額の半を產するが、尙米國から輸入する額も多い。

二　養蠶業

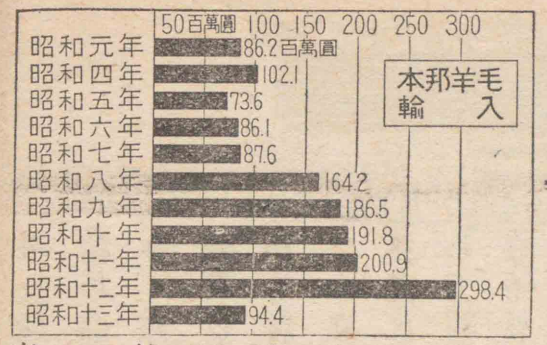
養蠶は遠く神代から行はれ、一時德川幕府の儉約主義のため、絹の需要が減じて衰へたが、海外販路が開けてから再び盛になり、今や我が國は世界第一の養蠶國となつた

桑園は普（アマネ）く全國に亙つてゐるが、特に奧羽地方の南部から濃尾平野までの地帶に多い。

繭は總產額三十萬瓲、長野縣が第一で、群馬・愛知・埼玉・山梨・茨城・三重・岐阜・福島諸縣がこれに次ぐ。我が生絲產額の大部は輸出され、輸出の大部は米國向である。

三　牧畜業

我が國の家畜數は頗る少く、米國の百分ノ八に過ぎない。近時國民生活樣式の變化に伴なひ、畜產品の輸入は年々增加する。從つて「有畜農業」振興の聲が高い。



牧馬は原野の多い東日本と九州に多く、國防上からも增產の要がある。**牧牛**は西日本と朝鮮とに行はれ、國民一人當り搾乳（サクニュウ）量は米國の百五十分ノ一に過ぎない。然し煉乳は出超となつた。**豚**は臺灣と沖繩・鹿兒島とに多く、朝鮮は牧畜が盛で、牛・豚の頭數が內地よりも多い。**鷄**は愛知・鹿兒島・千葉・靜岡・朝鮮・臺灣に盛で、鷄卵は出超となつた。**牧羊**は振はず、從つて羊毛の輸入が必要であるから、將來の自給のために、滿蒙に牧羊の發展を圖らねばならぬ。

四　林業

森林は、木材・薪炭・樟腦・木蠟・茸類を供する外、氣候・河水を調節し、土壤を保護し、更に又自然美の一要素をなすものである。

森林は內地總面積の半を占め、木曾・米代・吉野の三流域と青森・北海道・樺太・臺灣・朝鮮とに、大森林があるが、地形が伐採に不便な上、近年パルプ工業の盛大となるにつれて不足を來し、特に建築用巨材は、安價につく海外材の輸入が多くなつた。我が國產の木材は、**薪炭**としての消費が多く、南洋材を原料とした**ベニヤ板**は、**椎茸**と共に輸出が多い。

五　鑛業

鑛產物は種類は多いが產額は少い。

我が國の**金**產額は近年急增し、主產地は朝鮮地方で、數年前までは內地產額の半分位であつたが、現今は略內地同樣になつた。

九州・北海道はこれに次ぐ產地である。**銀**は多く金・銅に伴なつて產し、純粹の銀坑はない。從つて金・銅の產額增加と共に增し、近時は國內の需要を充たした上、殘りは輸出する。**銅**は大戰前

までは世界第二位の産銅國として多く輸出したが、近時は各種工業の繁榮のため、却つて大量の輸入を見るに至つた。足尾・別子・日立・佐賀關・小坂等が主産地である。

鐵の産出は少く、内地に於ては釜石・北海道に僅かに産し、多くは海峽植民地・支那・ニューカレドニア等から供給される。近年朝鮮滿洲國の貧鑛處理に成功し、滿洲國・北支の鐵山開發にも著手されてゐる。

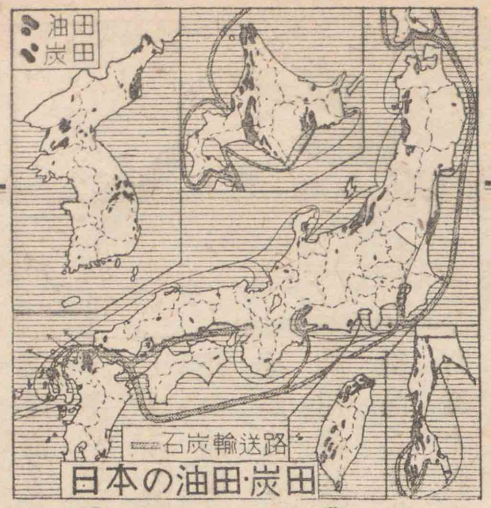
亞鉛は、輸入原鑛を精錬して略需要を充たしてゐる。**鉛・錫**は大部が輸入で、錫の精錬は未だ整はず、見立(宮崎)の錫鑛石の如きマレーに送つて精錬されてゐる。

アルミニウムは鐵時代からアルミニウム時代に移つたといはれる程重要な資源となつた。我が國は近時朝鮮から明礬石、北支・滿洲國から礬土頁岩、内外南洋からボーキサイトを移輸入して、精錬し、需要の全部を充たすやうになつた。

マグネシウムはアルミニウムよりも輕く、輕合金の重要材料である。滿洲國大石橋附近に產する無盡藏な菱苦土鑛(マグネサイト)や白雲石(ドロマイト)を輸入して、各地(直江津・宇部)に精錬事業が起つた。

ニッケル　合金原料として重要である。近時我が國は各地にニッケル鑛山が開發せられ、精錬事業も起つて來た。

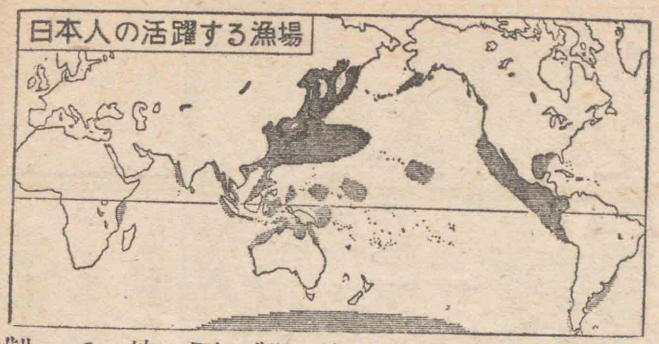
石炭は、筑豐・三池・石狩・常磐等の炭田で採掘されるが、尙撫順炭・開平炭の輸入が多い。**石油**は秋田の產出が增して、第一位となり、新潟がこれに次ぐ。國產は、全需要から見れば極めて小額で、アメリカ合衆國からの輸入が多い。近時石炭の液化(撫順)、低溫乾溜(樺太内幌、朝鮮永安)によつて人造石油を得、又酒精の混入等により、其の不足を補はうとしてゐる。



日本の油田・炭田

六　水產業

(一) 漁業　廣い陸棚を有し、寒暖二海流があるから、世界屈指の豊漁帶である。漁法は、從來舊式小規模な沿岸漁業であつたが、近年遠洋漁業が勃興した。特に**トロール漁業**は黃海・東支那海・南支那海・オーストラリア近海・アラスカ・カリフォルニア近海・メキシコ灣・南アメリカに及び、全世界の海に勢力を延ばしてゐる。**捕鯨業**の進出も著しく、南極海に向かつて數隻の捕鯨母船が出漁し、ノルウェー・イギリス等の先進國を凌がうとしてゐる。**蟹工船**は我が國の發明で、汽船に、罐詰用器具・機械を積み、海洋で漁獲した蟹を直ちに船内で製品とする。汽船は三、四千噸で、乘員は漁夫を合して二百五十名位である。例年五月頃函館・小樽・根室等の根據地から、カムチャッカ方面に出で、深さ二〇―七〇米の漁場でタラバ蟹の通路に網を下ろして捕獲するのである。製品は英・米に珍重せられ、世界的名聲を博してゐる。



(二) 製鹽　鹽は工業上極めて重要な產物であるが、我が國の如き雨の多い國に於ては、海水から鹽を製することは不利な事業で、生產費がかさむのみならず、混り物が多くて、工業鹽としては甚だ不適當である。しかし政府は食用鹽の自給を保つ必要上、專賣制度を設けて、この業を保護してゐる。鹽の生產は、瀨戶內海に臨む十州鹽田が盛んで、臺灣・關東州・朝鮮產の鹽は、不足を告げる工業鹽を補つてゐる。

我が國に急發展を見てゐる人絹・硝子工業其の他に、多量に要する曹達は、鹽を原料とする。從つて我が國は世界有數の曹達工業國・鹽需要國で、國內鹽では到底其の需要を充たされないから、北支・滿洲國・南洋・北アフリカ・トルコ等から多く輸入してゐる。

第二節　交通運

一　陸運

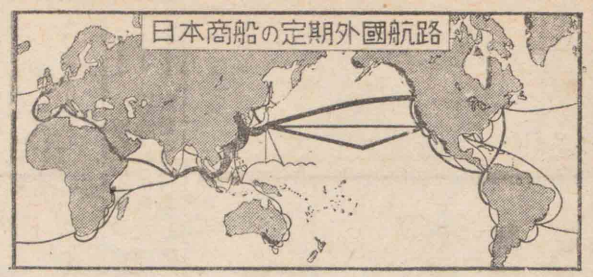
(一)**道路**　自然的道路(原始的歩道)と人工的道路との二つがあり、後者は特に軍事・經濟・產業上重要である。我が國の道路は、鐵道の發達と共に一時閑却されたが、近年自動車の發達と共に、再び重要となつた。特に市街地に於ては、街路樹が植ゑられ、又公園化されたものもある。

(二)**鐵道**　我が國は、鐵道國有主義である。內地の鐵道は狹軌式(三呎六吋)であるが、朝鮮のものは標準式(四呎八吋半)が多く、次第に高速度化されて來た。鐵道總延長は、三萬粁に及ぶが、尙敷設を要望する地方が少くない。

二　水運

內陸水路の利用すべきものは無いが、海上交通は頗る盛で、今や世界屈指の海運國となつた。

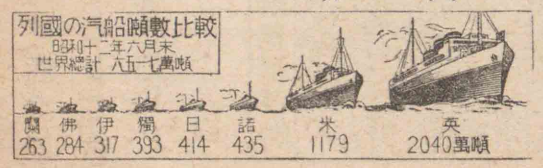
(一)**海港の種類**　軍港・商港・漁港に分れる。**軍港**は、港として必要な條件を備へる上に、一國攻防の見地から、位置の適當なことを要する。



商港は、物資取引の船舶が出入するから、海上・陸上の設備は勿論、金融機關の如きものまで遺憾なきを要する。横濱・神戸は其の模範的なものである。

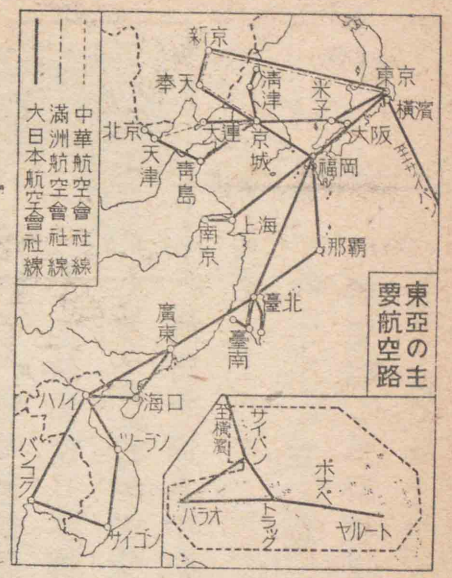
漁港は漁獲物の處理、漁船の碇泊に便なるを要し、概ね地方的小港で、下關・函館は、其の大きいものである。

(二)**汽船噸數・航路**　我が國は世界第四位の海運國で、船舶は、日本郵船・大阪商船の二大會社の所屬が多く、横濱・神戸・大阪を起點とし、內外の諸港に定期航路を開き、不定期船も全世界の各地に活躍してゐる。



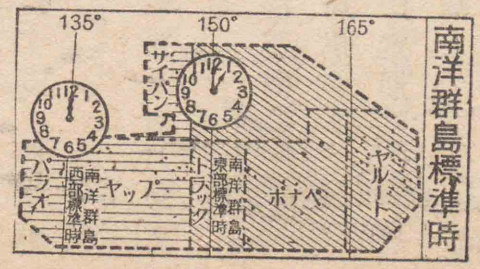
三　空運

(一)**航空機**　飛行機と飛行船とに分れ、最短距離を進み得ることと、速力の大きなこととが特徴である。



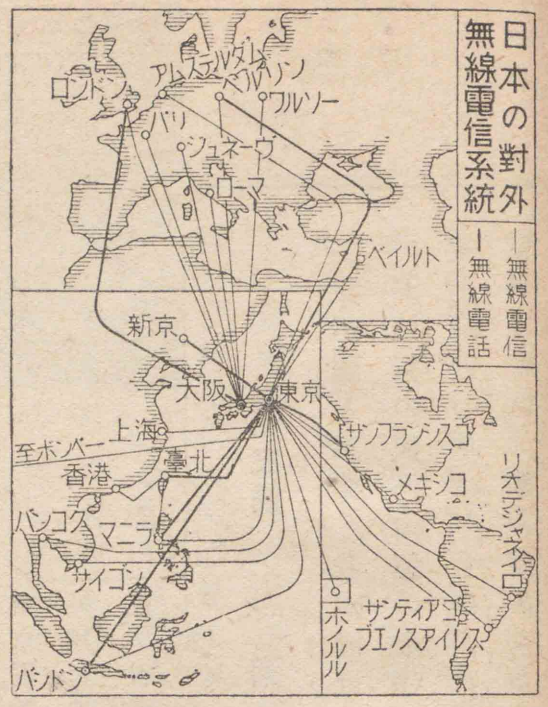
(二)**定期航空路**　我が定期航空路は、漸次延長され、東京・大阪・福岡を三大中心として朝鮮・滿洲國・關東州・北海道・臺灣・北支・中支・タイ國にまで達する。

交通と時間　經度十五度を隔てると、一時間の時差がある。しかし我が國及び滿洲國では、一律に東經百三十五度の經線上に太陽が來た時を正午とする。南洋群島では、二つの標準時を用ひる。



四　通信

(一)**郵便**　明治初年に郵便制度を創設し、同十年萬國郵便聯合に加盟し、現在其の發達は、歐米諸國を凌駕してゐる。急を要するものには飛行郵便がある。

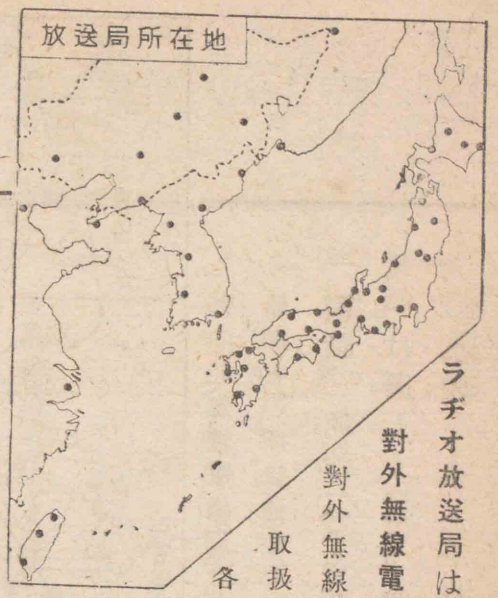


(二)**電信**　明治二年、東京・横濱間に初めて電信を通じ、明治十二年には、萬國電信條約に加盟した。

海底電線　は、東京・父島(こゝで米國の太平洋線に續く)間の小笠原線と、長崎・上海(こゝで歐洲線に續く)間の上海線とが、最も利用される。

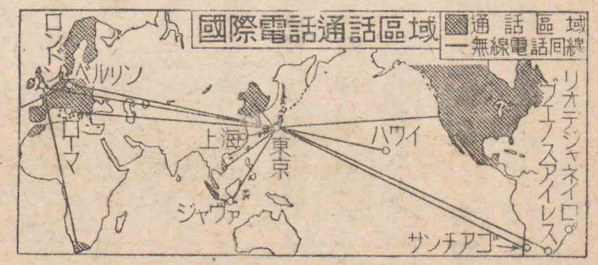
無線電信　は、近年著しく發達し、東京・大阪の兩局は、海外諸國と通信する。其の他無線電信局は、各地に近距離通信を目的とする海岸局があつて、船舶との間に通信してゐる。

(三)**電話**　明治二十三年に創設せられ、有線・無線に分れる。**有線電話**は著しく發達し、あらゆる方面に利用せられて、生活上に多大の貢獻をなしてゐる。



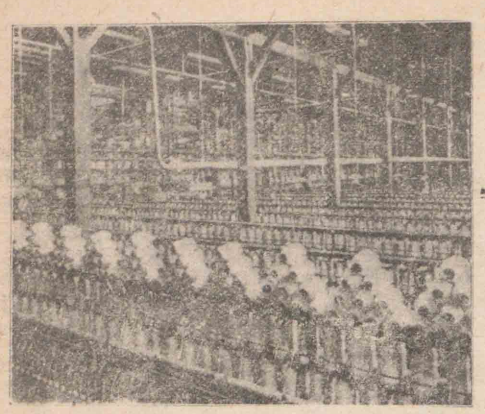
ラヂオ放送局は、三十數箇所に設けられ、又**對外無線電信局**もある。

對外無線電話は、現在は内地の局のみに取扱はれてゐる。通話をするには各地の電話局に申込み、其れから東京電話局につなぎ、ここから外國に通じる。料金は三分間七、八十圓で、送信は名崎、受信は小室で行ふ。



第三節　工業

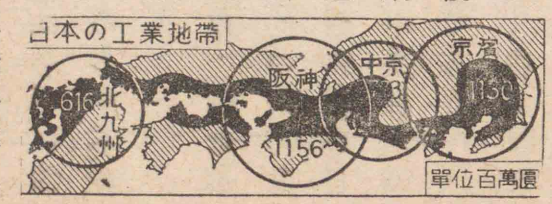
(一) **我が國と工業**　我が國は工業**原料**が豊かであるとはいへないが、位置の優秀、海運の發達等によつて、不足原料の輸入が出來る上、附近の地は割合に人口の多い好市場であるから、生産品の**販路**も廣い。**動力**は豊富な水力電氣を得易く、水力の得難い阪



大阪の紡績工場

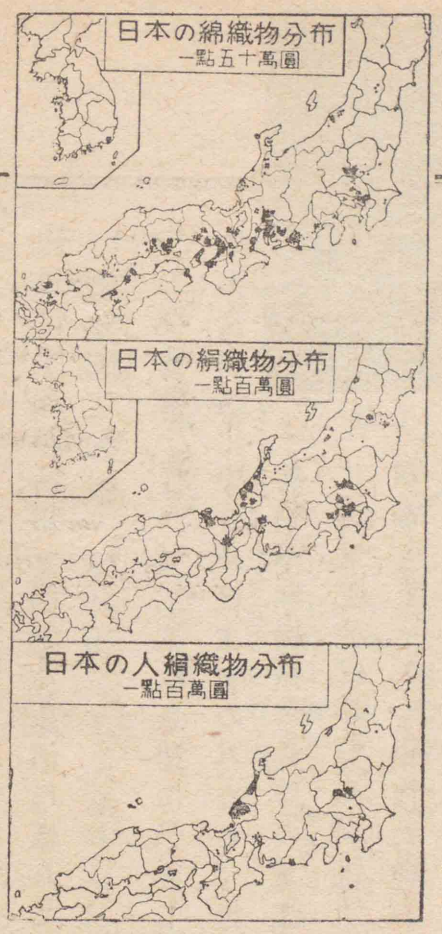
神以西や北九州は石炭に惠まれる。又**勞力**も中央日本以西は極めて多く、朝鮮から勞働者を得る便利もある。加之(シカノミナラズ)古來我が國民は手先が器用で、簡素な生活に慣れて勞銀が安く、工業人として優秀である。

(二) **工業地帶**　從つて工業は急速に勃興し、製絲、紡績、織物、食料品、化學等の**輕工業**のみならず、近時は、製鋼、船舶、車輛、機械器具等の**重工業**も急速に發達し、京濱、中京、阪神、北九州を**四大核心**として、之を東西に連ねた一帶が主工業地帶となり、尚各地に新興工業地が起つてゐる。



(三) **發電事業**　我が國は世界有數の水力發電量を藏してゐる。從つて、明治二十一年に初めて發電事業を始めてから急速の進歩をなし、

今は米・獨・英・加(カナダ)諸國に次ぐ電量を開發してゐる。そして工業の九割は電力により、其の電力の大部は水力電氣で、火力發電所は水力發電所の豫備となつてゐるに過ぎない。電氣は冬季に需要が多いが、我が國の河川は、この期に減水する憾(ウラミ)があるから、發電所は裏日本に設ける傾向が多い。



(四) **絹織工業**　歷史が古く、美術的の精巧品を生產し、福井・京都・石川・群馬等、中央日本の各地に盛である。

(五) **綿工業**　我が國は米國に次ぐ世界第二の綿業國で、綿製品の輸出は、英國を凌いで世界第一である。原料の棉花は、主に米國とインドとから輸入してゐるが、滿洲國及び北支で栽培を奬勵しつゝある。綿製品の輸出先はインド・南洋・アフリカ・南米其の他全世界に及び、棉花の輸入高と綿製品の輸出高とは大差なく、國民の衣料だけは綿工業の利益で賄(アガナ)つてゐる譯である。目下、事變のため、國內向の綿布に人絹・人纖を混用させ、棉花の輸入を少くして、綿製品の輸出を極力多くするやうに努力してゐる。

(六) **パルプ・製紙工業**　元富士山麓地方に盛であつたが、原料材の不足を告げると共に、樺太に移動し、更に朝鮮にも盛にならうとしてゐる。紙は文化商品といはれ、國民文化の向上と共に、益〻多く需要せられ、一人當りの消費高、米國は七十瓩、英國及びカナダは各五十瓩、獨・佛は各二十瓩、日本は十四瓩で、我が國は益〻需要を增加する形勢にあり、原料資源の獲得が必要である。

(七) **人絹・人纖工業**　京都・愛知・靜岡・福井の諸府縣に多い。人絹(レーヨン)は外國に於ても、最近二十年間に長足の進歩をしたもので、我が國

は立ち後れであるが、水質の關係で、琵琶湖畔と山陽の海岸とに多い。工場設備機械は却つて新式で、岩國・大津等の工場は世界第一といはれる。我が國の人絹は、綿絲よりも安く生産されるので、諸外國に歡迎され、今や米國と共に世界の首位を爭ふ人絹生産國となり、絹織物に混用される量が增加し、生産額の半が外國に輸出されてゐる。人絹に似たものに人繊（ステープルファイバー）（人造羊毛）がある。主な人絹工場に生産され、羊毛の輸入を防止するために、其の使用を奬勵され、今は其の産額は世界第一となつてゐる。

(七) **ゴム工業**　近時急に發達し、米・英に次ぎ世界第三位となつた。原料は總べて英領マレー及び蘭領東インドに仰いでゐる。ゴム加工は小工場でも經營せられるから、國民が器用で、賃銀の安い我が國には、大いに發展する可能性がある。製品は從來、靴類が多かつたが、最近はタイヤ類が增加し、阪神に盛である。近時人造ゴムの工業化に成功した。

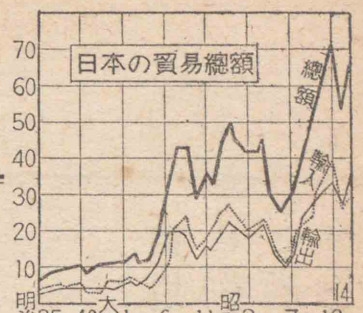
(九) **製鐵工業**　我が國の製鐵事業は近年急に發展し、今は半官半民の日本製鐵會社が殆ど一手に行つてゐる。今後滿洲國・北支・中支の鐵鑛が開發され、且そこにも製鐵事業が起れば我が國としては鐵材の不足の憂は無くなるであらう。

其の他　陶磁器・セメント・硝子・硫安等は世界第一で、苛性曹達・酒精等も長足の進歩を遂げ、殆ど自給自足してゐる。機械・船舶・飛行機等、重工業の發達も亦著しく、何れも世界有數の地位に上つてゐる。

第四節　商業

國內商業　我が國內商業は二大商圈に分れ、**東京**は東日本、**大阪**は西日本の中心である。近時**名古屋**の商圈が其の中間に起つて來た。

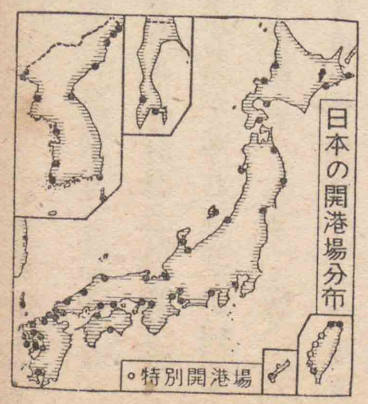
對外貿易　產物の增加、交通機關の進歩、國威の發揚等につれて、



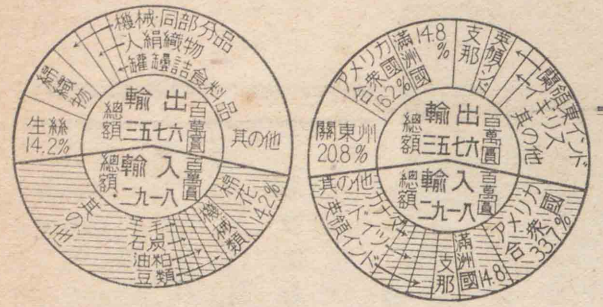
著しく發達した。現今**貿易額**は、年輸出約三十五億圓、輸入三十億圓、合計六十五億圓で、其の發展は各國羨望の的である。

我が國貿易發展の原因を考察すると、日本品が良質・安價であることが根本原因である。更に安價である原因は、爲替安と賃銀安とで、賃銀安の原因は、國民の生活樣式が簡素であるからである。日本品が良質であるのは、國民が勤勉で器用であること、及び我が工業が最新の發達にかかるので、設備が斬新で、能率を上げてゐることが大きな原因である。

開港は横濱・神戸・大阪の外、内地に三十六港、樺太に二港、臺灣に七港、朝鮮に十二港、南洋に五港、關東州に二港あるが、貿易額の八・三割以上は横濱・神戸・大阪で取引される。



日本の貿易
（昭和十四年）



輸出入品　輸出品の主なものは生絲・綿織物・機械類・人絹織物・罐詰食料品・木材等であり、輸入品の主なものは棉花・機械類・豆類・油糖・石炭・羊毛・生ゴム・パルプ等である。

貿易相手國　我が貿易の相手國は米國を第一とし、滿洲國・關東州・中華民國・英領インド・蘭領東インド等がこれに次ぐ。右の中、中華民國は、我が商品市場としての好條件を具備し、親日中央政權も成立したので、今後これとの貿易は著しく增大するであらう。しかし我が貿易中、圓ブロック（滿洲國・關東州・中華民國）内の諸國との取引は出超であるが、圓ブロック外の諸國との取引は數倍の入超である。この點は今後大いに改めて、圓ブロック外に出超となるやうに努力する必要がある。

近年圓ブロック以外の諸國は、我が輸出の目覺しい進展を防

止するため、關稅を高めたり、或は**求償主義**(自國品を買つてくれる高に應じて、其の國の商品を買ふこと)等を唱へてゐる。我が國の原料輸入先が、必ずしも我が製品のよい販路となつてゐないし、我が國產品を買ひ入れる國が、必ずしも我が原料輸入先ではない。これを調節して、我が貿易の圓ブロック以外への發展と永續性とを圖ることは、目下の急務である。

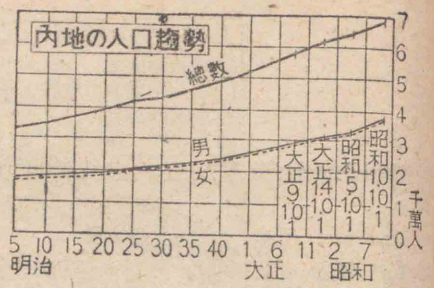
神前にぬかづく朝鮮半島の兒童

第五節　住民

(一)種族　我が國の　皇室は國民より先に存在せられ、臣民はこれから分れたもの、又は化を慕つて同化したもので、大和民族と稱せられ、國は一家をなし、君民一體、義は君臣で、情は父子の如く、曾て外侮を受けたことがなく、世界の優秀民族である。

(二)人口　總數は一億を超え、密度(一方粁)百四十五人、內地人口密度は、百八十一人を算し、東京・大阪二府は特に稠密である。男女の割合は略平均してゐる。

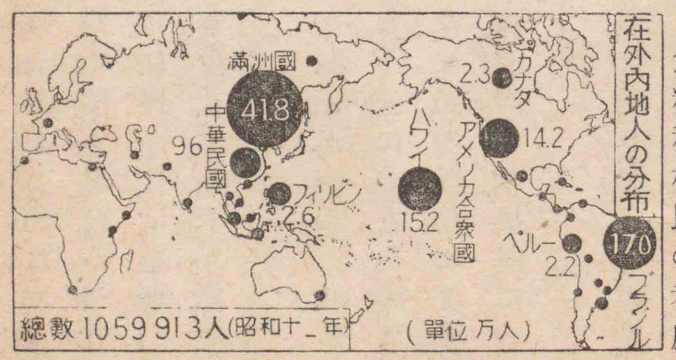
全版圖の人口增加は、年約百萬人で、人口・食糧・移植民の考慮が必要である。



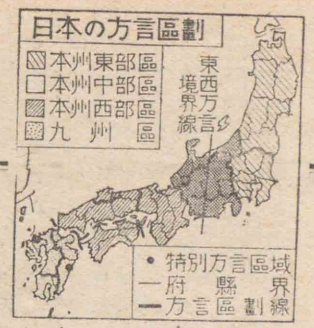
人口增加の二要素　人口の增加には、自然的增加(出生が死亡より多い)と、社會的增加(來住者が往住者より多い)との二がある。我が國の**自然的增加**は、人口一千に對し十五で、列强に比して多い。**社會的增加**は、樺太・關東州・臺灣等が多い。

內地人の植民(外地にある者)數は約百萬で、移民(外國にある者)數は約百五萬である。近年滿洲國・中華民國への移民が急增した。

(三)都市　我が國の都市は、城下町として發



達したものが多いが、近年、工業の發達につれ、人口が都市に集中する傾向が著しく、東京・大阪・名古屋・京都・神戸・横濱・京城はいづれも世界的都市となつた。從つてこれ等都市住民の住宅を增し、交通を整備し、道路を整へ、都市生活の弊害を少くするやうに努力する必要がある。



(四) **言語**　國語の統一は、國家の統治と密接な關係がある。我が國は德川時代に關所を設けて交通を不便にしたため、各地特有の方言を生じたが、教育の普及、交通の發達により漸次標準語に統一され、尙朝鮮・臺灣・滿洲國・中華民國に普及しつゝある。

(五) **神社・宗教**　神社は、皇室の御先祖を祀り奉る外、國民の祖先・忠臣・賢士の靈を祀り、總數十一萬餘に及び、特に近畿地方に多い。

宗教には神道・佛教・キリスト教等があるが、國民は信教の自由を有し、佛教が最も廣く行はれる。

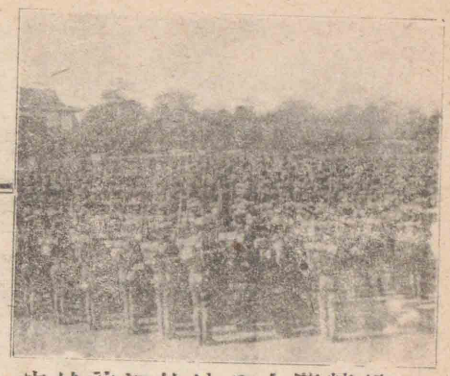
(六) **教育**　教育の隆替は、一國の消長と密接な關係がある。我が國の國民學校(小學校)は、到る處に設けられて、義務教育を施し、其の普及率は世界屈指である。其の他中等學校、官立・私立の大學、專門學校等は極めてよく備はつてゐる。

第六節　政治

(一) **國體・政體**　我が國は皇統連綿、世界絶美の君主國で、天皇は大權を統べ給ひ、其の下に、立法・司法・行政の三機關がある。

外交　條約國は四十餘で大使・公使を派遣し、要地に總領事・領事を駐在せしめてゐる。滿洲國とは防守同盟、伊・獨兩國とは三國同盟を結んでゐる。

(二) **國防**　全國皆兵の制度で、天皇が親しくこれを統率し給ひ、世界に其の精鋭を誇つてゐる。**陸軍**は東部・中部・西部・北部の四



銳精萬十る於に前城捧の宮

軍管區に分れ、別に朝鮮・臺灣・關東州・滿洲國に各〻軍司部を置いてある。

海軍は全國の海岸・海面を四海軍區に分つて、各鎭守府がこれを管轄し、又要地に要港が置いてある。

空軍は未だ獨立しないで陸海軍に分屬し、近年特に發達が著しく、其の補助として民間航空事業の振興を望まれてゐる。

(三)**財政**　一財政年度內に、國家が收入し、支出する金額を歲入・歲出といひ、歲入は、租稅・官業收入・官有財產收入が主で、歲出は、國防費・行政費を主とする。

我が國は近年、滿洲事變・支那事變が起り、國際情勢に應ずるため國債を增募したので、其の額は二百億圓に達した。

第四編　結論

我が國の特性　以上のことをまとめると、大凡次のやうになる。

自然的條件の特性

一、位置的條件
- アジア大陸の東部を占める
  - イ、守に便
  - ロ、大陸へ商業的・政治的進出に便
- 列島的位置
  - ハ、海洋發展：**水產業優勢、海軍・海運の發達**

二、地形的條件
- 褶曲斷層地域
  - イ、火山國・地震國：**勤勉・進取・優美の國民性**
  - ロ、鑛產資源の貧弱……
- 地域の狹小：
  - イ、耕地の過少：**集約農業**……
  - ロ、農產資源の貧弱：**人口過多**……

大陸發展の必然性

三、氣候的條件　溫帶季節風帶
- イ、米作の發達：**資性溫順な米食國民**
- ロ、黃色人種の國：**溫・寒・熱各地に移民可能**

即ち我が國が、世界無比の國家を築き上げたのは、地理學上からも必然の結果であることを知ることが出來る。

我が國の理想　我が國はかくの如く、生成發展の國であり、道義の國である。この道義を中外に施して、八紘を一宇の如くし、以て人類の福祉を增進し、無窮に發展を續けるのが我が國家の理想である。そしてこの理想を實現するには、先づ東亞を一宇の如き道義世界とし、更にこれをアジアに及ぼし、遂にこれを世界に及ぼさなければならぬ。

世界の現狀　然るに歐米各國は、國際道義を辨へず、自國のために他國の犧牲を强ひ、特に有色人種を劣等視して、迫害搾取を行ひ、道義日本の坐視するに忍びないものがある。この時に當り、我が國は先に滿洲國の獨立を迎へてこれと不可分の關係を結び、更に支那事變の戰捷によつて、親日中華民國新政權の成立を迎へ、遂に日·滿·支相提携し、東亞安定の偉業を完遂する地位を確立することが出來た。この日·滿·支を結ぶ經濟ブロック內の總人口は五億八千萬を算し、其の藏する資源は極めて豐富であるから、國民の奮起によつてこれを開發すれば、產業·貿易の殷賑を來し、國富の增進を見るべきは必至である。然し日·滿·支のブロック內には、尙ゴム·羊毛·棉·石油を始め、概して熱帶性產物の貧弱な憾がある。これが對策としても注意されなくてはならない。

日滿議定書調印
一體化

國民の覺悟　たま〳〵歐洲には第二次の大戰が起り、獨·伊の戰捷によつて、久しく世界各地に勢力を張つた英·佛陣營の壞滅を見ようとする情勢となつた。そして世界新秩序建設を目標とする日·獨·伊三國同盟が締結せられ、東洋に於ては我が國を指導者とする大東亞共榮圈の結成が著々と進行しつゝあつて、既に佛領インド支那には我が軍の平和的進駐を見、蘭領東インドに今後は外南洋方面にも

も經濟的進出が期待されるに至つた。この際に當り、我が實業家たるものは、其の從事する業がこの新東亞ブロック共榮の成果を擧げ、延いては富國强兵の根源となる所以を深く認識し、國策の線に沿つて其の本分をつくし、以て邦家の重大時局に處する覺悟がなくてはならない。

ももやそのくにのおやぐにもとつ國
すめらみくにはたふときろかも

（本居宣長）

鄉土地理の研究は、鄉土を正しく理解して鄉土愛の念を深くさせ、延いては愛國心を鼓舞させ、又他の地方の地理を學ぶ助となり、地理學習上大きな役目を持つてゐる。これが研究の方法は、先づ自分の住んでゐる家の研究から始め、それから學校とか其の附近とかを調べ、進んで自己の住む市町村、又は府縣等に及ぶべきである。今其の研究の着眼點を次に記さう。

一、家の地理

家の位置　自分の家はどんな地勢の處にあるか。隣地との高低の差はどうか。日當り風通しはどうか。周圍は田か畑か、他の家と接してゐるか。交通線との關係はどうか。前面の道路は鋪裝してあるか、土石道か、街路樹があるか、それは何の木か。

家の周圍の見取圖(平面圖・斷面圖)を描け。

家の構造　家はどんな材料か。板壁か、土壁か、どんな色か。屋根の形や材料。棟數と其の配置。周圍には垣があるか、溝があるか。垣はどんな材料・形か。家の間取はどうか。どの室には何處まで何時間日光が射し込むか、夏と冬とでそれがどう變るか。便所や井戸の位置。家の間取の見取圖を描け。

家の環境　周圍にどんな動植物があるか。季節によつて風はどの方向から吹き、積つた雪は何處が早く解けて何處が遲くまで殘るか。家から眺め得る周圍の風景をスケッチせよ。

二、學校の地理　家の地理に準じて考察せよ。

三、市町村及び府縣等の地理

鄉土の位置及び地勢　大體の經緯度、首府から見た方向・距離。地勢上から見た位置。水との關係卽ち河・湖・海岸への距離、飲料水の所在。灌漑及び工業用水の狀態。地下水の狀況等。

地面の利用　田・畑・森林等の廣さの割合。作物はどんなもので年中どのやうに耕作されてゐるか、二毛作か三毛作か。建築物はどんなに分布し、二階・三階等がどの位あるか。公園の位置・廣さ。何にも利用しない空地があるか。

氣候　氣溫・雨量について、少くとも一年間觀測を續けて、其の統計をとること。

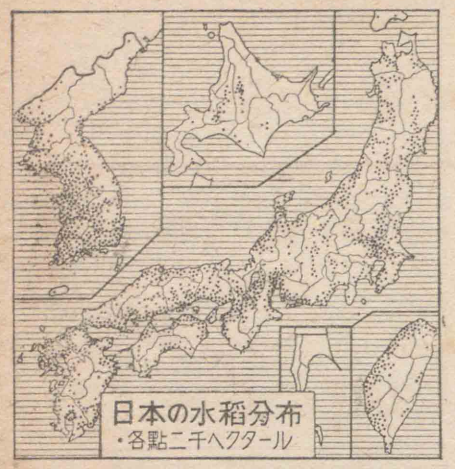
交通線　道路・鐵道・水路等の所在・方向・構造等。どの程度に利用されてゐるか。交通の不便な處はないか、如何に改良すればよいか。

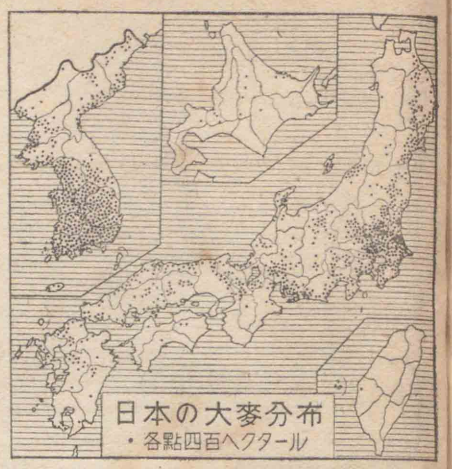
聚落の形　外形と街路の樣式。商業區・工業區・住宅區・官衙區・農業區・漁業區等の別。家の高さの分布。

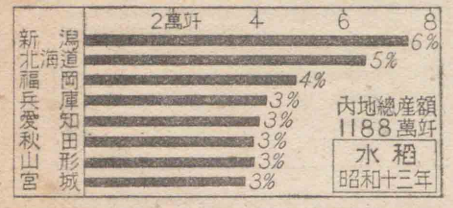
人口　總數、職業別・年齡別・男女別・出生地別の數。出生・死亡・出寄留・入寄留の數、增加又は減少の割合。人口密度。

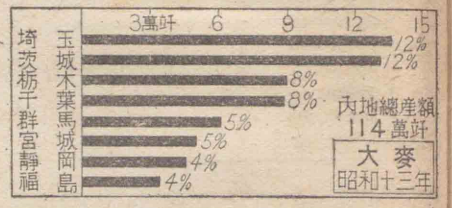
經濟形態　住民の職業。生產力。主な物產。農業については

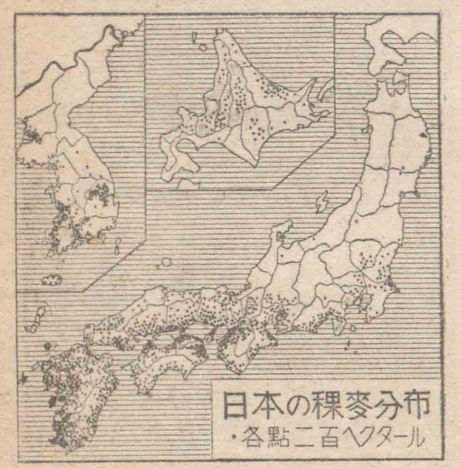
農産物

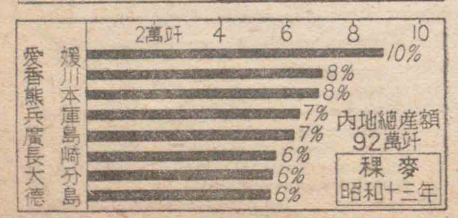


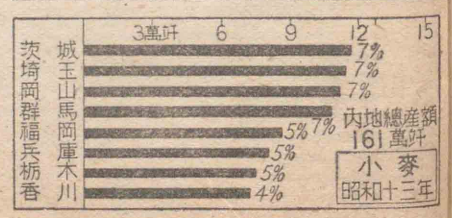








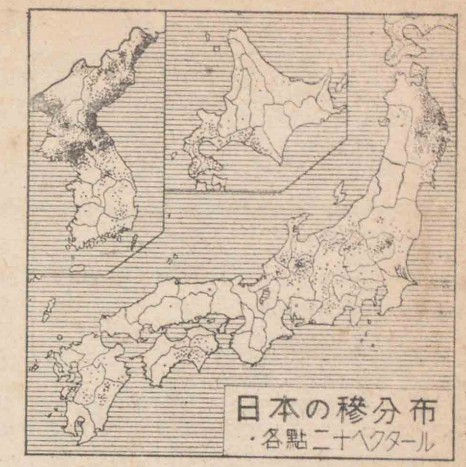


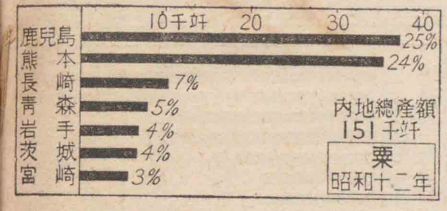


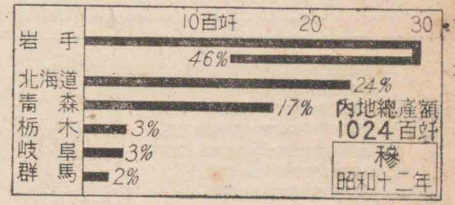
耕地面積、主要作物、肥料、灌漑用水、作物の輪轉、溫室、溫床、農繁期と農閑期、副業の狀況等。**漁業**については漁場の位置、漁船の數、漁獲の方法、主な漁獲物、水產製造の模樣、販路、輸送の方法等。**工業**については其の種類、從業人員、原料の產地、製品の販路、動力は何處から取寄せるか、勞働者の男女、年齡別、出身地、通勤方法等。**商業**については其の種類、品物の仕入先、販賣先、運搬方法、同業者の數と其の分布狀態、市日、緣日、夜店の模樣等。

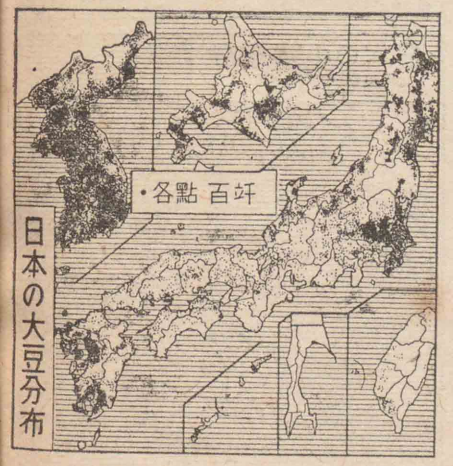
生活　**衣服**の材料、形式、それは男女、職業、年齡、季節等によつて如何に變化するか。**食物**や住居について特異の點はないか。水、燃料、煖房の方法、照明等。風俗、習慣。一年中の**行事**を詳しく記錄せよ。**宗教**の種類と信者の數等。

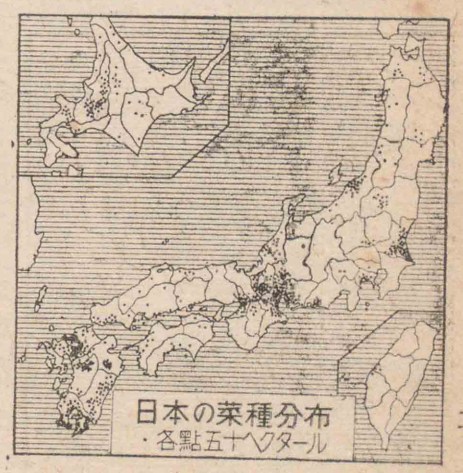
かやうにして調査した事項を、位置、地勢、氣候、原始產業、交通、工業、商業、處誌、生活、特性の順序に整理して見よ。

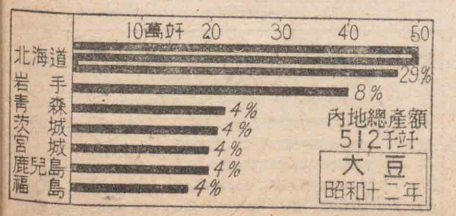


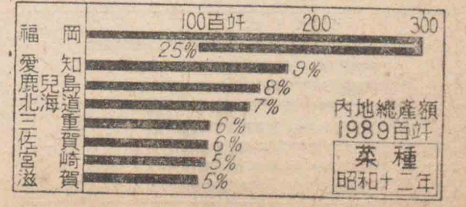












府縣別人口・密度及內地主要都市人口

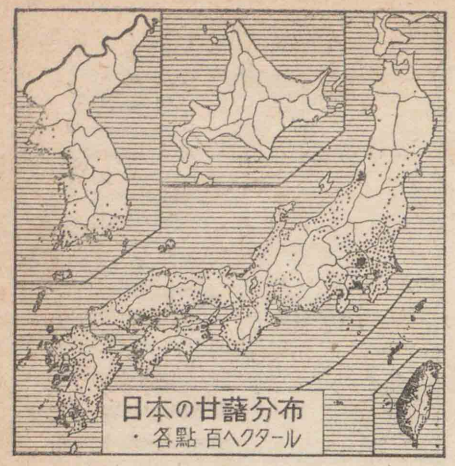
（昭和十五年國勢調査及ビ以後ノ變動）　括弧內ハ人口密度、單位人。

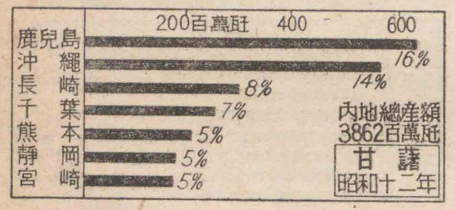
關東地方				成田町	一・二	土浦市	三・六
東京	七三五(三四九)	萬人	密度人	勝浦町	一・二	石岡町	一・九
東京市	六七八・八			流山町	〇・五	結城町	一・五
八王子市	六・二			太田町	〇・八	水澤町	三・四
立川市	三・三			**奥羽地方**		一ッ關町	一・一
青梅町	一・一			**福島**	一六三(一〇四)	大船渡町	〇・五
淺川町	〇・四			郡山市	五・七	平泉村	〇・五
神奈川	三八(九三〇)			福島市	四・八	**青森**	一〇〇(一〇四)
横濱市	九六・八			若松市	四・八	青森市	九・九
川崎市	三〇・〇			平市	三・〇	八戸市	七・三
橫須賀市	一九・三			內郷村	三・二	弘前市	五・一
小田原市	五・三			白河町	二・二	三本木町	一・三
平塚市	四・三			七戸町	一・〇	大湊町	一・〇
鎌倉市	四・〇			須賀川町	一・八	**秋田**	一〇五(九〇)
藤澤市	三・六			小名濱町	一・五	秋田市	六・一
浦賀町	二・八			中村町	一・四	能代市	三・七
逗子町	二・四			原町	一・二	横手町	二・二
大磯町	一・〇			二本松町	〇・九	大館町	一・八
千葉	一五八(三四)			川俣町	〇・八	土崎港町	一・八
千葉市	九・二			三春町	〇・七	小坂町	一・四
銚子市	六・二			四ツ倉町	〇・七	船川港町	〇・七
市川市	五・八			**宮城**	二四〇(一七五)	尾去澤町	〇・六
船橋市	五・〇			仙臺市	三二・三	**山形**	一三〇(一〇〇)
館山市	二・八			石卷市	三・六	山形市	六・九
野田町	一・八			鹽釜町	三・五	米澤市	四・八
佐原町	一・七			氣仙沼町	一・七	鶴岡市	三・五
木更津町	一・六			鮎川村	〇・五	酒田市	三・二
				岩手	一〇九(七二)		

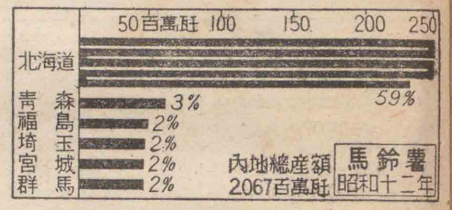
茨城	一六二(二六九)			日立市	八・二	水戸市	六・六
栃木	一三一(八七)			宇都宮市	八・七	足利市	四・八
栃木市	三・一			日光町	二・五	足尾町	二・三
小山町	一・四			鹽原町	〇・四	那須村	〇・四
群馬	一三〇(一〇五)			前橋市	八・六	桐生市	八・六
秩父町	二・三			高崎市	七・二	伊勢崎市	四・〇
川越市	三・八			富岡町	一・二	藤澤市	三・六
熊谷市	三・九			川口市	九・七	浦和市	五・九
埼玉	一六〇(四三)			流山町	〇・五	大宮市	五・九
千葉	一五八(三四)			千葉市	九・二	銚子市	六・二
市川市	五・八			船橋市	五・〇	館山市	二・八
野田町	一・八			佐原町	一・七	木更津町	一・六
東京	七三五(三四九)	萬人	密度人				
東京市	六七八・八						
八王子市	六・二						
立川市	三・三						
青梅町	一・一						
淺川町	〇・四						
神奈川	三八(九三〇)						
横濱市	九六・八						
川崎市	三〇・〇						
橫須賀市	一九・三						
小田原市	五・三						
平塚市	四・三						
鎌倉市	四・〇						
藤澤市	三・六						
浦賀町	二・八						
逗子町	二・四						
大磯町	一・〇						

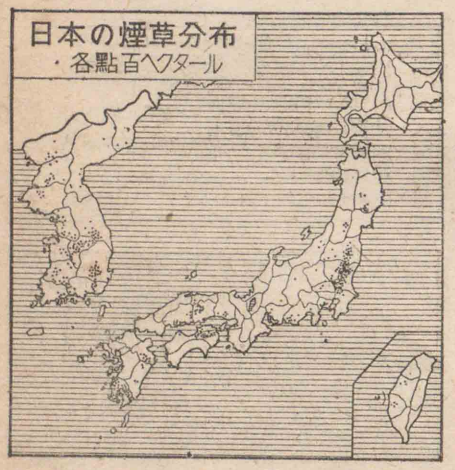
新庄町	二・〇			多治見市	二・六	雨津町	〇・八
本州中部地方				中津町	一・七	**富山**	一三(一九三)
靜岡	二〇一(一六〇)			**山梨**	八二(一九三)	富山市	三・七
靜岡市	二一・二			甲府市	一〇・二	高岡市	五・九
濱松市	一六・六			谷村町	〇・九	新湊町	三・四
清水市	六・八			身延町	〇・五	氷見町	一・八
沼津市	五・三			勝沼町	〇・二	伏木町	一・四
三島市	三・三			**長野**	一七一(一三六)	魚津町	一・三
熱海市	二・四			長野市	七・六	滑川町	一・〇
大宮町	二・六			松本市	七・二	**石川**	七六(七八)
伊東町	二・一			岡谷市	四・〇	金澤市	一八・六
小山町	一・三			上田市	三・五	小松市	五・一
興津町	一・一			飯田市	二・八	七尾市	二・九
下田町	〇・八			諏訪市	二・四	輪島町	一・三
修善寺町	〇・六			須坂町	一・九	大聖寺町	一・二
愛知	二六(六三)			下諏訪町	一・七	**福井**	六四(一五)
名古屋市	一三二・八			小諸町	一・三	福井市	九・四
豊橋市	一四・二			**新潟**	二〇六(八四)	敦賀市	三・一
岡崎市	八・四			新潟市	一五〇・〇	大野町	一・三
一宮市	七・〇			長岡市	六・六	勝山町	一・三
半田市	四・九			三條市	三・六		
瀨戸市	四・五			高田市	三・〇		
豊川町	一・一			柏崎市	二・九		
岐阜	三六(二一)			新津町	二・八		
岐阜市	一七・二			直江津町	一・五		
大垣市	五・六			小千谷町	一・三		
高山市	三・一			十日町	一・三		
				相川町	〇・九		
滋賀	七〇(一四)						
大津市	六・七						
彥根市	三・六						
長濱町	一・六						
八幡町	一・二						
日野町	〇・六						

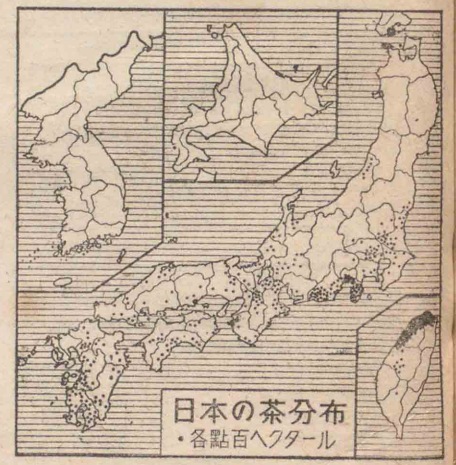
近畿地方

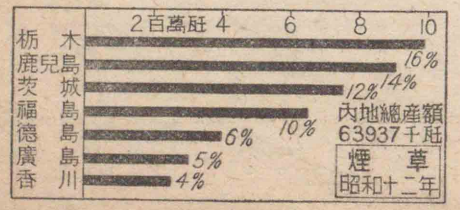


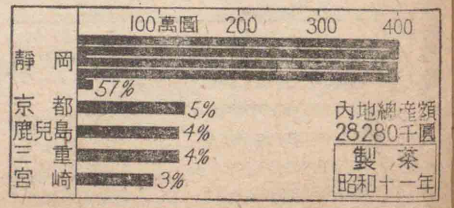








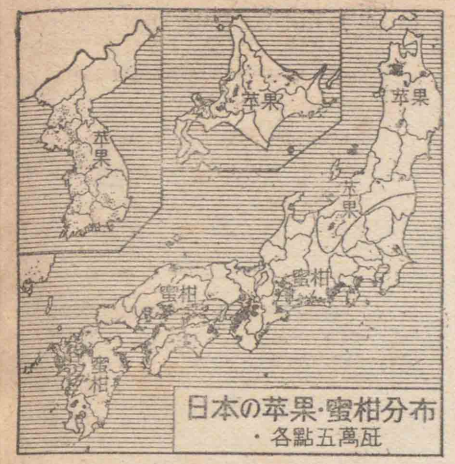




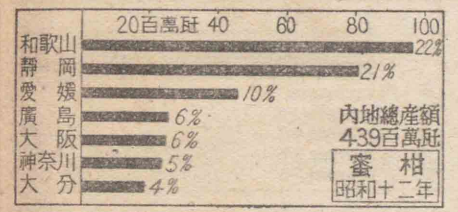
米原町	〇・六	堺市	一八・二	津山市	三・五	美保關町	〇・二
三重 二一〇(二〇〇)		布施市	一三・四	倉敷市	三・二	**鳥取** 四八(一三九)	
津市	六・八	吹田市	六・五	玉島町	二・三	鳥取市	四・九
四日市市	六・三	岸和田市	四・六	笠岡町	一・四	米子市	四・七
宇治山田市	五・二	豐中市	四・五	高梁町	〇・九	倉吉町	一・六
桑名市	四・一	**兵庫** 三三(三八七)		**廣島** 八七(二三三)		境町	〇・七
松阪市	三・五	神戸市	九六・七	廣島市	三四・三	二朝村	〇・二
上野市	三・二	吳市	二七・五	吳市	二七・五	**四國地方**	
鳥羽町	〇・七	尾崎市	一八・一	福山市	五・六	**德島** 七三(一七四)	
京都 一三(三七四)		西宮市	一一・一	尾道市	四・八	德島市	一一・九
京都市	一〇八・五	姬路市	一〇・四	三原市	三・九	小松島町	一・八
東舞鶴市	四・九	明石市	四・七	**江田島村**	一・七	撫養町	一・七
福知山市	三・一	蘆屋市	三・九	三次町	〇・六	池田町	〇・七
舞鶴市	二・九	飾磨市	三・五	嚴島町	〇・四	脇町	〇・七
宮津市	一・三	伊丹市	三・三	**山口** 三九(二二四)		**香川** 七三(二九三)	
奈良 六二(一六八)		洲本市	二・九	下關市	一九・六	高松市	一一・一
奈良市	五・七	垂水町	三・三	宇部市	一〇・〇	丸龜市	三・一
郡山町	一・七	赤穗町	二・二	防府市	五・八	坂出町	二・六
和歌山 八六(一二)		加古川町	二・一	岩國市	五・一	多度津	二・五
和歌山市	一九・五	豐岡町	一・五	小野田市	四・六	琴平町	〇・七
新宮市	三・二	西脇町	一・二	德山市	三・八	**愛媛** 二八(一〇八)	
海南市	二・九	生野町	〇・八	山口市	三・四	松山市	一二・七
田邊町	二・八	出石町	〇・四	下松市	三・三	今治市	五・五
箕島町	一・四	城崎町	〇・三	萩市	二・二	宇和島市	五・五
湯淺町	一・二	有馬町	〇・二	**島根** 七四(一二)		新居濱市	四・二
高野町	〇・七	**中國地方**		松江市	五・五	西條市	三・一
串本町	〇・七	**岡山** 一三三(八九)		濱田市	三・二	八幡濱市	三・一
白濱町	〇・四	岡山市	一六・三	出雲町	三・七	大洲町	一・四
大阪 四七九(二六四二)		玉野市	三・五	大社町	〇・九	(一〇〇)	
大阪市	三五・二			西鄉町	〇・五		

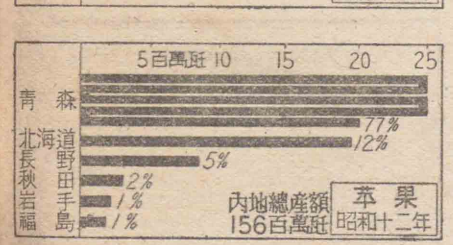
高知市	一〇・六	勝本町	〇・六	首里市	一・七		
伊野町	〇・八	**大分** 九六(一四四)		**北海道地方**			
九州地方		大分市	七・六	別府市	六・四	札幌市	二〇・六
福岡 三〇九(六二六)		日田市	三・六	函館市	二〇・三		
福岡市	三〇・六	佐伯市	三・二	小樽市	一六・四		
八幡市	二六・一	中津市	二・九	室蘭市	一〇・七		
小倉市	一七・八	臼杵町	二・一	旭川市	八・七		
大牟田市	一七・二	佐賀關町	一・六	釧路市	六・三		
門司市	一三・八	**熊本** 一三七(八四)		帶廣市	三・六		
久留米市	八・九	熊本市	一九・四	夕張町	六・四		
若松市	八・八	八代市	三・三	美唄町	五・四		
戶畑市	八・四	水俣町	二・八	岩見澤町	三・三		
直方市	四・七	人吉町	一・八	網走町	三・二		
飯塚市	四・六	隈府町	〇・九	野付牛町	三・二		
後藤寺町	三・〇	**宮崎** 八四(一〇九)		苫小牧町	二・三		
佐賀 一〇〇(二八六)		延岡市	七・九	根室町	二・二		
佐賀市	五・〇	宮崎市	六・六	稚內町	二・二		
唐津市	三・一	都城市	五・八	留萌町	二・〇		
鳥栖町	一・四	小林町	三・〇	江別町	一・九		
伊萬里町	〇・九	**鹿兒島** 一五九(一七五)		余市町	一・九		
有田町	〇・六	鹿兒島市	一九・〇	瀧川町	一・六		
長崎 一三七(三三六)		鹿屋市	四・七	岩內町	一・五		
長崎市	二五・二	川內市	三・四	厚岸村	一・四		
佐世保市	一〇・五	枕崎町	二・九	俱知安町	一・二		
諫早市	四・四	名瀨町	二・一	池田町	一・二		
島原市	三・〇	指宿町	二・〇	紗那村	〇・一		
平戶市	一・二	山川町	一・二				
福江町	一・一	**沖繩** 五七(三九)					
嚴原町	〇・九	那覇市	六・五				

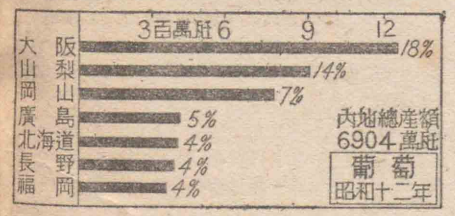
日本の苹果・蜜柑分布

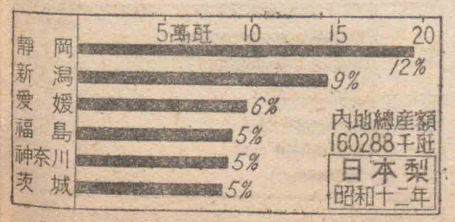


・各點五萬瓩



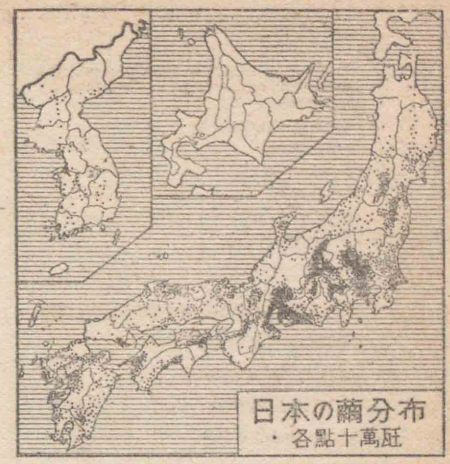


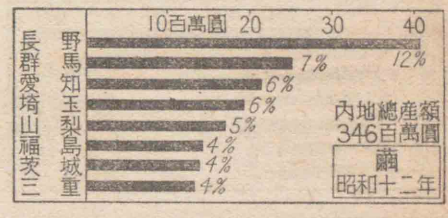


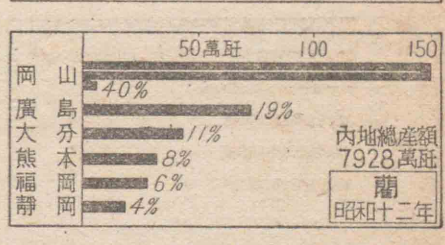


日本の繭分布

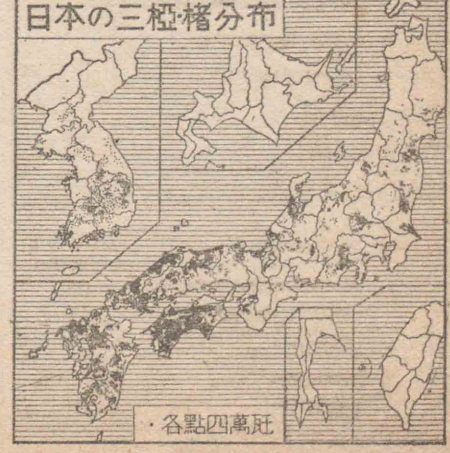
・各點十萬瓩





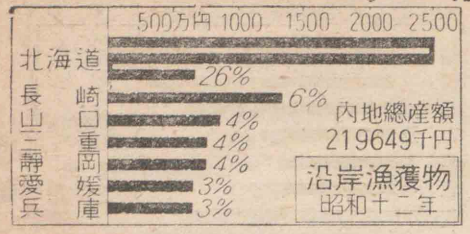


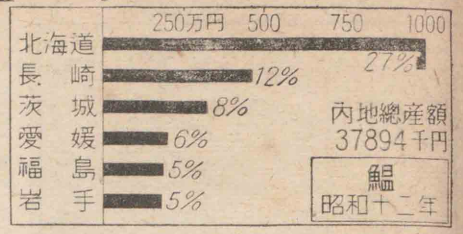
日本の三椏・楮分布

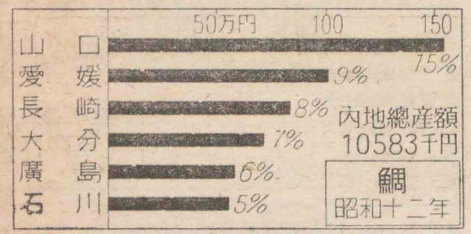


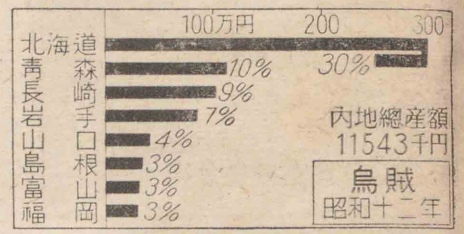
・各點四萬瓩

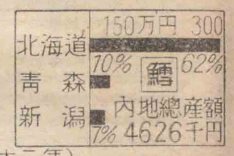
水産物

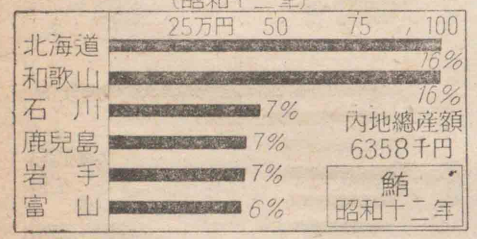


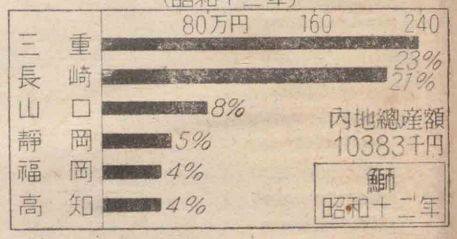


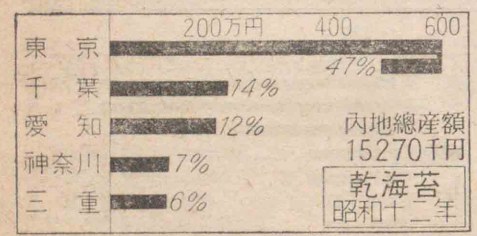


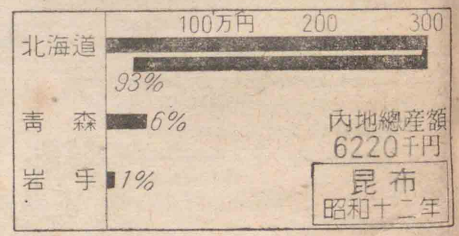


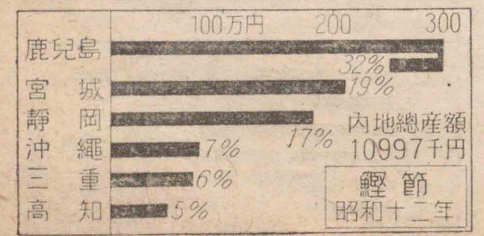


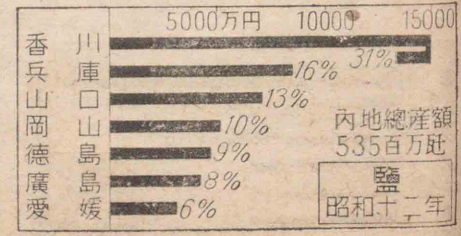


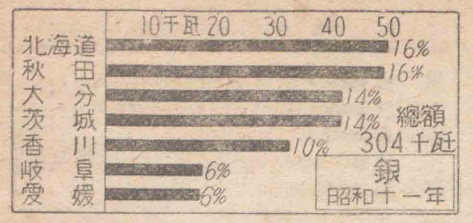


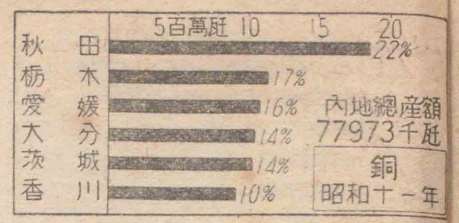


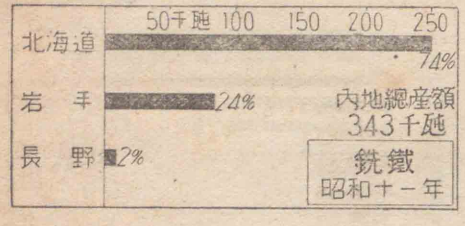


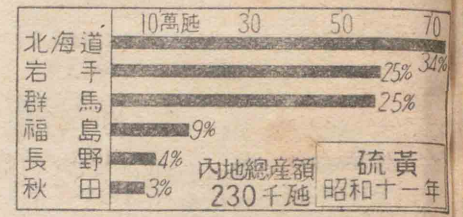


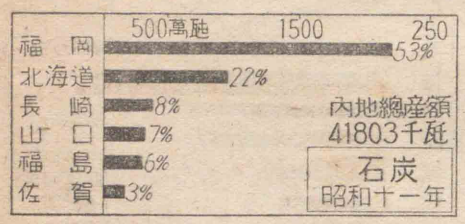


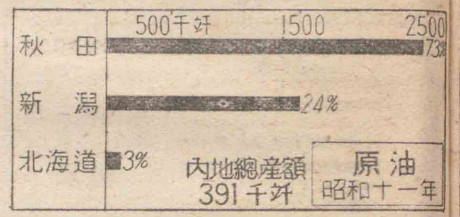




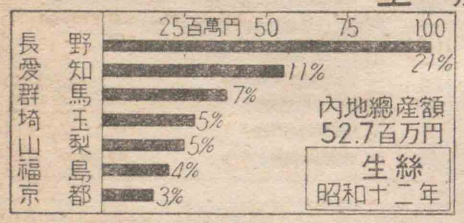


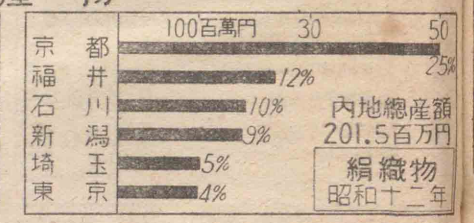


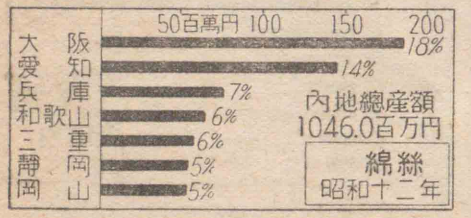


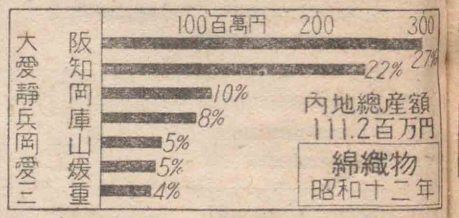


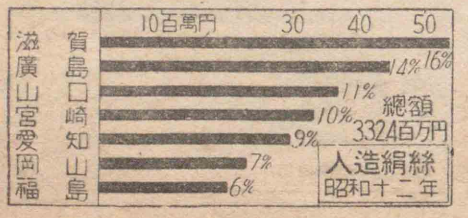
工産物

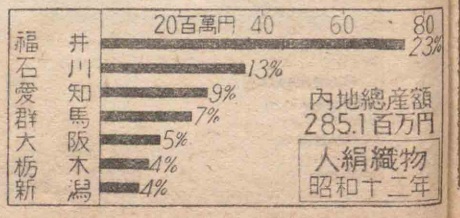




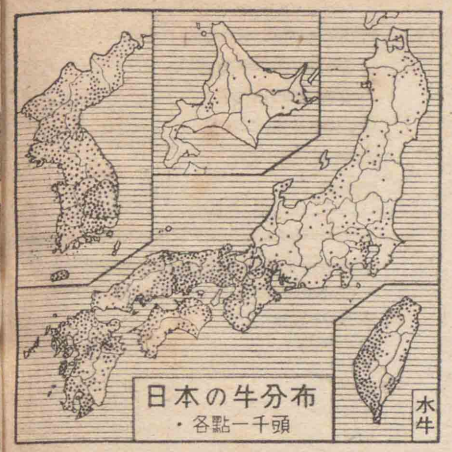


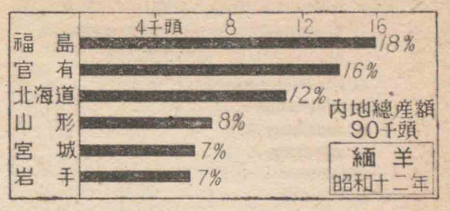


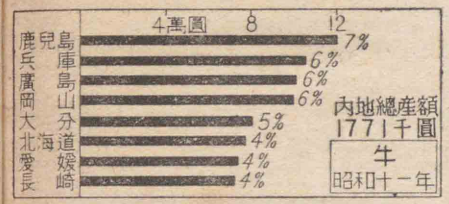


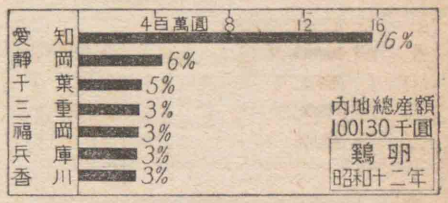


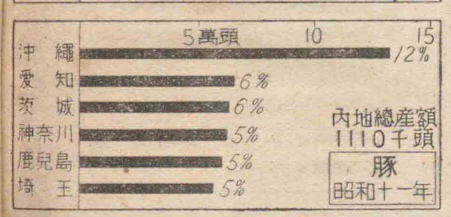
牧畜

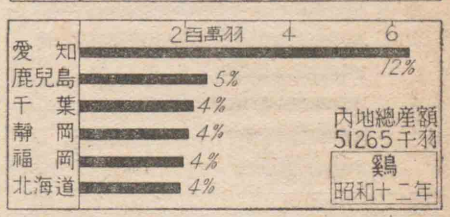




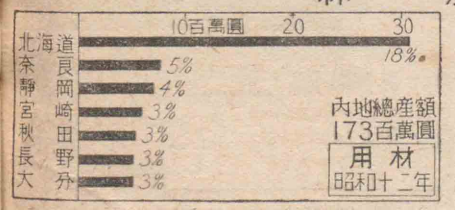


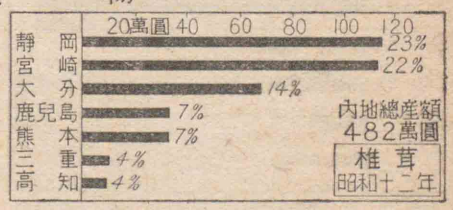




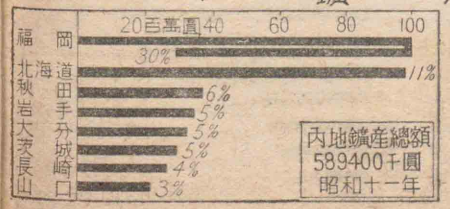


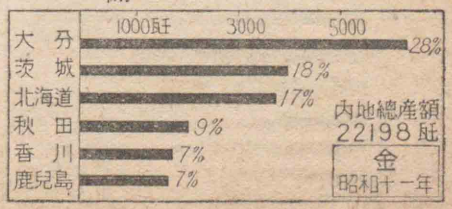
林産物





鑛産物





昭和十二年七月五日印刷
昭和十三年一月廿七日訂正再版印刷
昭和十三年十月廿五日修正三版印刷
昭和十四年二月五日訂正四版印刷
昭和十五年十二月十五日修正五版印刷
昭和十六年九月二十七日修正六版印刷
昭和十六年九月三十日修正六版發行

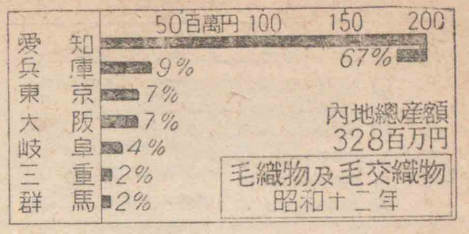
昭和十二年七月八日發行
昭和十三年一月三十日訂正再版發行
昭和十三年十月廿八日修正三版發行
昭和十四年二月八日訂正四版發行
昭和十五年十二月十八日修正五版發行

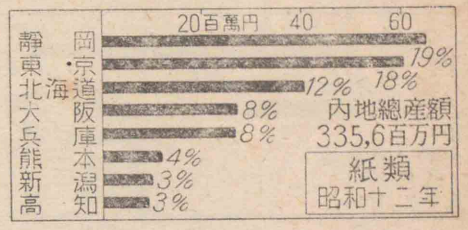
新令實業準據
新選地理 日本篇 修正版
（略名）帝國守屋實日地
定價金壹圓

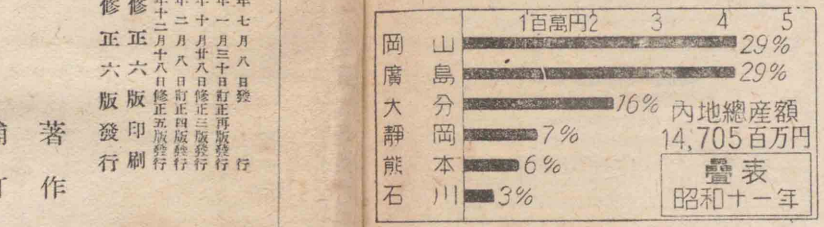
著作者 守屋荒美雄
補訂者 守屋美智雄
東京市麹町區飯田町二丁目二十番地
發行者 中等學校教科書株式會社
代表者 山本慶治
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷者 大日本印刷株式會社
代表者 石村勳

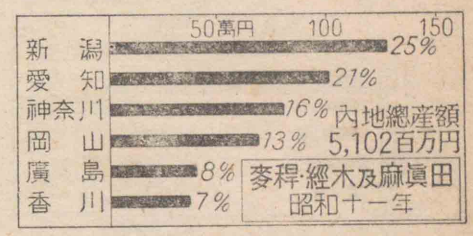
發行所
東京市麹町區飯田町二丁目二十番地
中等學校教科書株式會社
日本出版文化協會會員番號一一七五二二

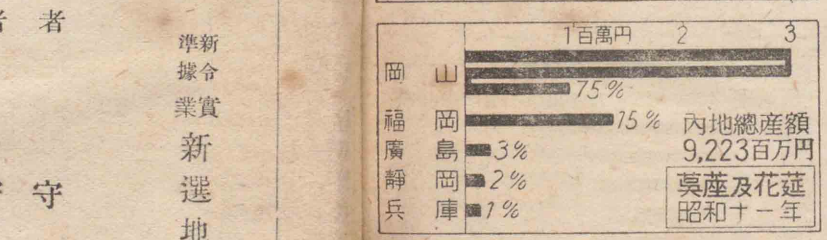
社會科教授ノ參考ニ供スル爲メ
株式會社 中等學校教科書株式會社
給配町 東京市麹町區飯田町二丁目二十番地
配給路 日本出版配給株式會社
販賣區 東京市神田區淡路町二丁目九番地
出版 大日本印刷株式會社
元 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
發行 中等學校教科書株式會社

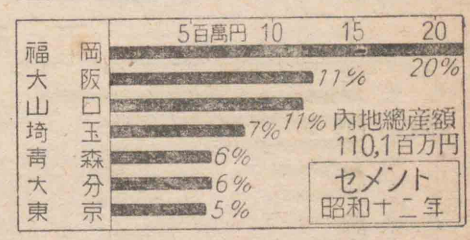


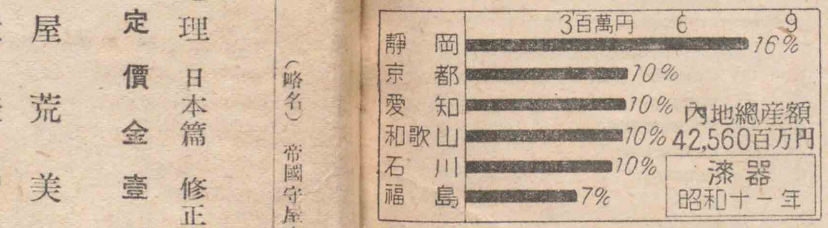


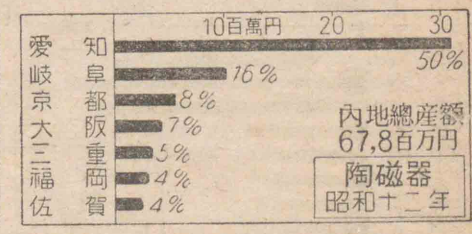


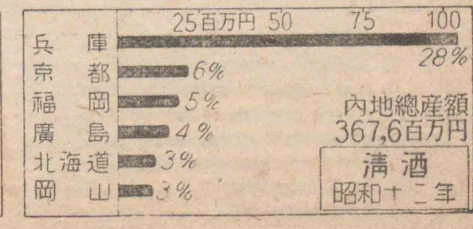




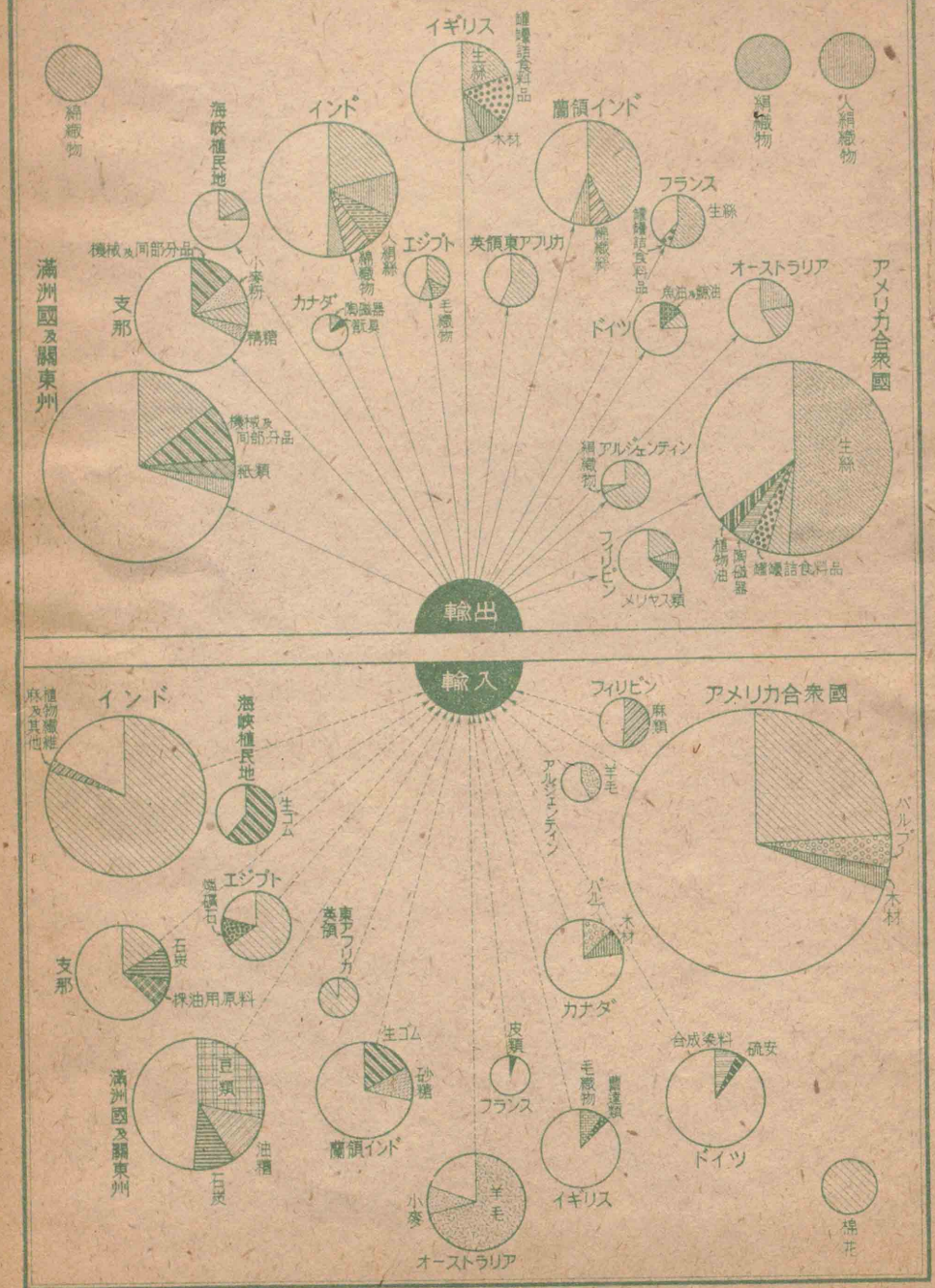




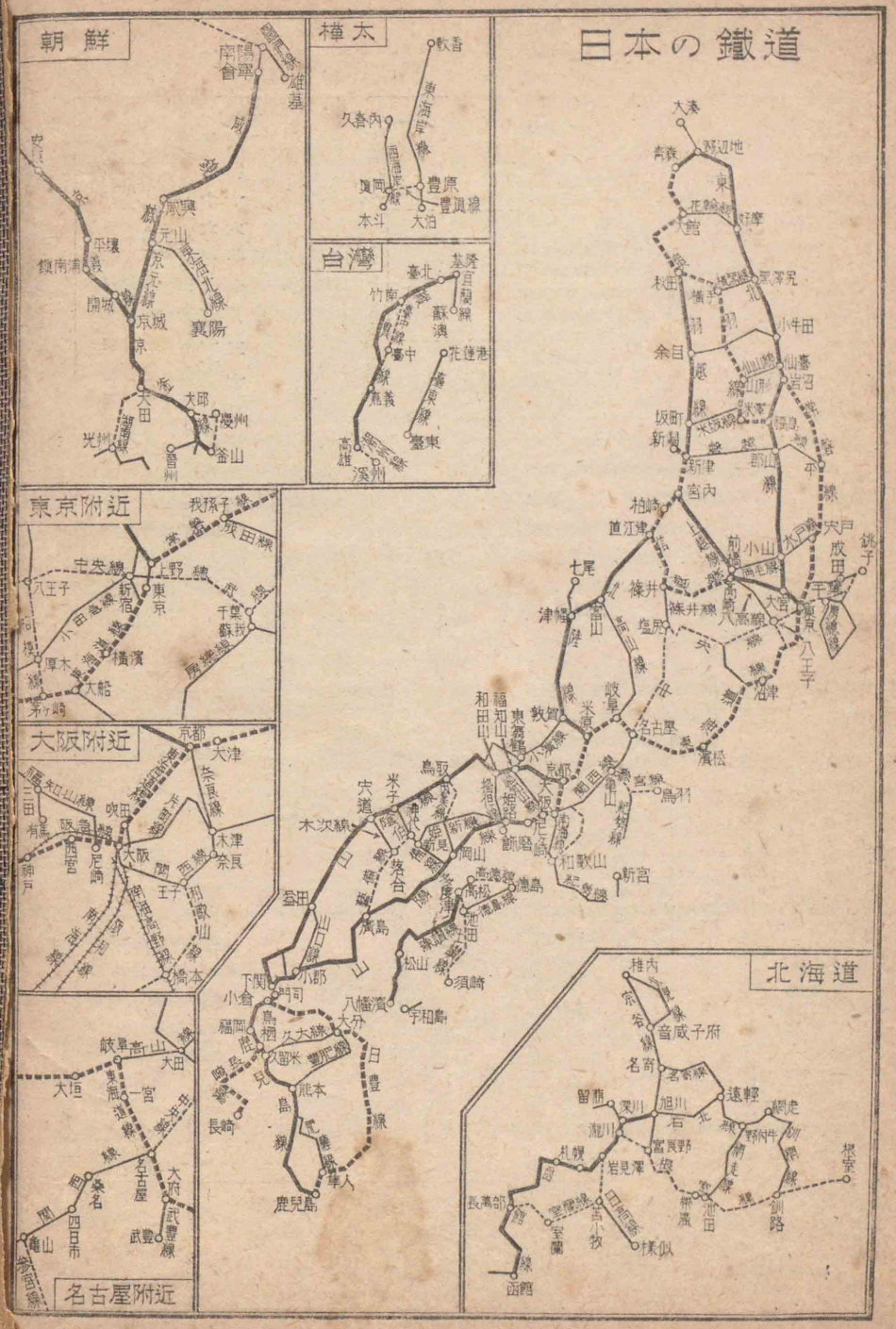


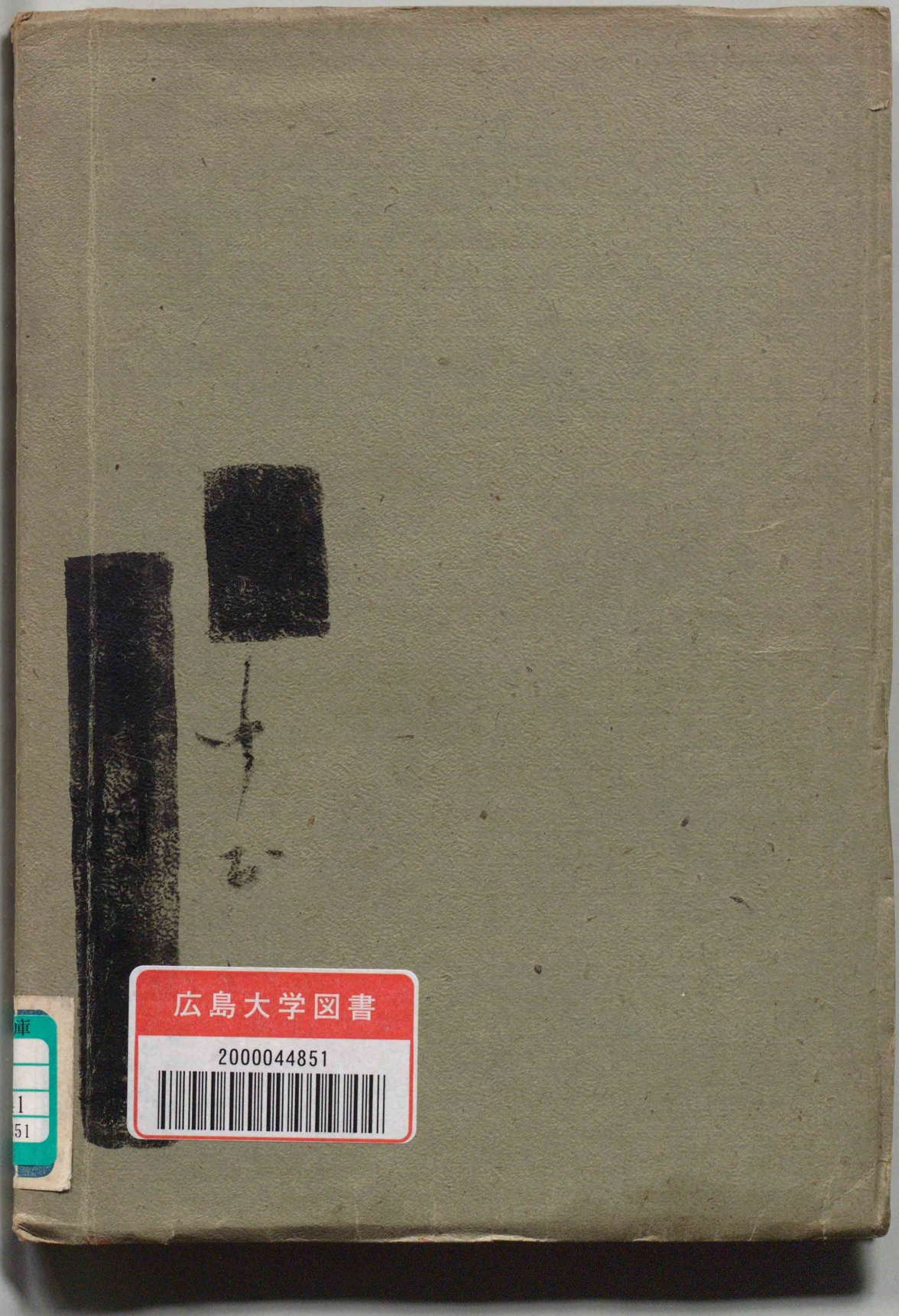


本邦重要輸出入品相手國別（昭和十二年）



日本の鐵道





広島大学図書
2000044851